Pioneer

AV デジタル サラウンド・アンプ

VSX-D710S

取扱説明書

メールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/members/

お買い上げいただきました製品についての「お客様オンライン登録」をお願いいたします。
ご登録は上記 URL にアクセスしてご利用ください。
上記 URL からメールサービスにもご登録いただきますと各種製品情報をはじめ、
キャンペーン / イベント情報等のご案内をさせていただきます。
（i モード及び一部のインターネット対応携帯電話からもご利用いただけます。）

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に、本書および別冊の「安全上のご注意」は必ずお読みください。
なお、「取扱説明書」および「安全上のご注意」は「保証書」、「ご相談窓口·修理窓口のご案内」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意 付属の「安全上のご注意」もお読みください

安全に正しくお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

●記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け)が描かれています。

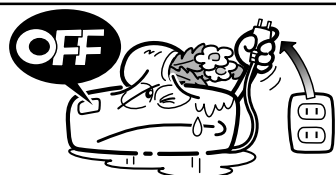
⚠警告

〔異常時の処置〕

プラグを抜け

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜け

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜け

本機の特長

◆DTS（デジタルシアターシステム）デコーダー搭載

DTSとは、映画館で採用されているデジタルサラウンドシステムのことです。DTS音声で収録されているDVD、LD、CDソフトを本機で再生することにより、映画館、コンサートホールの迫力が手軽にご家庭でお楽しみいただけます。

◆ドルビーデジタルデコーダー搭載

ドルビーデジタル音声で収録されているDVDやLDソフトを本機で再生することにより、映画館、コンサートホールの迫力が手軽にご家庭でお楽しみいただけます。

◆ADVANCED THEATERモード

ドルビーデジタルサウンドやDTSサラウンドをコンサートホールのような臨場感(MUSICAL)、映画館のような雰囲気(DRAMA、ACTION)などでお楽しみいただけます。

◆多彩な音場効果［DSPモード］

6種類の音場で楽しむことができます。

◆ミッドナイトリスニングモード

夜間など、小音量でのサラウンド再生では、サラウンドの効果が不十分になり、味気なくなってしまうことがあります。ミッドナイトリスニングモードにすると、小音量でもサラウンドの効果を十分に楽しむことができます。

◆光デジタル出力を搭載

デジタル入力された信号をそのまま出力します。デジタル録音機器と接続して、本機を通してデジタル録音することができます。

◆5.1チャンネル入力

5.1チャンネルのアナログ出力を持ったDVDプレーヤー、ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーなどを接続することができます。

◆100W 5ch イコールパワーのアンプ搭載

ドルビーデジタルやDTSの高音質を再生するため、5ch イコールパワーのアンプを搭載しています。

◆マルチコントロールリモコンで他社製品もコントロール

プリセット機能および学習機能を搭載したマルチコントロールリモコンで他社製品も操作できます。

◆チューナーを搭載

お好みの放送局を合計30局まで記憶することができます。

◆省エネルギー設計製品

本製品は、スタンバイ時消費電力値を1Wに抑えた設計となっております。

目　次

「ホームシアターを簡単に楽しむ」は7～12ページになります。

ご使用の前に

1.　ホームシアターを簡単に楽しむ

2.　準備

3.　接　続

4.　セットアップ

5.　本機の操作

6.　他機器の操作

7.　その他

8.　各部の名称と働き

1 2 3 4 5 6 7 8

目　次

「ホームシアターを簡単に楽しむ」は7～12ページになります。

ご使用の前に

1.　ホームシアターを簡単に楽しむ

2.　準備

3.　接　続

4.　セットアップ

5.　本機の操作

6.　他機器の操作

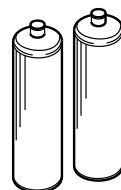
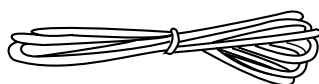
7.　その他

8.　各部の名称と働き

ご使用の前に

付属品を確認する

リモコン

AMループアンテナ

単3形乾電池(2本)
(IEC R6P)

FMアンテナ

- 取扱説明書(本書)
- 安全上のご注意
- 保証書
- ご相談窓口・修理窓口のご案内

本書の使いかた

本書は、VSX-D710Sの操作に必要な各種セットアップと、操作方法について説明しています。

1. ホームシアターを簡単に楽しむ

DVDを簡単に楽しむための簡易ガイドです。(7～12ページ)

2. 準備

設置の注意、リモコンに電池を入れるなど、使う前の準備について説明しています。(13～14ページ)

3. 接　続

本機に必要な機器を接続します。(15～24ページ)

4. セットアップ

「サラウンドを楽しむための設定」(25～33ページ)でサラウンドシステムをセットアップしてください。

5. 本機の操作

本機と付属のリモコンの基本的な操作方法について説明します。(34～47ページ)

6. 他機器の操作

「他機器を操作するためのリモコン設定」(50～53ページ)で、付属のリモコンで他機器を操作可能にし、「他機器の操作一覧表」(56～57ページ)で他機器の操作について説明しています。

7. その他

故障時の対処方法、本機の仕様、保証とアフターサービスについて記載しています。(58～68ページ)

8. 各部の名称と働き

各ボタン、コントロール、インジケーター機能について説明しています。(69～71ページ)

マークの意味

操作上の注意点、アドバイスなど補足的な説明。

ボタン、ディスプレイ表示が点灯。

ENTERボタンを指で押す。

ホームシアターを簡単に楽しむ <基礎知識編>

ホームシアターを簡単に楽しむ前に、まず知っておきたいこと

DVDの標準音声フォーマットは、大きく分けて「**ドルビーデジタル**」と「**DTS**」の2つが現在主流とされています。

● ドルビーデジタルとは．．

DVDの標準音声フォーマットのことです。モノラルやステレオで記録されているソフトもあれば、現在最も主流とされているドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトもあります。ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトとは、5つのチャンネルの個別にそれぞれのシーンに合った音声が記録されていて、サブウーファーから出力される低音も記録されているソフトのことを言います。このソフトを、本機を通して再生することで臨場感あふれるマルチチャンネル再生をお楽しみいただくことができます。

● DTSとは．．

DTSとは、デジタルシアターシステム(Digital Theater Systems)の略で、5.1chのデジタル・サラウンド録音再生方式です。DTSデジタル・サラウンドで記録されたDVDソフトも、ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)で記録されているソフトと同様に5.1chで音声を楽しむことができます。

● DVDソフトの音声記録方式を確かめるには．．

DVDソフトのパッケージを確認してください。（全てのソフトに以下と同じ表示がされているとは限りません。）

ドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

日本語/5.1ch サラウンド

1.英　語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（5.1ch サラウンド）

次ページ②をご覧ください。

ドルビーデジタル5.1chで記録されていないソフト

1.オリジナル(英語)/ ドルビーサラウンド
2.日 本 語 吹 替 / ドルビーサラウンド

1.日本語（ドルビー・デジタル・ステレオ）
2.英語（ドルビー・デジタル・ステレオ）

次ページ③をご覧ください。

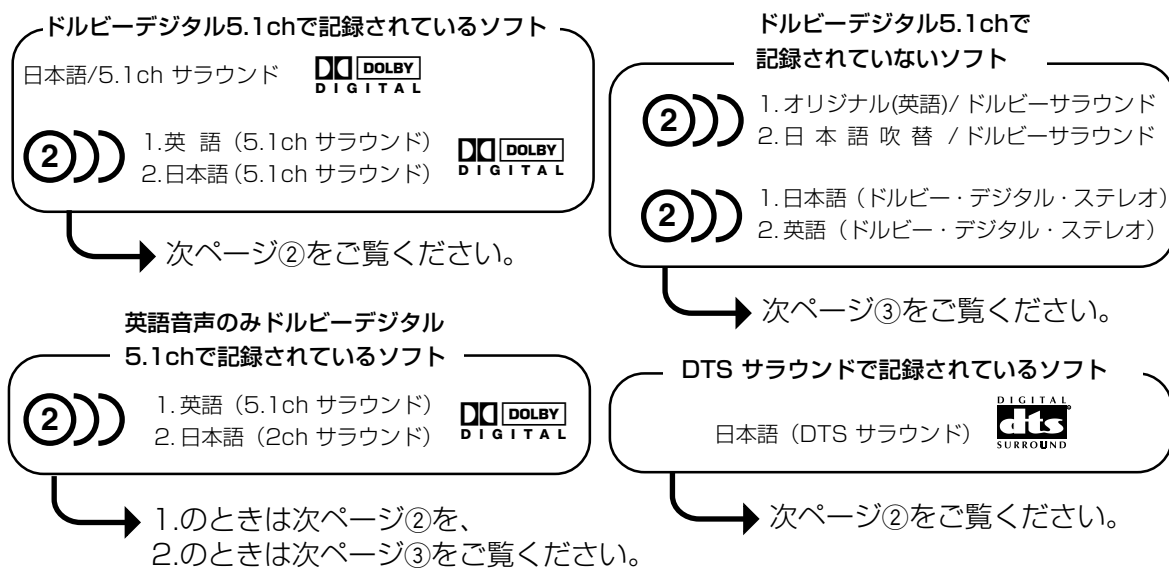
英語音声のみドルビーデジタル5.1chで記録されているソフト

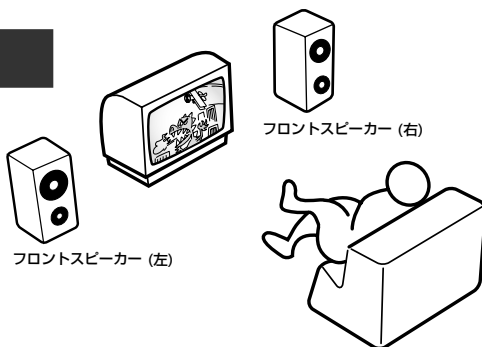
1.英語（5.1ch サラウンド）
2.日本語（2ch サラウンド）

1.のときは次ページ②を、
2.のときは次ページ③をご覧ください。

DTS サラウンドで記録されているソフト

日本語（DTS サラウンド）

次ページ②をご覧ください。

① ステレオ再生とは．．

左右2 つのスピーカーから別々の音が再生されます。通常の音楽用CDは、このステレオ2chで録音されていますので、本機のようにスピーカーが5 本とサブウーファーが接続されているシステムでも、音はフロントスピーカーからしか再生されません。

② ドルビーデジタル5.1chまたはDTSサラウンド再生とは．．

ドルビーデジタル(5.1chサラウンド)またはDTSサラウンドで記録されているソフトを、全部で5本のスピーカーとサブウーファーから、それぞれ別々の音で再生することです。5.1ch独立で音声が記録されているため、立体感のある音場で臨場感あふれる音声が楽しめます。

自分の頭上を飛行機が飛んでいくような音の移動や立体感を楽しめます。

爆発音や恐竜の足音などの低音が、体に響く感じで伝わってきます。

低音専用だから、0.1チャンネルと呼ばれてまして、重低音の必要ないシーンでは音は出ないんです。

センタースピーカー

フロントスピーカー (右)

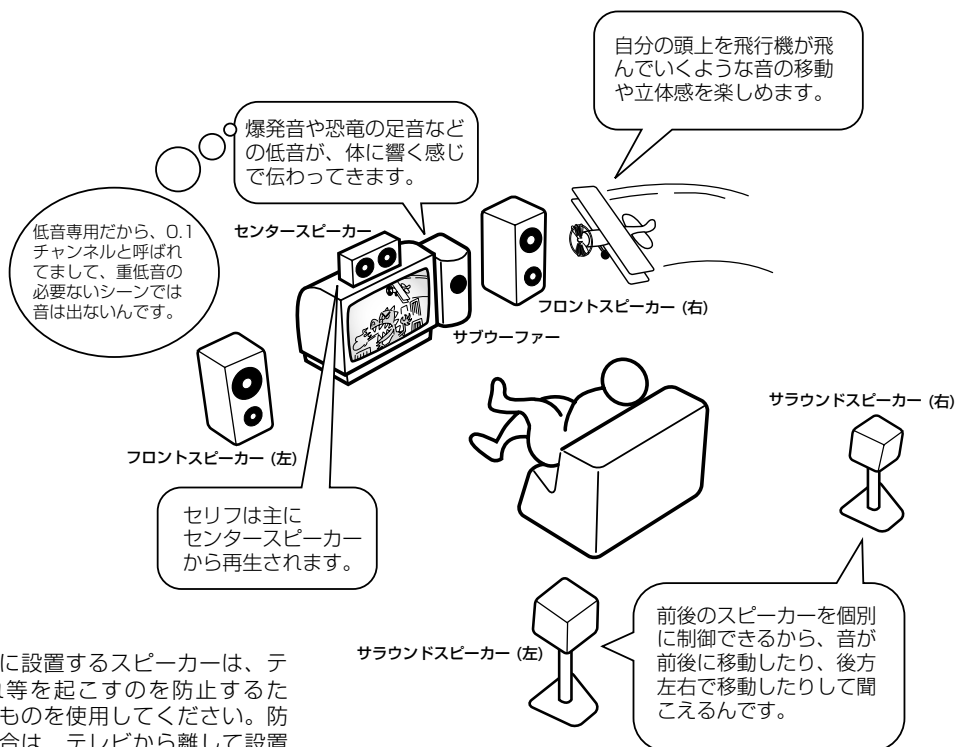
サブウーファー

フロントスピーカー (左)

サラウンドスピーカー (右)

セリフは主にセンタースピーカーから再生されます。

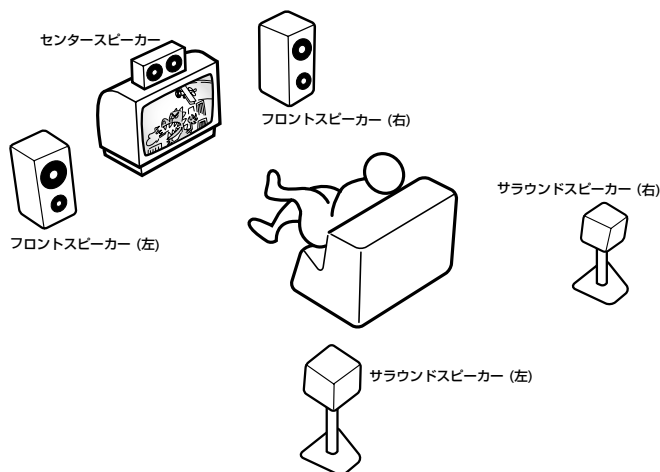
サラウンドスピーカー (左)

前後のスピーカーを個別に制御できるから、音が前後に移動したり、後方左右で移動したりして聞こえるんです。

メモ

- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。

③ ドルビープロロジック再生とは．． DOLBY SURROUND

ソフトのパッケージに、ドルビーサラウンド(DOLBY SURROUND)とかドルビーステレオ(DOLBY STEREO)と表記されているソフトを、５本のスピーカーで再生することです。
ただし、ドルビーデジタル(5.1ch サラウンド)やDTS　サラウンドで記録されたソフトとは違い、ドルビーサラウンドやドルビーステレオで記録されているソフトは2　チャンネル信号です。この2　チャンネル信号からセンター、サラウンド(右、左)の音を作り出します。このときサラウンドスピーカーは左右同じ音(モノラル)で再生されます。

さぁ、実際に次ページの｢ホームシアターを簡単に楽しむ｣で接続、設定してホームシアターを構築してみましょう！

ホームシアターを簡単に楽しむ

ここでは 1 から 6 までのステップで、ホームシアターを簡単に楽しむための手順を説明します。
よりよいサラウンドを楽しむためには最適なサラウンドの設定を行ってください。

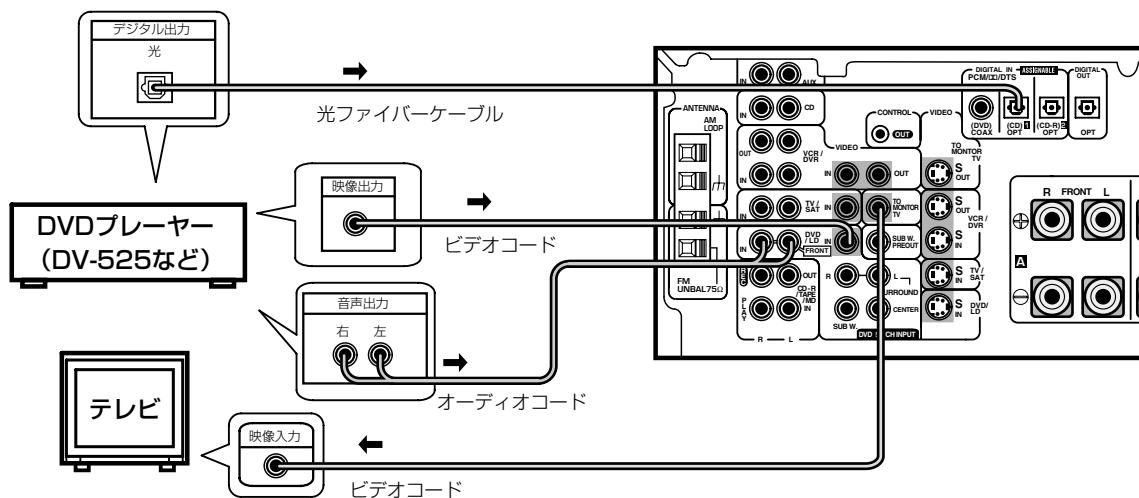
DVDプレーヤーとの接続（機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。）

DVDソフトにはドルビーデジタルやDTSといったマルチチャンネル音声が収録されています。これらを再生するためにはデジタル接続が必要となります。

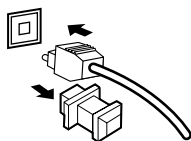
接続は「光デジタル端子で接続する場合」か「同軸デジタル端子で接続する場合」（次ページ）のどちらか一方の接続を行ってください。**両方の接続を行う必要はありません。**

光デジタル端子で接続する場合

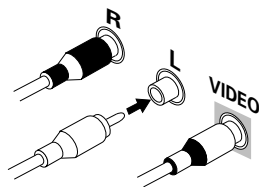
お手持ちのDVDプレーヤーを本機の光デジタル端子で接続する場合は下記の接続を行ってください。
接続の前に、別売のビデオコード2本、オーディオコード（L/R用）1組、光ファイバーケーブル1本をご用意ください。

この接続を行う場合、必ず 4 デジタル入力の設定を行ってください。

☞「同軸デジタル端子で接続する場合」は次のページをご覧ください。

■ 光ファイバーケーブル

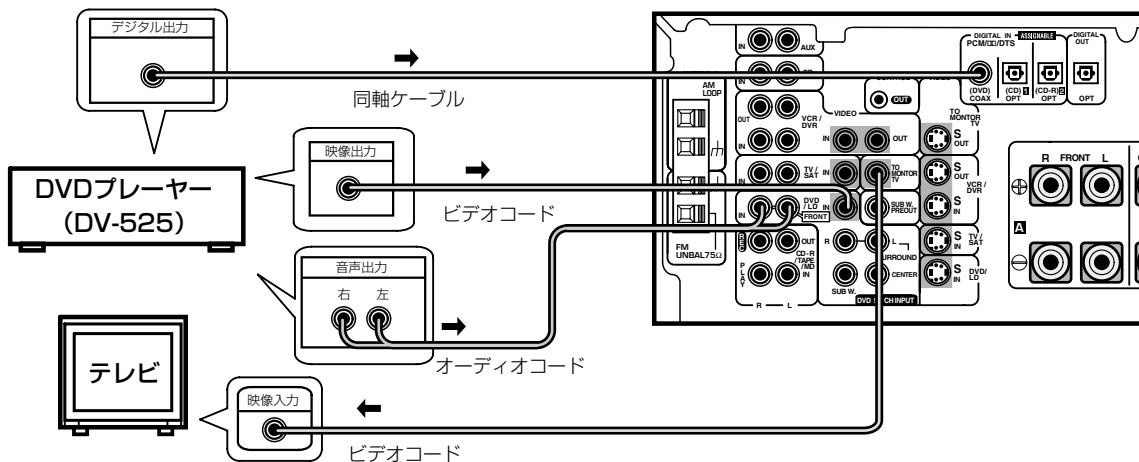
光デジタル入出力端子を使用する場合は、キャップを抜き取り、プラグを差し込んでください。必ず奥まで差し込んでください。

光ファイバーケーブル

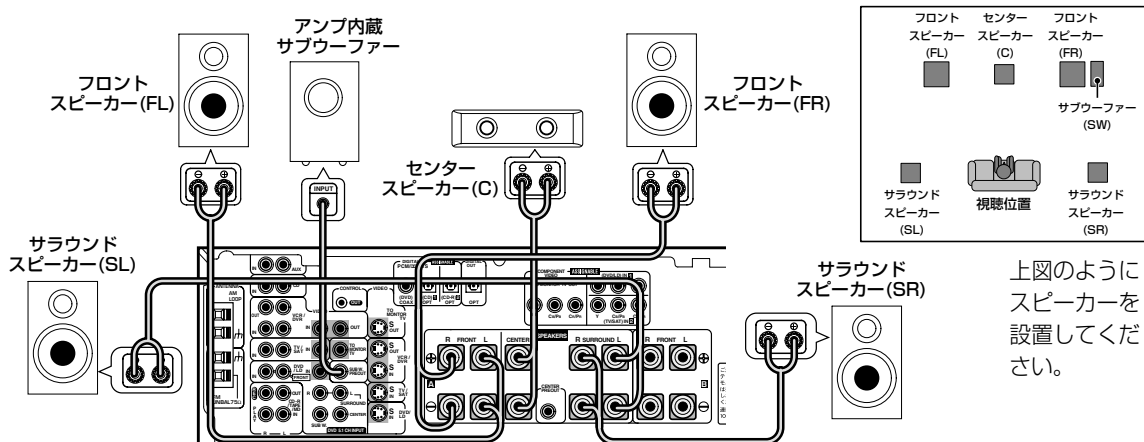
■オーディオ/ビデオコード

DVDプレーヤーとの接続には、オーディオ/ビデオコード（別売り）を使用します。テレビとの接続には、ビデオコード（別売り）を使用します。

白いプラグはL（左）に、
赤いプラグはR（右）に、
黄色いプラグはVIDEOに接続します。
必ず奥まで差し込んでください。

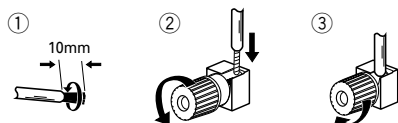
ホームシアターを簡単に楽しむ

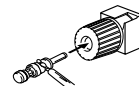
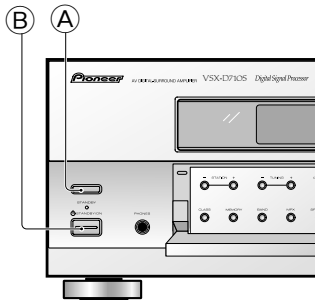
同軸デジタル端子で接続する場合

お手持ちのDVDプレーヤーを本機の同軸デジタル端子で接続する場合は下記の接続を行ってください。
接続の前に、別売のビデオコード2本、オーディオコード(L/R用)1組、同軸ケーブル(デジタル音声用)1本をご用意ください。

2 スピーカーとの接続 (機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。)

スピーカー5本(フロントL/R、センター、サラウンドL/R)と、サブウーファーを接続してください。
(本機で最適なサラウンドを楽しむには、スピーカー5本とサブウーファーを接続することをおすすめします。)接続にはスピーカーに付属のスピーカーコードか市販のスピーカーコードをお使いください。

上図のようにスピーカーを設置してください。

メモ
- 使用するスピーカーは公称インピーダンスが6Ω～16Ωのものを使用してください。
- センタースピーカーを接続しない場合は、映画のセリフが出ない場合がありますので「スピーカーの設定」(26ページ)を参照して、センタースピーカー無しの設定を必ず行ってください。
- サブウーファーには別の接続方法もあります。詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

■SPEAKER(スピーカー)端子

①
②
③
① 線をネジる。
② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。
③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)

設定の準備

1 リモコンに電池を入れる（13ページ）。

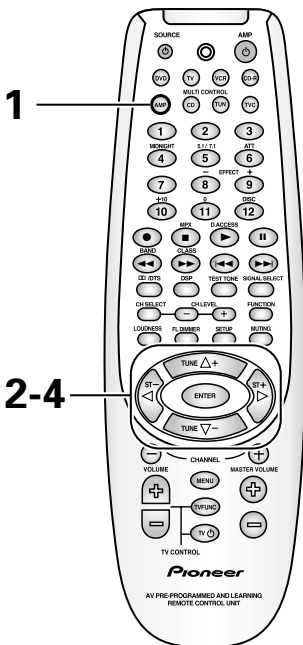
2 本体の電源コードをつないで、電源を入れる。

Ⓐボタンを押して、スタンバイインジケーターの点灯を確認します。 スタンバイインジケーターが点灯している状態でⒷボタンを押して、電源をONにします。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切換を本機の出力映像が表示されるように設定する。

デジタル入力の設定

「1 DVDプレーヤーとの接続」を光ファイバーケーブルで接続した場合にのみこの設定が必要になります。同軸ケーブルで接続した場合は、この設定は必要ありませんので「5 DVDのサラウンド再生」に進んでください。工場出荷時、光デジタル入力OPT1（CD）はCDに設定されています。以下の手順で、光デジタル入力OPT1（CD）をDVD/LDに変更します。

以下はリモコンの操作方法です。

1

リモコンをアンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

2

光デジタル入力1の設定モードを呼び出す。

ボタンを押すたびにディスプレイが変わります。

ディスプレイを下記の状態にする。

OPT 1 CD -81 dB

3

光デジタル入力1をDVDに設定する。

ボタンを押すたびにディスプレイが変わります。

ディスプレイを下記の状態にする。

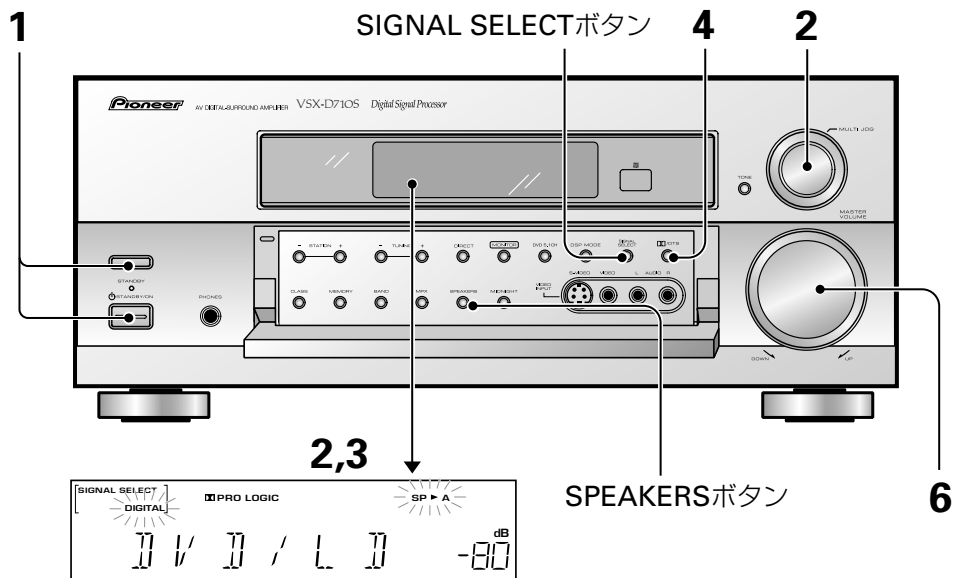
OPT 1 DVD -81 dB

20秒間ボタン操作がない場合には設定モードを終了します。

4

デジタル入力の設定モードを終了する。

5 DVDのサラウンド再生

1. DVDプレーヤーの電源をONにします(本機とテレビの電源がONであることも確認します)。
2. マルチジョグを回して、本機の表示を DVD/LD にします。
   (ディスプレイ表示を下図の状態にします)
   SIGNAL SELECT表示がDIGITALになっていることを確認してください。このとき、表示がANALOG表示になっていたら SIGNAL SELECT ボタンを押して DIGITAL 表示に切り換えます。
3. ディスプレイ表示を見て、スピーカー A が選択されていること(SP►A になっていること)を確認する。
   このとき表示がSP►AになっていないときはSPEAKERSボタンを押してSP►A表示に切り換えます。
4. ◻◻/DTS ボタンを押して STANDARD モードにします。
5. DVD を再生します。
6. 適当な音量になるまで MASTER VOLUME を UP 方向へ回します。
   (MASTER VOLUMEをゆっくり回すと、緩やかに音量が大きくなるように設計されています。そのため、少量回しただけでは音が出ていないと感じられることがあります)

6 よりよいサラウンドを楽しむために

1. 最適なサラウンドの設定が必要です

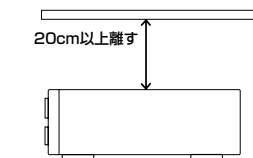
取扱説明書の「4. セットアップ」(25～33ページ)を参照して、お手持ちのシステムや環境にあわせて設定してください。

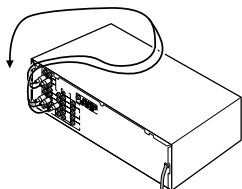
2. お好みのサラウンドモードを選択します

取扱説明書の「5. 本機の操作」(37～40ページ)を参照して、お好みのサラウンドモードを選択してください。

準備

設置について

本体の設置

● 放熱のためボンネットの上には物などを置かないでください。
● ラック等に設置する場合は放熱のため、上部に20cm以上の空間を開けてください。

接続コードの状態

左図のように、本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスからの磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合があります。接続コードはこのような状態にしないでください。

カセットデッキの設置

カセットデッキを設置する場所によっては、再生したときに雑音などが発生する場合があります。これはアンプのトランスによるリーケージフラックス（漏れ磁束）の影響によるものです。このようなときには、設置する場所を変えるか、アンプから離して設置してください。

リモコンの準備と予備知識

リモコンに電池を入れる

1

2

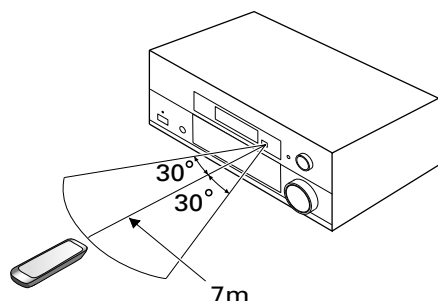
注意

電池を誤って使用すると、液漏れしたり破裂する危険性があります。以下の点について特にご注意ください
- 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池のプラスとマイナスの向きを電池ケースの表示どおりに正しく入れてください。
- 乾電池には同じ形状のものでも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示(条例)に従って処理してください。

- 電池を交換するときは、なるべく5 分以内に交換することをおすすめします。5 分以内に交換しないと、メーカーコードが解除される可能性があります。メーカーコードが解除されてしまった場合は、再度プリセットし直してください(50～52ページ)。
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください（2本とも新しい単3形乾電池をお使いください)。

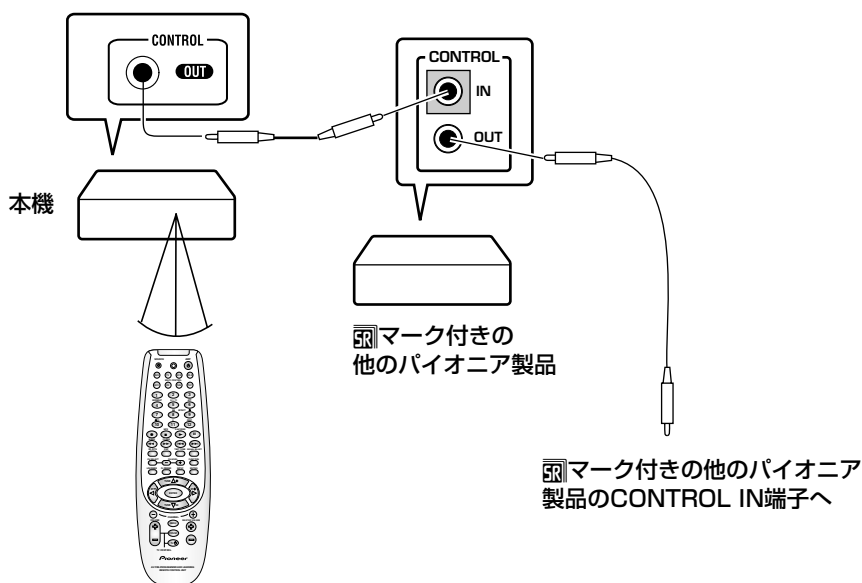
リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンをフロントパネルのリモコン信号受光部に向けてください。

メモ

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。
- リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

他のパイオニア機器を操作する

コントロールコードを接続すると、本機を通して他のSRマーク付きのパイオニア製品を操作できるようになります。操作は本機のリモコン受光部に向けて行います。このとき、リモコン信号は本機のリモコン信号受光部で受信され、CONTROL OUT端子を通して他機器に送信されます。また、他社のメーカーコードを呼び出したり、他社機器のリモコン信号を記憶（学習）させることにより、当社以外の機器を本機のリモコンで操作することもできます（この場合は、コントロールコードを接続する必要はありません）。詳しくは50〜52ページをご覧ください。

メモ

- 本機のCONTROL IN端子にコントロールコードを接続すると、リモコンで本機を直接操作することはできません(リモコン信号受光部が機能しなくなります)。
- コントロールコードは別売です。ご使用の際は、モノラルミニプラグ付きコードをお買い求めください。
- コントロール端子の接続をする場合は、必ずアナログの入出力も接続してください。デジタルの入出力だけでは、正しく動作しません。

接　続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ずすべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

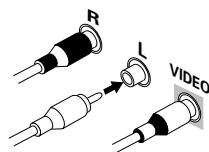
7ページから12ページの「ホームシアターを簡単に楽しむ」で接続したオーディオコード、ビデオコード、光ファイバーケーブル、同軸ケーブルについては、本編では薄い線で描かれています。「ホームシアターを簡単に楽しむ」ですでに接続しているときは、これらの薄い線がつながれていることを確認してください。

- DVDプレーヤーの接続はデジタル接続とアナログ接続の両方を必ず行ってください。（P9、10をご覧ください）

ビデオ機器の接続

ビデオ機器は下図のように接続します。
テレビやビデオ機器にSビデオ端子やコンポーネントビデオ端子が付いている場合は、Sビデオ端子やコンポーネントビデオ端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。

■オーディオ/ビデオコード

DVDプレーヤーとの接続には、オーディオ/ビデオコード（別売り）を使用します。テレビとの接続には、ビデオコード（別売り）を使用します。

白いプラグはL（左）に、赤いプラグはR（右）に、黄色いプラグはVIDEOに接続します。必ず奥まで差し込んでください。

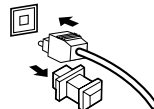
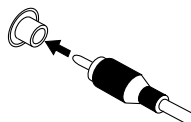
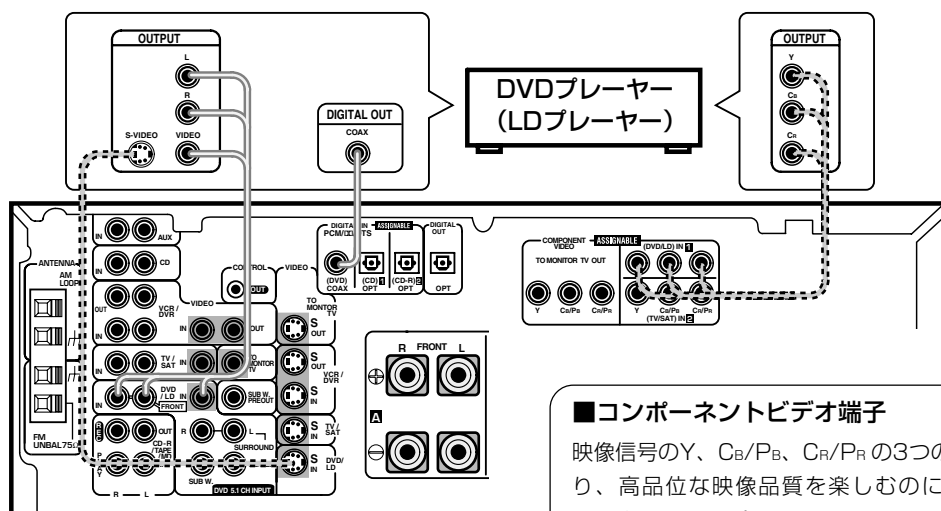
■Sビデオ端子

S ビデオコード（別売り）を使って接続します。ビデオコード（別売り）よりも高品位な映像がお楽しみ頂けます。

■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続には、市販の同軸ケーブル（ない場合はビデオコード）または光ファイバーケーブル（別売り）を使用します。
光デジタル入出力端子を使用する場合は、キャップを抜き取り、プラグを差し込んでください。
必ず奥まで差し込んでください。

同軸ケーブル（またはビデオコード）

光ファイバーケーブル

DVDプレーヤー（またはLDプレーヤー）の接続

■コンポーネントビデオ端子

映像信号のY、CB/PB、CR/PRの3つの信号からなり、高品位な映像品質を楽しむのに適しています。市販のコンポーネント映像ケーブルまたは映像ケーブルを使って接続します。

3 接続

ビデオデッキまたはDVRの接続

この接続はアナログ接続です。DVRでドルビーデジタルやDTSサラウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。

TVチューナーまたは衛星チューナー（CS、BSなど）の接続

TVチューナーまたは衛星チューナーは下図のように接続します。
テレビやTVチューナーにテレビやビデオ機器にSビデオ端子やコンポーネントビデオ端子が付いている場合は、Sビデオ端子やコンポーネントビデオ端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。

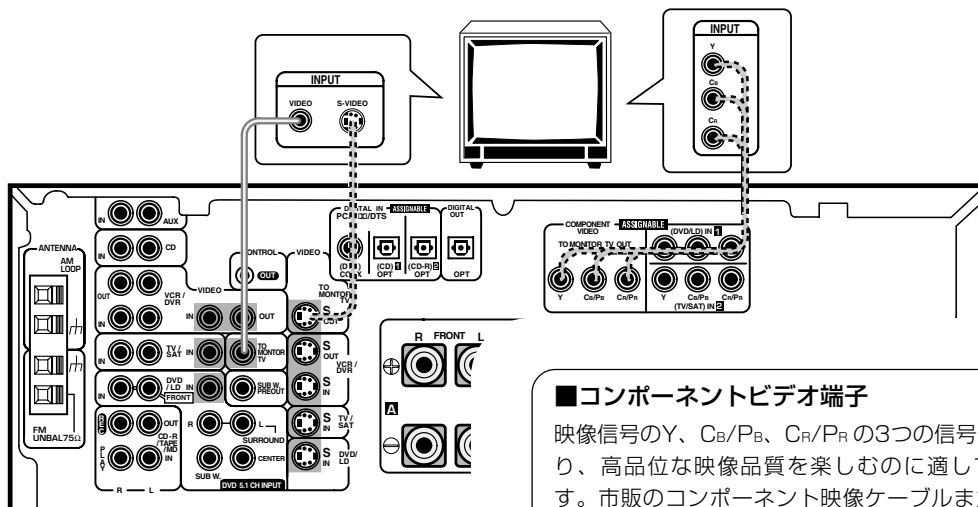
■コンポーネントビデオ端子

映像信号のY、C_B/P_B、C_R/P_Rの3つの信号からなり、高品位な映像品質を楽しむのに適しています。市販のコンポーネント映像ケーブルまたは映像ケーブルを使って接続します。

TVの接続

TVは下図のように接続します。
テレビにSビデオ端子やコンポーネントビデオ端子が付いている場合は、Sビデオ端子やコンポーネントビデオ端子を使用して本機と接続すると、より鮮明な画像を再生できます。

■コンポーネントビデオ端子

映像信号のY、CB/PB、CR/PRの3つの信号からなり、高品位な映像品質を楽しむのに適しています。市販のコンポーネント映像ケーブルまたは映像ケーブルを使って接続します。

テレビとの接続は、本機と他ビデオ機器との接続に使用したビデオコードと同じタイプのコードを使用してください。別タイプのコードを使用すると本機に映像信号が送られません。

例1. DVDプレーヤーと本機を「一般のビデオコード」で接続した場合➡本機とテレビの接続にも「一般のビデオコード」を使用

例2. DVDプレーヤーと本機を「Sビデオコード」で接続した場合➡本機とテレビの接続にも「Sビデオコード」を使用

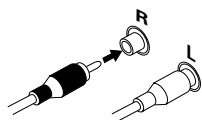
例3. DVDプレーヤーと本機を「コンポーネントビデオコード」で接続した場合➡本機とテレビの接続にも「コンポーネントビデオコード」を使用

オーディオ機器の接続（アナログ接続）

オーディオ機器は次ページの図のように接続します。

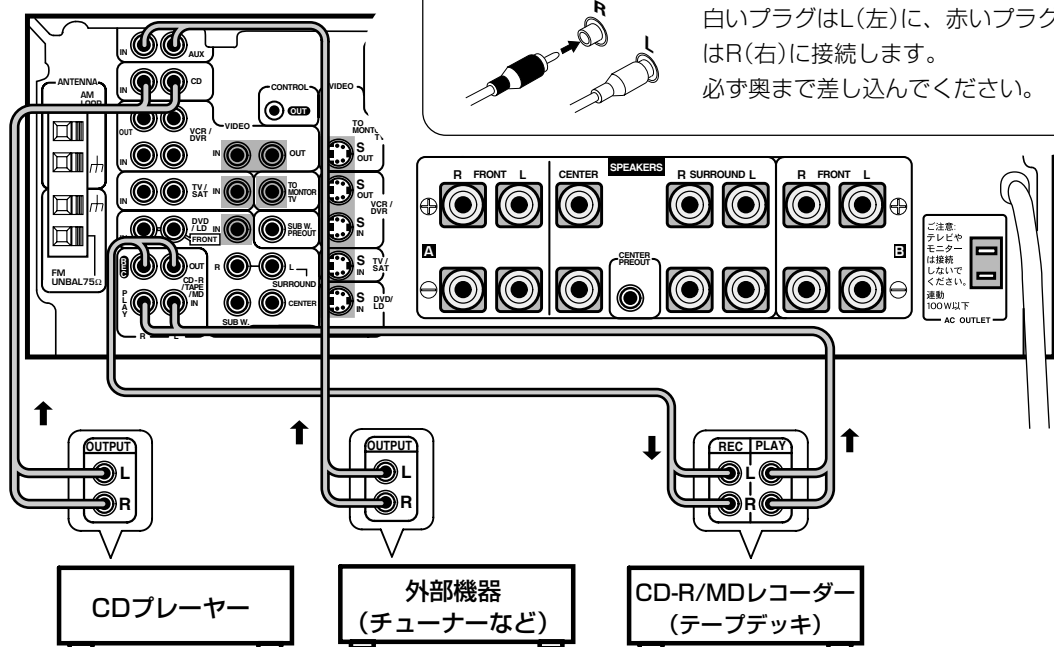
CDプレーヤーやCD-R/MDレコーダーは、さらに「デジタル接続」もできます。

■オーディオコードの接続

オーディオ機器の接続には、オーディオコード（別売り）を使用します。

白いプラグはL（左）に、赤いプラグはR（右）に接続します。
必ず奥まで差し込んでください。

CDプレーヤー

外部機器
（チューナーなど）

CD-R/MDレコーダー
（テープデッキ）

デジタル接続

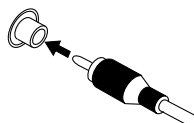
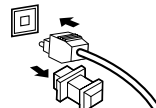
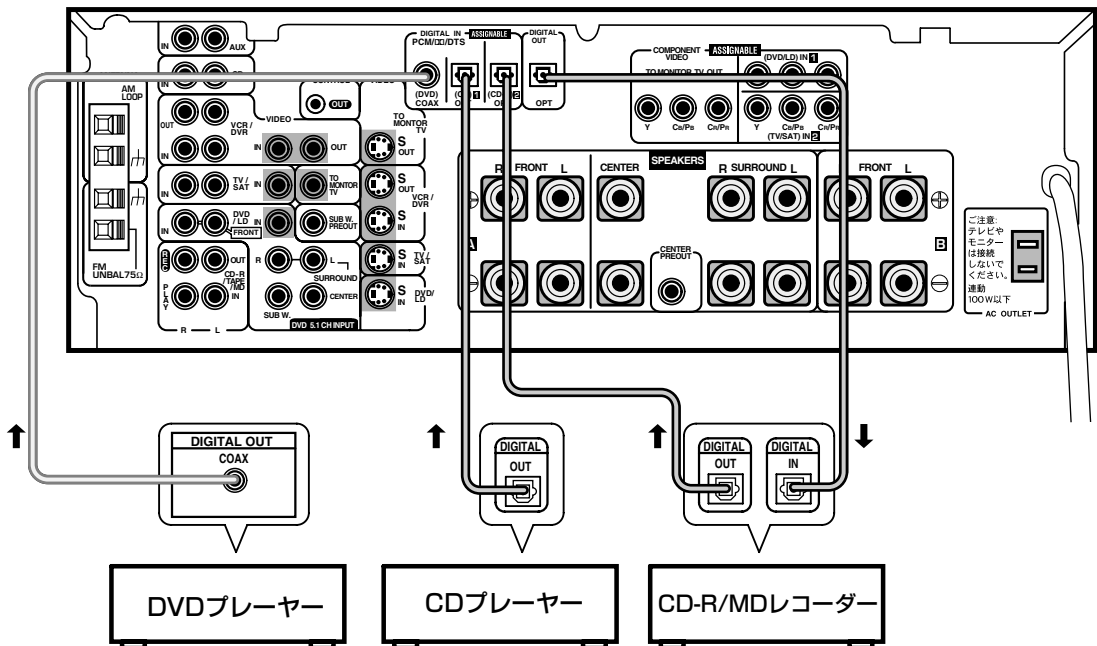
デジタル機器は19ページのように接続します。

ドルビーデジタルやDTSサラウンドを再生するには、デジタル接続が必要です。接続は同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルで行います（同軸ケーブルと光ファイバーケーブルを同時に接続する必要はありません）。
本機には同軸ケーブル用端子（COAX）1つと光ファイバーケーブル用端子（OPT）2つの、合計3つのデジタル入力端子があります。どのデジタル入力端子をどの機器に使用するかを設定できます（32ページ、「デジタル入力（DIGITAL IN）の設定」をご覧ください）。

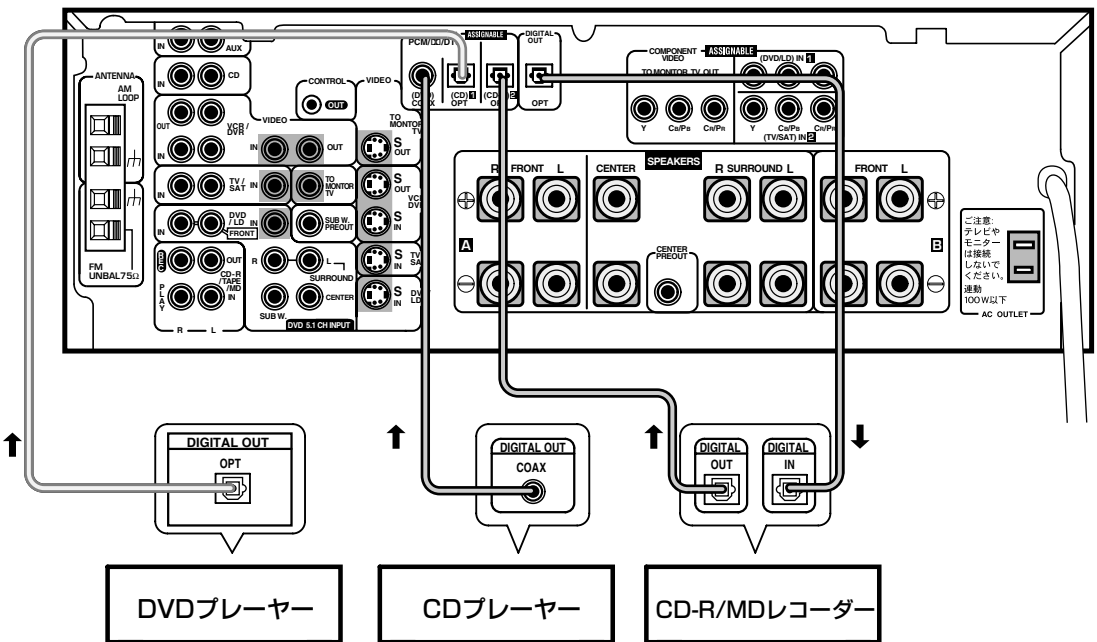
OPT DIGITAL OUT端子はデジタル入力された信号をそのまま出力しますので、光デジタル入力を持つデジタル録音機器に接続してください。

工場出荷時、同軸デジタル入力（COAX）はDVD/LDに、光デジタル入力1（OPT1）はCDに、光デジタル入力2（OPT2）はCD-R/TAPE/MDに設定されています。

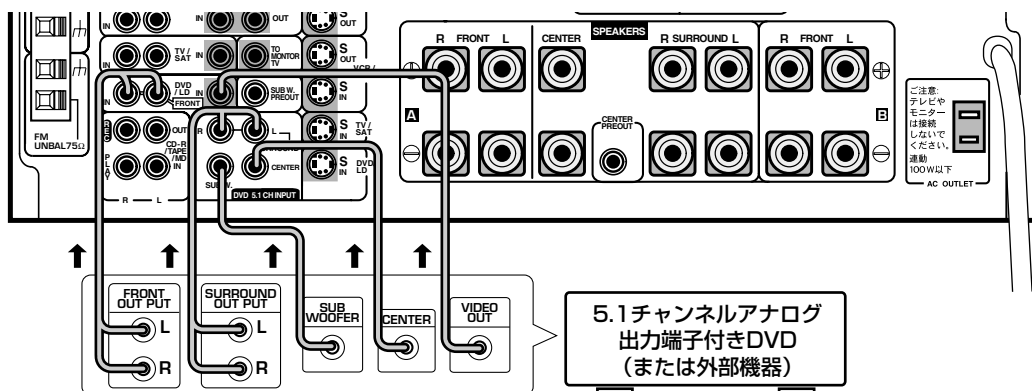
■同軸ケーブル/光ファイバーケーブル

デジタル機器の接続には、市販の同軸ケーブル（ない場合はビデオコード）または光ファイバーケーブル（別売り）を使用します。
光デジタル入出力端子を使用する場合は、キャップを抜き取り、プラグを差し込んでください。
必ず奥まで差し込んでください。

光ファイバーケーブル

「ホームシアターを簡単に楽しむ」でDVDを同軸デジタル端子で接続した場合

「ホームシアターを簡単に楽しむ」でDVDを光デジタル端子で接続した場合

この接続を行う場合は同軸デジタル入力（COAX）に割り当てられているDVD/LDをCDに変更する必要があります。詳しくは「デジタル入力（DIGITAL IN）の設定」（32ページ）をご覧ください。

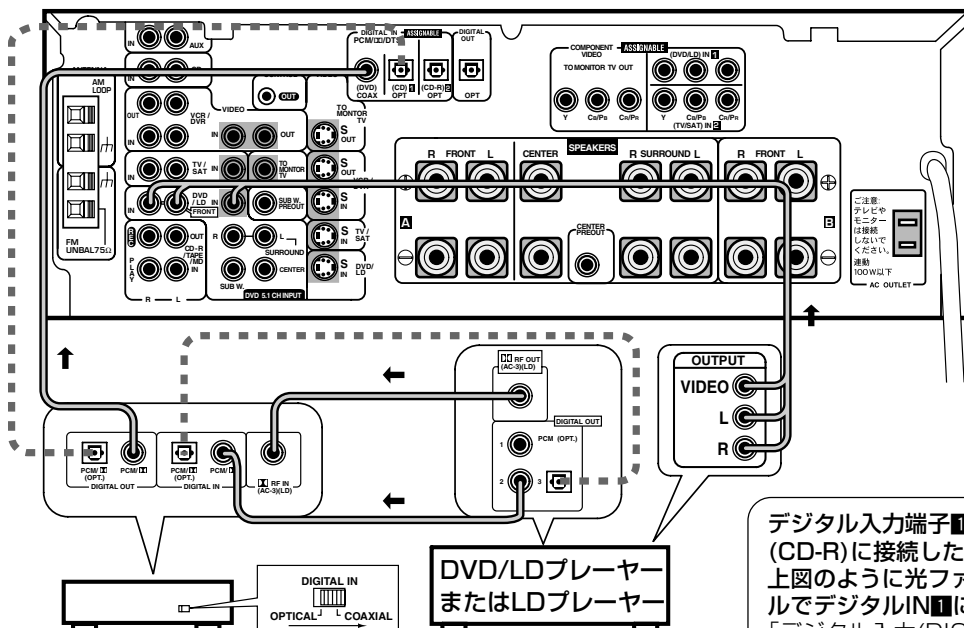
3
接続

DVD 5.1 チャンネル接続

本機は5.1チャンネルのアナログ出力を持ったDVDオーディオ対応のDVDプレーヤー、ドルビーデジタルデコーダー、DTSデコーダーなどを接続することができます。

本機ファンクションのDVD/LDは2チャンネルと5.1チャンネルのアナログ入力に対応しています。2チャンネルと5.1チャンネルの切換方法は、43ページを参照ください。

5.1チャンネル入力は、入力切換が、DVD/LDのときのみ使用できます。

DVD/LDまたはLDプレーヤーの接続

ドルビーデジタルやDTSサラウンド対応ソフトを再生するには、デジタルオーディオ接続が必要です。

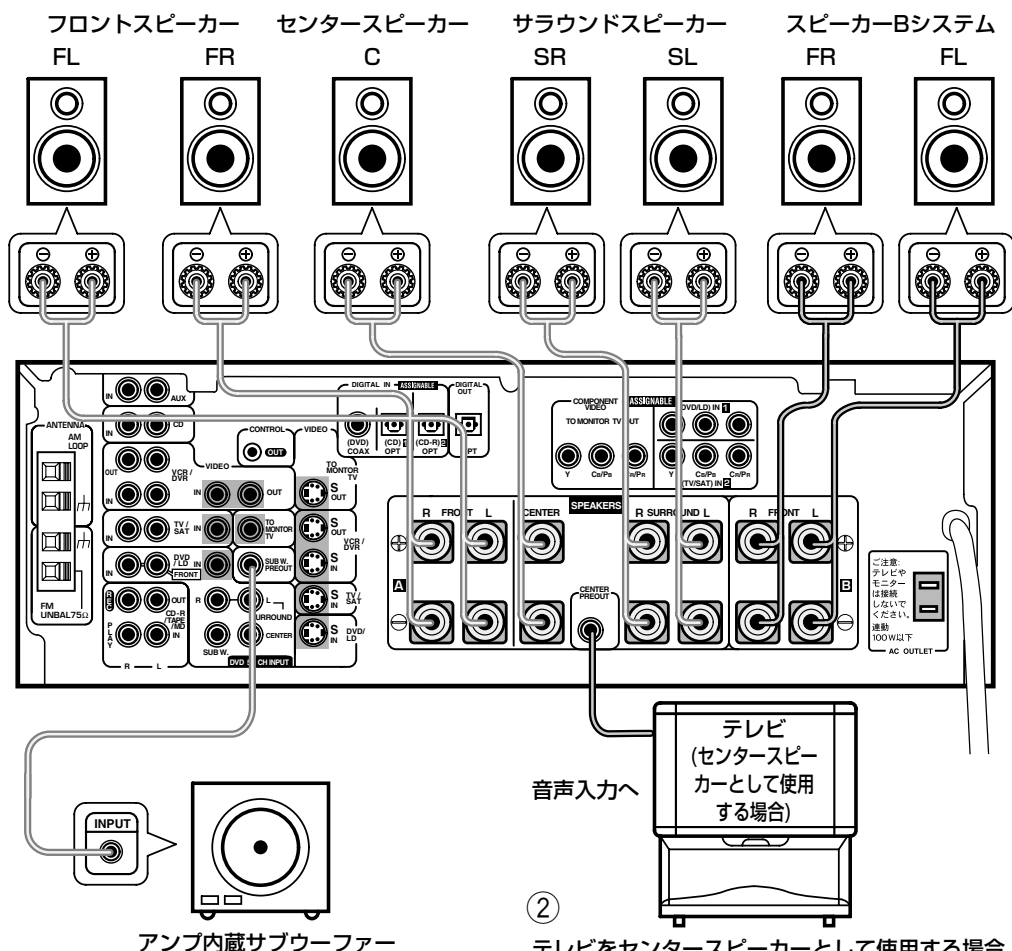
DVD/LDプレーヤーまたはLDプレーヤーに RF出力端子がある場合は、市販のRFデモジュレーターを使用して RF端子も接続します。RFデモジュレーターはRF信号をデジタル信号に変換します。このデジタル信号を本機のデジタル入力端子に接続します。詳しくは、RFデモジュレーターの取扱説明書をご覧ください。LDのアナログオーディオはデジタル出力されませんのでアナログオーディオ接続も行ってください。

デジタル入力端子1(CD)または2(CD-R)に接続した場合(たとえば上図のように光ファイバーケーブルでデジタルIN1に接続した場合)「デジタル入力(DIGITAL IN)の設定」(32ページ)で設定が必要です。どの端子に接続したかを控えておくことをおすすめします。

スピーカーの接続

「ホームシアターを簡単に楽しむ」（10ページ）で接続したスピーカーコードについては、本編では薄い線で描かれています。「ホームシアターを簡単に楽しむ」ですでに接続しているときは、この薄い線がつながれていることを確認してください。通常はこの接続でスピーカーの接続は完了ですが、スピーカーBシステムを接続したいとき（以下①）や、テレビをセンタースピーカーとして使用したいとき（以下②）は以下の説明をご覧下さい。

本機でサラウンドを楽しむためには、6本のスピーカーを接続することをおすすめします。また、スピーカーの大小や有り無し、サブウーファーの有り無しに応じて、さまざまなスピーカーの設定ができます（詳しくは25～30ページをご覧ください）。

- 右スピーカーはR端子に、左スピーカーはL端子に接続します。また、スピーカーと本機の⊕ および⊖端子も正しく接続してください。
- 使用するスピーカーは公称インピーダンスが6Ω～16Ωのものを使用してください。

① 本機はAとBの2組のフロントスピーカーを接続できます。スピーカーAはメインシステムで、サラウンド再生に対応します。スピーカーAとBを同時に選択すると、フロントスピーカーとサブウーファーからのみ音が出ます。このときセンタースピーカーとサラウンドスピーカーの音は、フロントスピーカーに振り分けて出力されますので、**センタースピーカーとサラウンドスピーカーからは音が出ません。**ステレオモード以外でスピーカーBを選択したときは、センタースピーカーとサラウンドスピーカー、サブウーファーの音は、スピーカーBから出力されます（サブウーファーから音は出ません）。スピーカーモードについては「スピーカーシステム（A、B、A+B）について」（44ページ）をご覧ください。スピーカーシステム「A」、「B」、「A+B」、「OFF」の選択は各ファンクションごとに設定することができます。

サブウーファーには別の接続方法もあります。詳しくはサブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

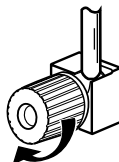
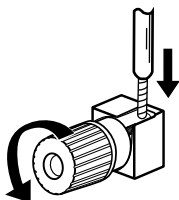
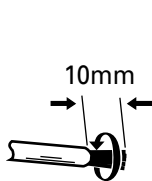
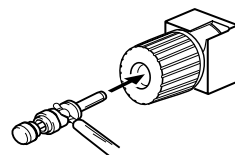
テレビをセンタースピーカーとして使用する場合は、本機のPREOUT CENTER端子とテレビのオーディオ入力端子を接続してください。この場合は上図のセンタースピーカーは接続しません。接続するテレビの取扱説明書もご覧ください。

接　続

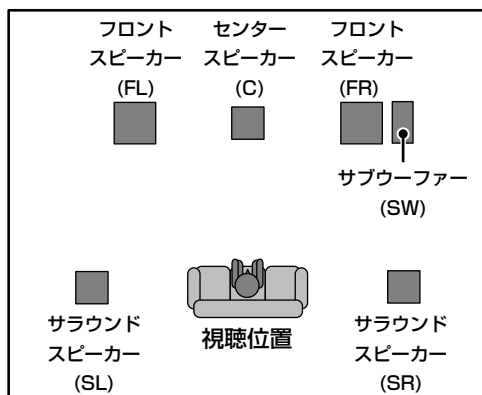
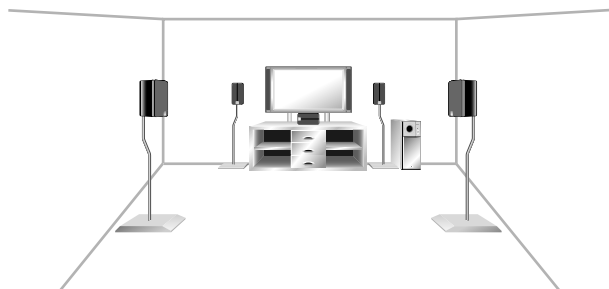
■SPEAKER(スピーカー)端子

① 線をネジる。

② スピーカー端子をゆるめ、スピーカーコードを差し込む。

③ スピーカー端子を締めつける。

バナナプラグを接続することもできます(詳しくはプラグの説明書をお読みください。)

メモ　スピーカーコードを接続するときは、芯線をしっかりねじって、スピーカー端子からはみ出していないことを確認してください。芯線がスピーカー端子からはみ出してリアパネルに接触したり、+−が接触すると保護回路が働いて電源がスタンバイ状態になることがあります。

スピーカーの設置

サラウンド効果を最大限に引き出すため、下図のようにスピーカーを設置してください。

- 左右のスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- テレビの近くに設置するスピーカーは、テレビが色ずれ等を起こすのを防止するため、防磁型のものを使用してください。防磁型でない場合は、テレビから離して設置してください。
- センタースピーカーはテレビの上側または下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。
- サラウンドスピーカーは耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーとセンタースピーカーから極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。

注意

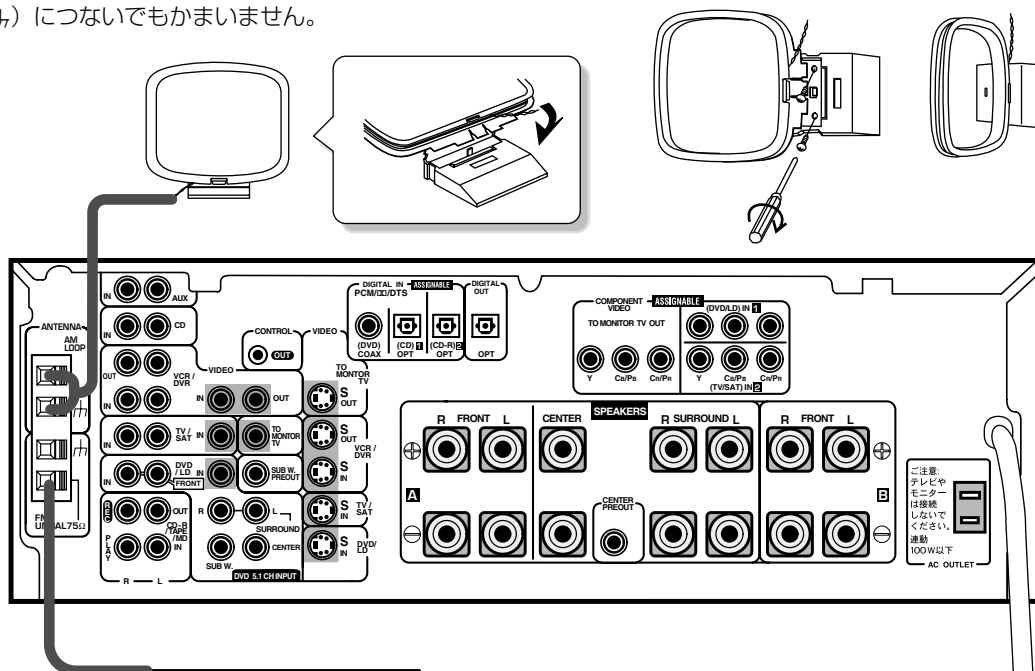
センタースピーカーをテレビの上に置くときは、テープなどを使用して適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。

アンテナの接続

アンテナは下図のように接続します。

● AMループアンテナ（付属）

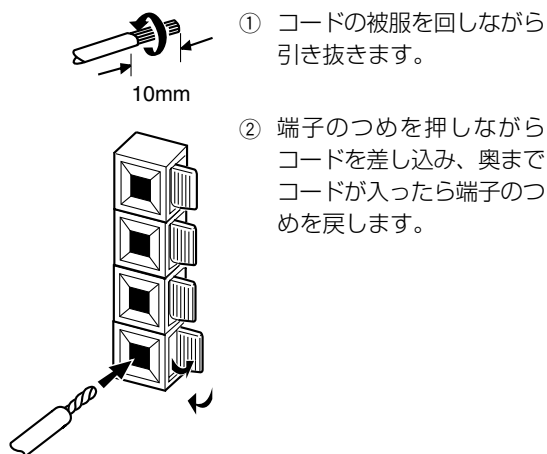
下図のように組み立てます。AMループアンテナのコード2本をAMアンテナ接続端子に接続します。どちらをアース側端子（⏚）につないでもかまいません。

壁などに取り付けるにはネジやピンなどを使って取り付けます

● FMアンテナ（付属）

FMアンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないで最も良い受信状態が得られるように、ピンとはってください。

● アンテナコードと本機の接続端子

① コードの被服を回しながら引き抜きます。

② 端子のつめを押しながらコードを差し込み、奥までコードが入ったら端子のつめを戻します。

アンテナ接続に関するご注意

アンテナ接続について

アンテナ端子のアースマーク(⏚)はアンテナを接続した場合の雑音低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

AM ループアンテナ

- 平らな面に置き、受信状態の最も良い方向に向けてください。
- アンテナは、本機から離して金属物と接触しない場所に置いてください。また、パソコン、テレビなどからもできるだけ離してください。ノイズの原因となります。
- 壁などに取り付ける場合は、AM 放送の受信状態が最も良い方向を見つけ、取り付け位置を決めてください。

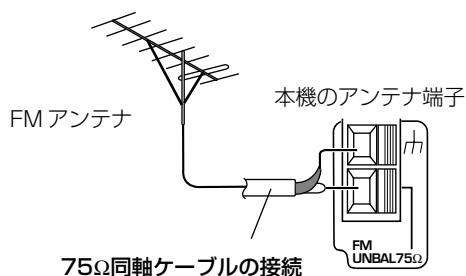
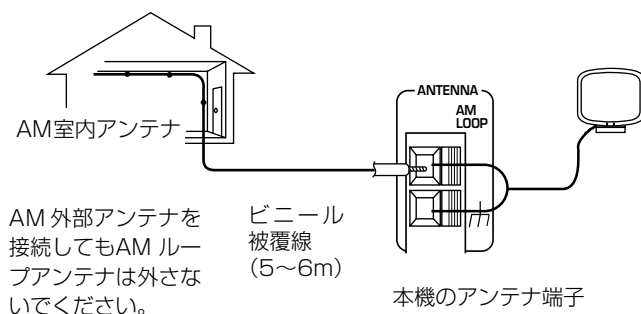
FM アンテナ

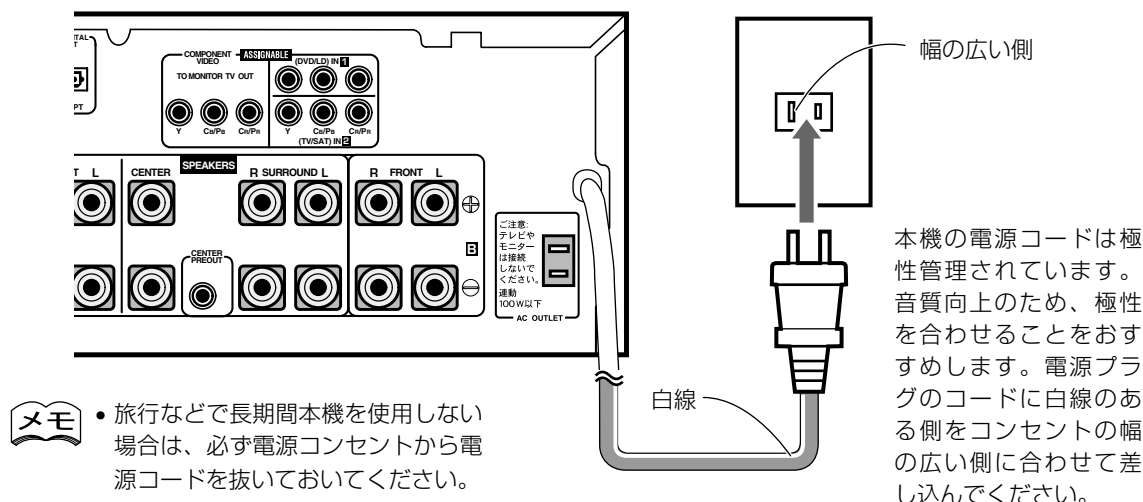
- 付属の FM アンテナは、たらしておいたり、丸めたままにしないでピンと張ってください。
- 付属のFMアンテナは、FM放送を手軽に受信するためのものです。よりよい受信のためには専用アンテナを使用してください。

接　続

外部アンテナの接続

付属のアンテナでよく聞こえないときは、AM外部アンテナ（ビニール被覆線）、市販のFM屋外アンテナを接続することをおすすめします。

● FM屋外アンテナ（75Ω同軸ケーブル）の接続
　下図のように接続してください。

● AM外部アンテナ（ビニール被覆線）の接続
　下図のように接続してください。

電源コードの接続

全ての接続が終了したら、電源コードを家庭用電源コンセント(AC 100V)に接続します。

メモ
• 旅行などで長期間本機を使用しない場合は、必ず電源コンセントから電源コードを抜いておいてください。

予備電源コンセント（AC OUTLET）の接続（連動100W以下）

本機の電源スイッチのON/スタンバイ（OFF）の切換に連動して、接続した機器の電源をON/OFFできます。

このとき、接続した機器の電源スイッチはONにしておいてください。また、消費電力が100Wを超えないようにしてください。

⚠注意

■ 消費電力がパネルに表示されているWの数値を超える電気器具(トースター、ドライヤーなど)は絶対に接続しないでください。機器の故障や火災の恐れがあります。

■ テレビは接続しないでください。
　表示されている消費電力が本機のパネル表示値より少なくても、電源を入れたときに大きな電流が流れて、パネル表示値を超える場合があります。

セットアップ

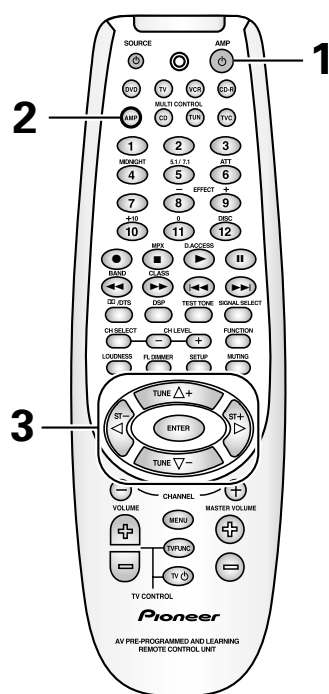
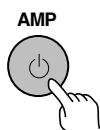
操作を行う前には必ず、本機の主電源ボタンをON（スタンバイインジケーター点灯）にしてください。

よりよいサラウンドを楽しむための設定

はじめてご使用になる場合やスピーカーシステムの構成を変更された場合はこの設定を行ってください。

本機のサラウンド効果を最大限に発揮するために、あなたのご使用になるスピーカーシステムに合わせて設定を行ってください。また、接続した機器に対応したデジタル入力に合わせて設定を行ってください。
また、本機はスピーカーシステムが「A」に選択されていないと、サラウンド再生できません。スピーカーシステムが「A」になっていることを確認してください。詳しくは「スピーカーシステムについて」(44ページ)をご覧ください。

● **パイオニア製S-H11等の小型スピーカーを5本とアンプ内蔵サブウーファーをお使いの方は、以下の手順3において、①〜⑩のうち「① スピーカーの設定」と「② サブウーファー ON/PLS/OFFの設定」、「③ クロスオーバー周波数の設定」のみの設定でもサラウンドをお楽しみいただけます。**

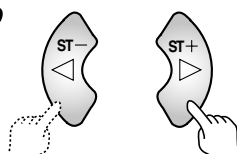
設定モードにする

1

本機の電源を入れる。

スタンバイインジケーターが消灯します。

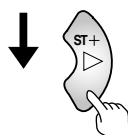
2

アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

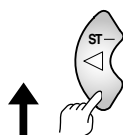
3

設定モードを呼び出す。

設定モードが呼び出され、20秒間現在の設定内容がディスプレイ部に表示されます。►を押すと「①スピーカーの設定」から、◄を押すと「⑮光デジタル入力2の設定」の設定から呼び出しをはじめます。

サラウンドの設定

① スピーカーの設定（➡P26）
② サブウーファー ON/PLS/OFFの設定（➡P27）
③ クロスオーバー周波数の設定（➡P27）
④ LFEアッテネーターの設定（➡P28）
⑤ ローカットフィルターON/OFFの設定（➡P28）
⑥ フロントスピーカーからの距離の設定（➡P29）
⑦ センタースピーカーからの距離の設定（➡P29）
⑧ サラウンドスピーカーからの距離の設定（➡P29）
⑨ ダイナミックレンジコントロールの設定（➡P30）
⑩ デュアルモノの設定（➡P30）

入力切換の設定

⑪ コンポーネントビデオ入力1の設定（➡P31）
⑫ コンポーネントビデオ入力2の設定（➡P31）
⑬ 同軸デジタル入力の設定（➡P32）
⑭ 光デジタル入力1の設定（➡P32）
⑮ 光デジタル入力2の設定（➡P32）
⑯ 通常表示

ST−

設定したい内容が表示されましたら次ページ以降にある①〜⑮のそれぞれの手順に従って詳細設定を行ってください。設定モードを終了するにはENTERボタンを押します。

メモ

● 20秒間ボタン操作がない場合には、設定モードを終了します。

4

セットアップ

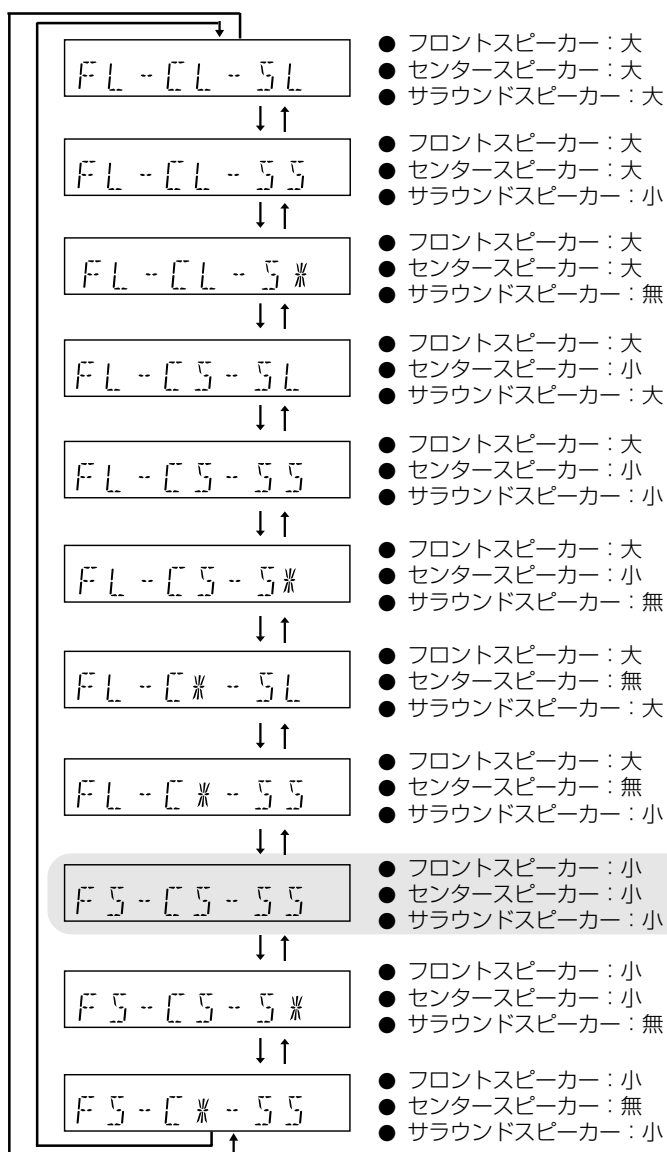
① スピーカーの設定

接続しているスピーカーシステムのフロント（前）、センター（中央）、サラウンド（後）の各スピーカーの有/無、大/小を設定します。

それぞれの表示内容の中でFはフロント、Cはセンター、Sはサラウンド、Lは大(LARGE)、Sは小(SMALL)、＊は無しを表わします。

パイオニア製S-H11等の小型スピーカーセットをお使いの方は「FS-CS-SS」を選んでください。

25ページの手順1〜3を行ってください。

1　現在接続しているスピーカーシステムの大きさに合わせて設定する。

►ボタンを押すと次の設定モードに進み、◄ボタンを押すと前の設定モードに戻ります。設定モードを終了するにはENTERボタンを押します。

メモ

- はじめはフロント：大(LARGE)、センター：大(LARGE)、サラウンド：大(LARGE)に設定されています。
- 小(SMALL)に設定されたチャンネルの低域成分は、大(LARGE)に設定されたチャンネル、またはサブウーファー(サブウーファー ONの時)から再生されます。
- フロントスピーカーを小(SMALL)に設定した場合、センタースピーカー、サラウンドスピーカーの大(LARGE)は設定できません。

② サブウーファーON/PLS/OFFの設定

サブウーファー（低音を専門に受け持つスピーカー）の有り無しを設定します。サブウーファーが接続されている場合はONまたはPLSを選択します（ONを選択するとLFE成分を出力します。PLSを選択すると、通常はフロントやセンタースピーカーから再生している低音域をサブウーファーからも再生するため、あらゆるソースでサブウーファーから音が出ます）。サブウーファーが接続されていない場合はOFFを選択します（低音域はすべてフロントスピーカーまたはサラウンドスピーカーから再生されます）。

パイオニア製S-H11等の小型スピーカーとアンプ内蔵サブウーファーのセットをお使いの方は「ON」になっていることを確認してください。

メモ

- はじめはONに設定されています。
- 「①スピーカーの設定」でフロントスピーカーを小(SMALL)で選んでいる場合、サブウーファーはONに固定されOFFにすることはできません。
- ステレオモード（DVD5.1ch、DD/DTSモード、DSPモード以外のとき）で、フロントスピーカーを大(LARGE)に設定してあると、PLSの設定以外ではサブウーファーから音は出ません。ただし、ドルビーデジタル信号、またはDTS信号を再生しているときに超低域成分（LFEチャンネル）を含んでいると音がでます。

25ページの手順1～3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

サブウーファーON/PLS/OFFを設定する。

押すたびにON/PLS/OFFが切り換わります。

SUBWF ON -81 dB

③ クロスオーバー周波数の設定

「①スピーカーの設定」で小(SMALL)に設定されたスピーカーの低域を他の低域再生能力のあるスピーカーに受け持たせるとき、何Hz以下の音を割り振るのかを設定します。

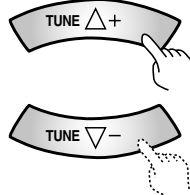
パイオニア製S-H11等の小型スピーカーセットをお使いの方は「200Hz」に設定することをお勧めします。

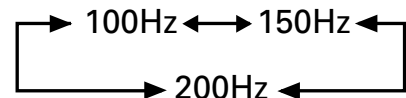
25ページの手順1～3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

メモ

- はじめは100Hzに設定されています。
- それぞれのスピーカーの性能によりますが、全て小さいスピーカーを使用している場合は200Hzに設定することをお勧めします。
- 「①スピーカーの設定」でフロント、センター、サラウンドスピーカーのいずれかが小(SMALL)に設定されていない場合、クロスオーバー周波数は設定できません。このときディスプレイは＊＊＊と表示します。

1

TUNE △+
TUNE ▽−

クロスオーバー周波数を設定する。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

すべての周波数で試し、最適な状態に設定してください。

X.OVER 100 -81 dB

④ LFEアッテネータの設定

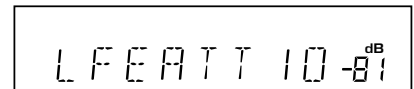
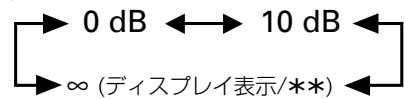
通常はこの設定を変える必要はありませんが、ドルビーデジタルやDTSの信号は超低域信号成分を多く含んでおり、この超低域成分（LFEチャンネル）により、スピーカーから出る音に歪みが生じてしまった場合に、レベルをアッテネートする（減衰させる）設定が必要になります。

25ページの手順1〜3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

LFEアッテネータを設定する。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

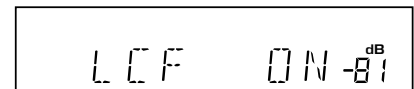
メモ
- はじめは0dBに設定されています。
- ∞(ディスプレイ表示/＊＊)のときは、LFE成分の音が出なくなります。
- 10dBは、レベルを10dBアッテネート（減衰）します。

⑤ ローカットフィルターON/OFFの設定

通常はこの設定を変える必要はありませんが、サブウーファーの出力に歪みが生じた場合、ローカットフィルターをONにすると、低域の迫力を損なうことなく歪みを解消できます。

25ページの手順1〜3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

ローカットフィルターのON/OFFを設定する。

押すたびにON/OFFが切り換わります。

LCF ON dB

- はじめはOFFに設定されています。
- 「②サブウーファーON/PLS/OFFの設定」でサブウーファーがOFFになっているとローカットフィルターは設定できません。

⑥ フロントスピーカーからの距離の設定

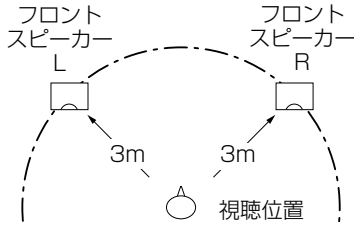
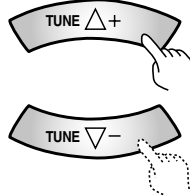
リスニングポジション（視聴位置）からの距離を合わせます。

フロント
スピーカー
L

フロント
スピーカー
R

3m　3m

視聴位置

25ページの手順1～3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

フロントスピーカーからの距離を設定する。

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定します。

FRNT　3m　-81 dB

⑦ センタースピーカーからの距離の設定

リスニングポジション（視聴位置）からの距離を合わせます。
「①スピーカーの設定」で、センタースピーカー：無（＊）を選んでいる場合は設定できません。

センター
スピーカー

2.7m

視聴位置

25ページの手順1～3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

センタースピーカーからの距離を設定する。

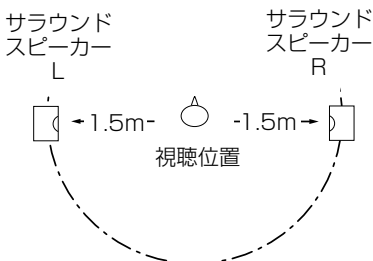
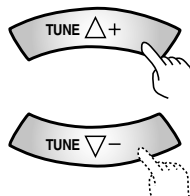
0.3～9mの間を0.3m間隔で設定します。

CENT　2.7m　-81 dB

⑧ サラウンドスピーカーからの距離の設定

リスニングポジション（視聴位置）からの距離を合わせます。

「①スピーカーの設定」で、サラウンドスピーカー：無（＊）を選んでいる場合は設定できません。

25ページの手順1～3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

サラウンドスピーカーからの距離を設定する。

0.3～9mの間を0.3m間隔で設定します。

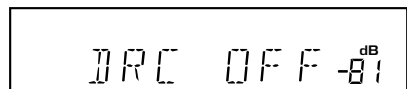
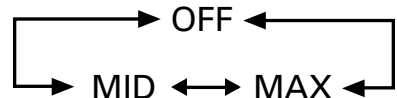
SURR　1.5m　-81 dB

⑨ダイナミックレンジコントロールの設定

通常はこの設定を変える必要はありませんが、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトで、音量を下げて映画を観ているときに、微小な音を聞きとりやすくしたいときに設定を行います。ダイナミックレンジとは再生能力を表す用語で、どのくらい小さな音からどのくらい大きな音までを正しく（小さな音はノイズに埋もれずに、大きな音は歪まずに）再生できるかを数値（dB）で表わしたものです。ここでの設定ではダイナミックレンジを圧縮することができます。ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ダイナミックレンジコントロール対応のドルビーデジタルソフトだけですが、ほかのソフトでもミッドナイトリスニングモードで同様の効果が得られます。

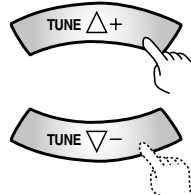
25ページの手順1～3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

- はじめはOFFに設定されています。
- 小さな音量で楽しむ場合は、MAXに設定することを、大きな音量で楽しむ場合は、OFFに設定することをおすすめします。
- さまざまなドルビーデジタル対応ソフトを小音量でお試しください。

1

⑩デュアルモノの設定

通常はこの設定を変える必要はありませんが、デジタル入力がドルビーデジタルのデュアルモノ（フォーマット）信号の時、どちらのチャンネルをどこのスピーカーから再生させるかを設定することができます。（例：音声多重放送の2カ国語音声をドルビーデジタルで収録したDVRソフトを楽しむとき）

25ページの手順1～3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

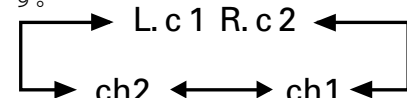
1

再生するスピーカーと音声チャンネルを設定する。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

L.c1 R.c2: デュアルモノのチャンネル1の音声をフロント左スピーカーより、デュアルモノのチャンネル2の音声をフロント右スピーカーより再生します。

ch1: デュアルモノのチャンネル1の音声のみ左右フロントスピーカーより再生します。DD/DTSモードがONのときはセンタースピーカーより再生します。

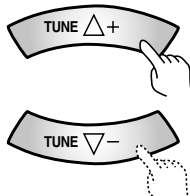
ch2: デュアルモノのチャンネル2の音声のみ左右フロントスピーカーより再生します。DD/DTSモードがONのときはセンタースピーカーより再生します。

メモ

- デュアルモノの設定は、ドルビーデジタルの1+1デュアルモノラル信号で記録されているソースにのみ有効です。
- 「①スピーカーの設定」でセンタースピーカーを無しで設定した場合は、左右フロントスピーカーより再生されます。

⑪ コンポーネントビデオ入力1の設定

通常はこの設定を変える必要はありませんが、本機のCOMPONENT VIDEO入力端子にリアパネル表記（DVD/LD）IN❶と異なるビデオ機器を接続した場合のみ、この設定が必要となります。

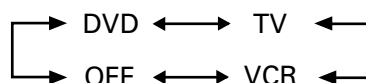
25ページの手順1〜3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

(DVD/LD)IN❶端子に接続している機器を設定する。

例えばVCRを接続している場合、「VCR」に設定します。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

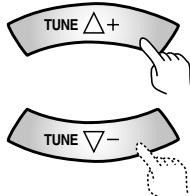
DVD ←→ TV
OFF ←→ VCR

メモ

- コンポーネントビデオ入力2と同じ機器を設定することはできません。この場合、もともと設定してあった方がOFFとなります。
- はじめはDVDに設定されています。

⑫ コンポーネントビデオ入力2の設定

通常はこの設定を変える必要はありませんが、本機のCOMPONENT VIDEO入力端子にリアパネル表記（TV/SAT）IN❷と異なるビデオ機器を接続した場合のみ、この設定が必要となります。

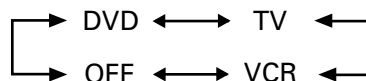
25ページの手順1〜3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

(TV/SAT)IN❷端子に接続している機器を設定する。

例えばDVDを接続している場合、「DVD」に設定します。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

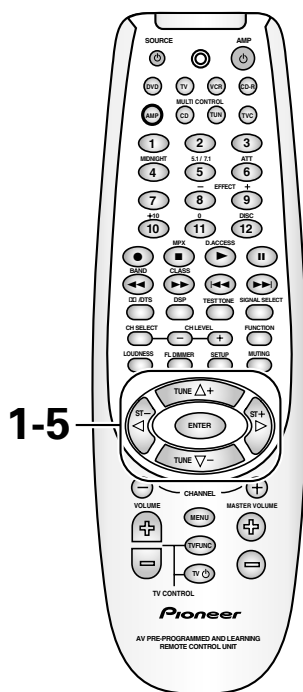
DVD ←→ TV
OFF ←→ VCR

メモ

- コンポーネントビデオ入力1と同じ機器を設定することはできません。この場合、もともと設定してあった方がOFFとなります。
- はじめはTVに設定されています。

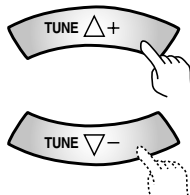
⑬〜⑮ デジタル入力（DIGITAL IN）の設定

工場出荷時と同じ接続（リアパネル表記と同じ機器を接続）をしたときはこの設定を変える必要はありません。
ここでは、デジタル入力端子に接続したデジタル機器を、どの入力ファンクションで再生するかを設定します。
どのデジタル機器をどこのデジタル入力端子に接続したかを確認しておいてください。

工場出荷時、同軸デジタル入力（COAX）はDVD/LDに、光デジタル入力1（OPT1）はCDに、光デジタル入力2（OPT2）はCD-R/TAPE/MDに設定されています。

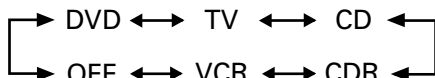
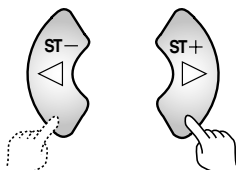
メモ

- 同軸デジタル入力（COAX）と光デジタル入力（OPT❶、❷）はいずれも同じ入力を割り当てることはできません（デジタル入力の設定で２つ以上のデジタル端子を同じ入力切換に設定した場合、あとから設定したデジタル入力が優先され、ほかのデジタル入力はオフになります）。
- デジタル入力の接続ができる入力切換はDVD/LD、TV/SAT、CD、CD-R/TAPE/MD、VCR/DVRです。
- 同軸デジタル入力は、はじめはDVDに設定されています。
- 光デジタル入力❶は、はじめはCDに設定されています。
- 光デジタル入力❷は、はじめはCDRに設定されています。

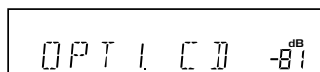
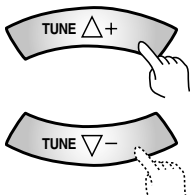
25ページの手順1〜3を行ってください。（前の設定から続けて設定を行う場合は下記の手順1へお進みください）

1

同軸デジタル入力を設定する。

例えばCDを接続している場合、「CD」に設定します。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

2

光デジタル入力1の設定モードを呼び出す。

ディスプレイを下記の状態にする。

3

光デジタル入力1を設定する。

例えばDVDを接続している場合、「DVD」に設定します。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

4

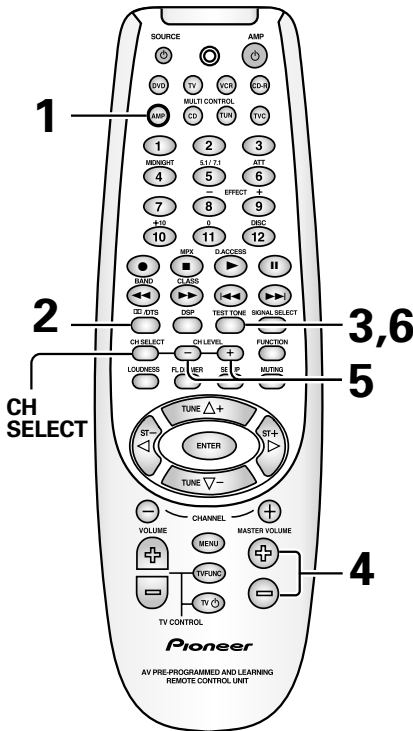
光デジタル入力2も設定を切り換える必要があれば同じように割り当てたい入力に設定します。

工場出荷時はCD-R/TAPE/MDに設定されていますのでそれ以外の接続をしたときに設定します

5

デジタル入力の設定モードを終了する。

各チャンネルの音量レベルを合わせる（各スピーカーの音量バランスを調整する）

設定モードでサラウンドの設定と入力切換の設定が終わりましたら、最後に以下の手順で各チャンネルの音量レベルを合わせてください。

1

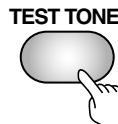
アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

2

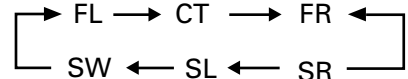
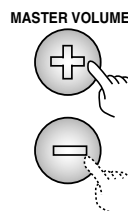
/DTSモードをONにする。

PRO LOGICインジケーターが点灯します。

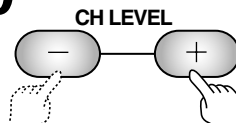
3

テストトーンモードをONにする。

テストトーン（ザーという音）が出力されます。

/DTSモードON以外では、テストトーンは出力されません。

テストトーンの出力される順番が以下の様に自動的に切り換わります。

4

お好みに音量を調整する。

−−−dB（MIN）〜0dB（MAX）の間で調整します。

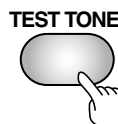
5

各スピーカーから出力されるテストトーン(ザーという音)の音量が同じになるようにレベルを調整する。

チャンネルレベルは±10dBの範囲で調整できます。

6

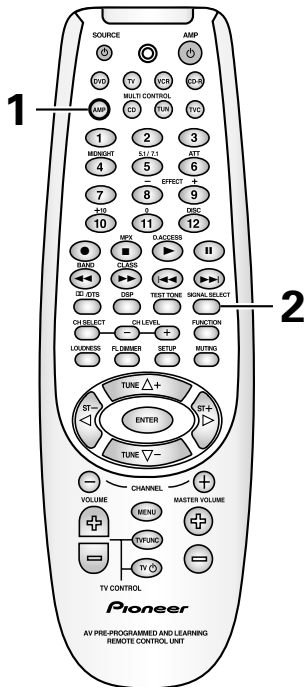
テストトーンをOFFにする。

全てのセットアップが終了しました。お好みのソースを再生してください。

メモ

- はじめは0dBに設定されています。
- サブウーファーのテストトーンは、聴感上小さく聞こえます。
- テストトーンを出力していないときでも、CH SELECTボタンとCH LEVELボタンを使って、調整することができます。
- /DTSモード、各DSPモード、DVD5.1ch、ステレオのそれぞれに独立してレベルを設定することができます。
- DVD5.1ch入力のときは/DTSモードの操作はできません。

本機の操作

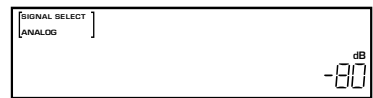
アナログ／デジタル信号を切り換える

32ページ「デジタル入力(DIGITAL IN)の設定」で設定された入力切換は、アナログとデジタルの入力信号を切り換えることができます。この入力信号を切り換えるにはフロントパネルまたはリモコンのSIGNAL SELECTボタンを使用します。

1 **アンプ操作モードにする。**

リモコンがアンプ操作モードになります。

2 **入力信号の形式に合わせてアナログ信号とデジタル信号を切り換える。**

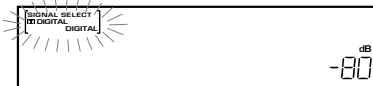
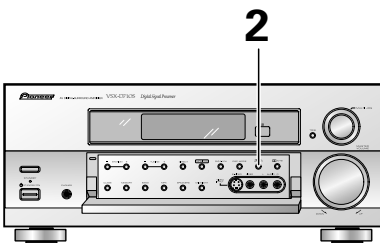
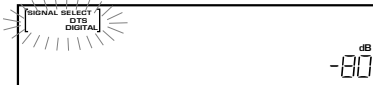
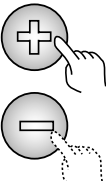
押すたびに、ANALOGとDIGITALが切り換わります。

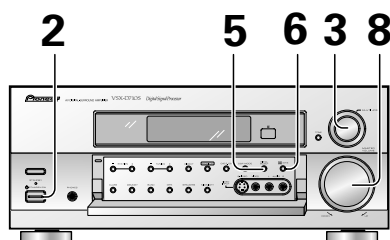
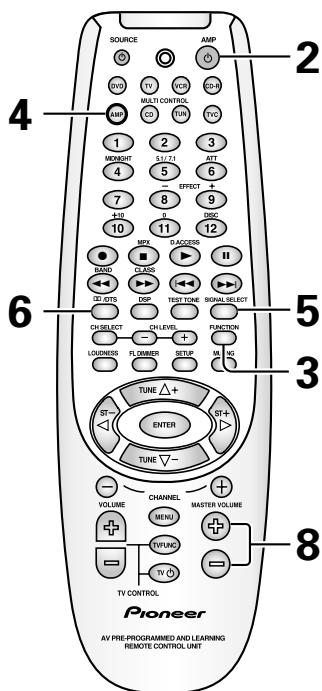
入力信号がANALOGのとき

入力信号がDIGITALのとき

SIGNAL SELECTでDIGITALを選択している場合、ドルビーデジタルの信号が入力されると、フロントパネルディスプレイの ▯▯ DIGITALインジケーターが点灯します。また、DTS信号が入力されるとDTSインジケーターが点灯します。

ドルビーデジタル信号が入力されているとき

DTS信号が入力されているとき

メモ

- 3つのデジタル入力端子のいずれにも割り当てられていないファンクションについては、SIGNAL SELECTはANALOGに固定されます。（32ページ「デジタル入力(DIGITAL IN)の設定」をご覧ください）
- カラオケ機器のマイク音声、およびアナログオーディオのみ収録されているLDの音声はデジタル出力からは出力されません。必ずSIGNAL SELECTでANALOGを選択してください。
- 本機は、ドルビーデジタル、PCM（32kHz、44kHz、48kHz）、DTSのデジタル信号にのみ対応しています。これ以外のデジタル信号は再生できませんので、その場合はアナログ接続してSIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択してください。
- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態で DTS対応のソフトを再生すると、プレーヤーによってはDTS信号がデコーディングされずにそのまま再生されてしまうため、ノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐには、これらの機器をデジタル接続し（18ページ）、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択してください。
- DVDプレーヤーの機種によっては、DTS信号を出力しないものがあります。詳しくは、お使いのDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

操作を行う前には必ず、本機の主電源ボタンをON（スタンバイインジケーター点灯）にしてください。

ドルビーデジタルまたはDTS対応ソフトの再生

1 再生機器の電源を入れる。

2 AMP

本機の電源を入れる。

スタンバイインジケーターが消灯します。

3 FUNCTION

再生するソースを選ぶ。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

→ VCR/DVR → DVD/LD → VIDEO → TV/SAT → CD → TUNER → AUX → CDR/TAPE →（VCR/DVRに戻る）

4 AMP

アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

5 SIGNAL SELECT

入力信号をデジタルにする。

SIGNAL SELECTはDIGITALが点灯します。

6 ◻◻ /DTS

◻◻/DTSモードをONにする。

7 手順 1 で選んだ機器の再生を開始する。

8 MASTER VOLUME

好みの音量に調整する。

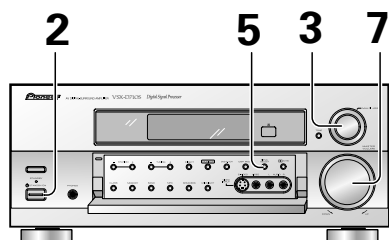
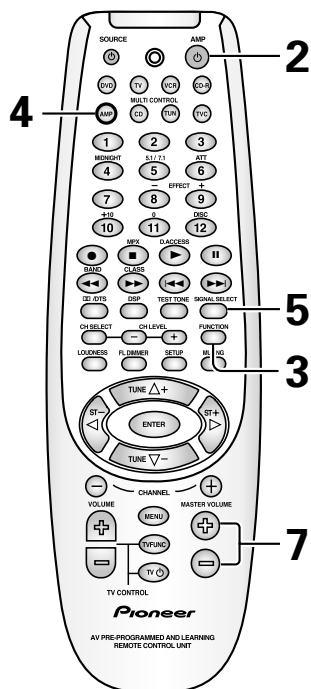
−−−dB（MIN）～0dB（MAX）の間で調整します。

メモ

- SIGNAL SELECTボタンでANALOGを選択した状態で DTS対応のソフトを再生すると、プレーヤーによってはDTS信号がデコーディングされずにそのまま再生されてしまうためノイズが発生します。ノイズの発生を防ぐにはこれらの機器をデジタル接続し(18ページ)、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択(34ページ)してください。
- **ドルビーデジタル対応のLDをドルビーデジタルで再生するには**
  DVD/LDプレーヤーまたは LDプレーヤーのAC-3 RF出力を本機で再生するには、別売のRF デモジュレーターが必要です。RF デモジュレーターはRF信号をデジタル信号に変換します。このデジタル信号を本機のデジタル入力端子に接続します。詳しくは、RF デモジュレーターの取扱説明書をご覧ください。

本機の操作

操作を行う前には必ず、本機の主電源ボタンをON（スタンバイインジケーター点灯）にしてください。

本機と接続した機器の再生

1 再生機器の電源を入れる。

2 AMP

本機の電源を入れる。

スタンバイインジケーターが消灯します。

3 FUNCTION

再生するソースを選ぶ。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

→ VCR/DVR → DVD/LD → VIDEO → TV/SAT → CD → TUNER → AUX → CDR/TAPE →

4

アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

5 SIGNAL SELECT

入力信号の形式に合わせてアナログ信号とデジタル信号を切り換える。

押すたびに、ANALOGとDIGITALが切り換わります。

6 手順 1 で選んだ機器の再生を開始する。

7 MASTER VOLUME

好みの音量に調整する。

－－－dB（MIN）～0dB（MAX）の間で調整します。

メモ

- ご使用後は、リモコンの AMP ボタンを押してください。電源が切れてSTANDBYインジケーターが点灯します。
- チャンネルレベルの設定によっては、音量レベルのMAXレベル表示が0～－10dBの範囲で変わることがあります。
- 長時間ご使用にならないときは、主電源をOFFにすることをおすすめします。
（リモコンで主電源をOFFにすることはできません。）

サラウンドを楽しむ

サラウンドモードについて

本機では通常のサラウンド再生時の「STANDARD」モードに加え、パイオニア独自の「ADVANCED THEATER」モードや「DSP」モードを搭載し、さまざまなサラウンドを楽しむことができます。

メモ

各種サラウンドモードで再生を始める前に、再生ソフトに合せた最適なサラウンド設定を行ってください(詳しくは25〜30ページをご覧ください)。とくにドルビーデジタルやDTS対応のソフトを再生する場合は、サラウンドの設定が重要な役割を果たします。サラウンドモードでの再生には、スピーカーAを使用します。スピーカーBまたはA+Bを選択してDSPモード、DD/DTSモードをONにすると、強制的にスピーカーAに切り換わります。スピーカーの接続については21ページを、スピーカーシステムについては44ページをご覧ください。

STANDARDモード

ドルビーデジタルやDTS対応音声はそのまま忠実にデコードし、2チャンネルの音声はドルビープロロジックでデコードします(DTS信号以外)。このモードは、DTS(デジタルシアターシステム)とドルビーデジタルとドルビーサラウンドのソースに対応しており、再生する音楽ソフトや映画がDTS対応か、ドルビーサラウンド対応か、ドルビーデジタル対応かを自動的に検出してデコーディング方式を切り換えます。

ADVANCED THEATERモード

このモードは、映画のサウンドトラックやそれ以外のオーディオビジュアルソフトを最適な音声で楽しむために新たに追加されたモードです。このモードは、DTS(デジタルシアターシステム)とドルビーデジタルとドルビーサラウンドのソースに対応しており、再生する音楽ソフトや映画がDTS対応か、ドルビーサラウンド対応か、ドルビーデジタル対応かを自動的に検出してデコーディング方式を切り換えます。ADVANCED THEATERモードには、DSP(デジタルシグナルプロセッシング)を使った以下の4つの設定があります。再生する映画または音楽ソフトに合わせて選択してください。

- MUSICAL
  ほとんど球に近い理想の空間での反射音を再現します。宇宙空間に漂う未来のコンサートホールのイメージです。音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生に効果的です。
- DRAMA
  リアスピーカーからの音が一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで、落ち着いた雰囲気で映画を楽しんでいただけます。幅広い範囲でサラウンド効果が楽しめ、直接音もしっかりと響きます。ストーリー性重視の映画の再生に効果的です。
- ACTION
  包み込むような空間での反射音を再現します。大きい音がしっかり定位し、躍動感、スピード感が楽しめます。アクションシーンや戦闘、爆発シーンの迫力が、包み込むように再現され、映画の迫力や臨場感を、あますところなく楽しんでいただけます。アクション系の映画の再生に効果的です。
- EXPANDED
  ドルビーサラウンドや2チャンネルで録音されているソースに対しては、ドルビーデジタルの5.1chサラウンドのような効果を実現します。また、ドルビーデジタルに対してはより広がりのある音場を実現します。

DSPモード

ＤＳＰ（デジタルシグナルプロセッシング）モードは、標準のステレオ（2チャンネル）ソフトやドルビーサラウンド対応ソフトを、最適な環境で楽しむためのモードです（5.1チャンネルで収録された音声でも使用できます）。

- HALL 1
  大型のコンサートホールをシミュレートしています。クラシック系の音楽に適しています。反射音の遅延時間帯が長く、さらに残響音を加えることでコンサートホール特有の美しい響きと、オーケストラの迫力が楽しめます。
- HALL 2
  石（コンクリート製）のコンサートホールをシミュレートしています。残響音豊かな本格的コンサートホールの響きを楽しむことができます。クラシック音楽などで自然な広がりを感じていただけます。
- JAZZ
  一般的なジャズクラブをシミュレートしています。音の響きが強くなるのが特徴です。反射音のほとんどが100ms以下で、目の前で演奏しているような迫力を楽しめます。
- DANCE
  ダンスフロアの床面が正方形をしているディスコをシミュレートしています。音の響きが強いのが特徴です。反射音の遅延時間はほとんどが50ms以下で、迫力あるディスコサウンドが楽しめます。
- THEATER 1
  各チャンネルの定位感を損なわずに中型映画館の音響効果を再現します。
- THEATER 2
  各チャンネルの定位感を損なわずに映画館の音場を再現します。

STANDARDとADVANCED THEATERモードを切り換える（ꟷꟷ/DTSモードを切り換える）

STANDARDとADVANCED THEATERモードを切り換えます。STANDARDまたはADVANCED THEATERモードがONのときには、入力される信号に応じてドルビープロロジックサラウンド、ドルビーデジタル、DTSが自動的に切り換わります。それぞれのサラウンド効果についての特長は、37ページをご覧ください。

1

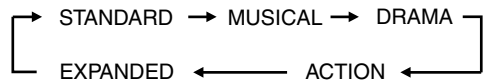
アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

2

ꟷꟷ/DTSモードを選択する。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

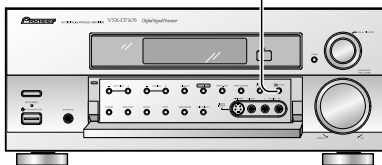
STANDARD → MUSICAL → DRAMA → ACTION → EXPANDED → STANDARD

それぞれのサラウンド効果についての特長は、37ページをご覧ください。

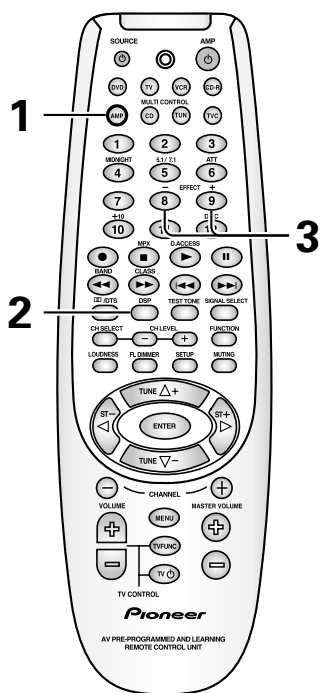
3

ADVANCED THEATERの効果を調整する。

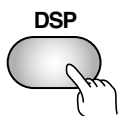
エフェクトレベル（サラウンドの効果）は10～90の間で調整することができます。

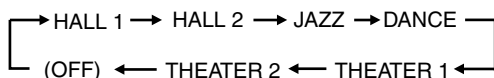
メモ

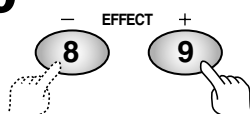
- エフェクトレベル（サラウンドの効果）の初期設定は、70に設定されています。
- STANDARDモードではエフェクトレベルは動作しません。

DSPモード（6つの音場を切り換える）

1

アンプ操作モードにする。

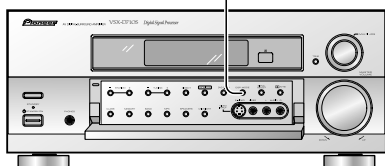
リモコンがアンプ操作モードになります。

2

DSPモードを選択する。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

それぞれのサラウンド効果についての特長は、38ページをご覧ください。

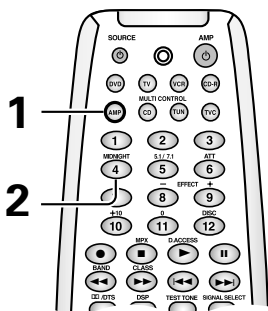
3

DSPの効果を調整する。

エフェクトレベル（サラウンドの効果）は10〜90の間で調節することができます。

- エフェクトレベル（サラウンドの効果）の初期設定は、70に設定されています。
- スピーカーシステムがOFFに設定されているときはDSPモード、DD/DTSモードをONにすることはできません。

便利な音声再生用機能

ミッドナイトリスニングモードで楽しむ

音が小さいと、どうしても響きが少なくなったり、微妙な音が聞こえなかったりします。このミッドナイトリスニングモードでは、小音量でも映画や音楽の情報を聞き漏らすことなく、見ている映画、または聞いている音楽を楽しんでいただけます。
夜間など､小音量でサラウンド再生させたいときにこのモードをONにします。

1

アンプ操作モードにする。

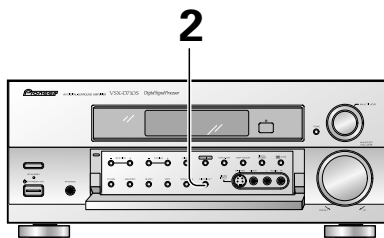
リモコンがアンプ操作モードになります。

2

ミッドナイトリスニングモードをONにする。

MIDNIGHTインジケーターが点灯します。

ボタンを押すたびに、ミッドナイトリスニングモードがONまたはOFFに切り換わります。

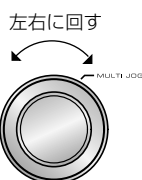
- 音量に合せてサラウンド効果も自動調整されます。
- DVD 5.1ch 入力モードでは、ミッドナイトリスニングモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにミッドナイトリスニングモードをONにすると、ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。

低音、高音を調整する(トーンコントロール)

低音、高音の調節（トーンコントロール）は本体のTONEボタンとマルチジョグを使って調整できます。

1

低音(BASS)か高音(TREBLE)のどちらのトーンを調整するか選択する。

ボタンを押すたびに、低音(BASS)と高音(TREBLE)が切り換わります。

2

トーンを調整する。

トーンコントロールはそれぞれ±6dBの範囲内で2dBステップで調整できます。

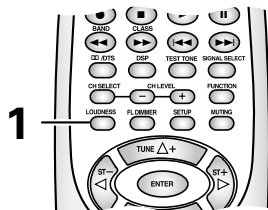
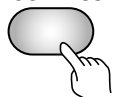
メモ

- 以下の場合、トーンコントロールの操作はできません。
  ① ㏈/DTSモードがONのとき
  ② DSPモードがONのとき
  ③ DVD5.1ch入力を選んでいるとき
  ④ スピーカーシステムBを選択しているとき
  （スピーカーBにはトーンコントロールできません）

小さな音でも音声を聴き取りやすくする（ラウドネスモード）

ラウドネスモードを使用すると、低音域、高音域のレベルが上がり、小さな音でも音声を聴き取りやすくできます。

ラウドネスモードのON/OFF設定はリモコンでのみ操作できます。

1

ラウドネスモードをONにする。

LOUDNESSインジケーターが点灯します。

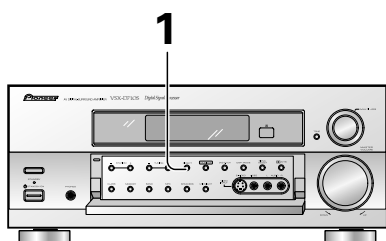
ボタンを押すたびに、ラウドネスモードがONまたはOFFに切り換わります。

- DVD 5.1ch 入力モードでは、ラウドネスモードは選択できません。
- ダイレクト再生モードのときにラウドネスモードをONにすると、ダイレクト再生モードは自動的にOFFになります。

ダイレクト再生モード

トーンコントロールやチャンネルレベルなど通さずにステレオ再生します。

ダイレクト再生モードのON/OFF設定は本体前面部でのみ操作できます。

1

ダイレクト再生モードをONにする。

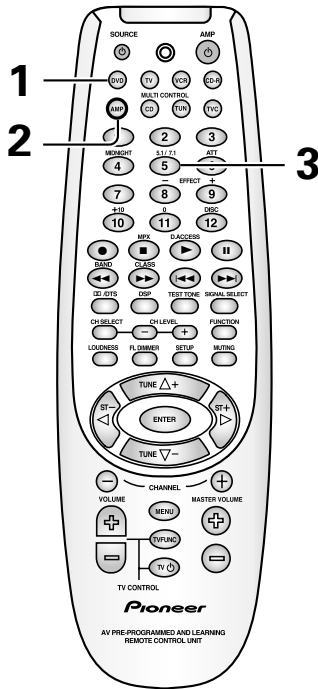
DIRECTインジケーターが点灯します。

このモードは2チャンネルソースを忠実に再生します。

ボタンを押すたびに、ダイレクト再生モードがONまたはOFFに切り換わります。

- トーンコントロールやその他のリスニングモードは使えません。

DVD 5.1ch入力を再生する

DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーや、外部デコーダーなどの5.1チャンネルアナログ出力付き機器を接続して、5.1チャンネルのサラウンドサウンド再生を楽しむことができます。

1

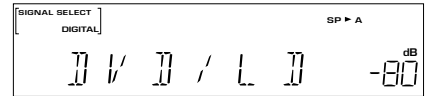
再生するソースをDVD/LDにする。

2

アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

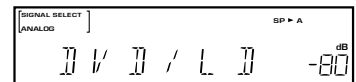
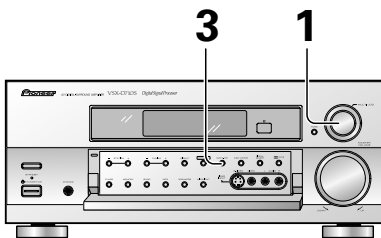
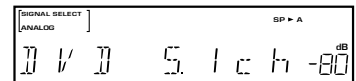
3

5.1 / 7.1

再生するソースに合わせてDVD/LDとDVD5.1chを切り換える。

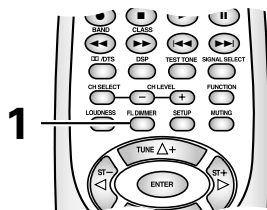
押すたびに、以下の様に切り換わります。

5.1ch入力以外を選択したとき

5.1ch入力を選択したとき

メモ

- DVD 5.1ch入力のときは、DD/DTSモード、DSPモード、SIGNAL SELECT、INPUT ATT、ダイレクト、トーンコントロール、ミッドナイトリスニングモード、ラウドネスモードの操作はできません。
- DVD5.1ch入力のときは、音量レベルと各チャンネルレベル以外の設定は本機ではできません。

ディスプレイの明るさを調整する

リモコンのFL DIMMERボタンを使って、フロントパネルディスプレイの明るさを調整できます。

好みの明るさに調整する。

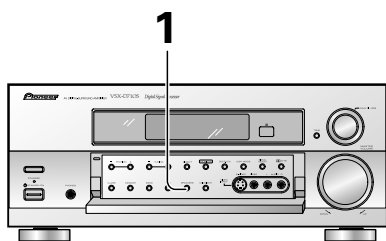
押すたびにディスプレイの明るさが4段階で切り換わります。

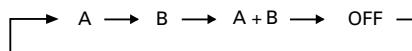
一巡すると、通常の明るさに戻ります。

- スタンバイ時に、本体の ⅮⅮ/DTSボタンを押しながら本体の電源STANDBY/ONボタンを押すと、通常の明るさに戻ります。

スピーカーシステム（A、B、A+B）について

本機にはスピーカーシステム「A」「B」「A+B」の3つのスピーカーシステムがあります。これらのスピーカーシステムはSPEAKERSボタンで選択します。スピーカーシステムは各ファンクションごとに設定することができます。接続しているスピーカーに応じてスピーカーシステムを切り換えてください。

スピーカーシステムの切り換えは本体前面部でのみ操作できます。

スピーカーシステム切り換える。

ボタンを押すたびに、以下のように切り換わります。

スピーカーA ：サラウンド再生に対応しています。
スピーカーB ：フロントスピーカーB に接続されているスピーカーからのみ音が出ます。
スピーカーA+B：フロントスピーカーA、フロントスピーカーB、サブウーファーからのみ音が出ます。**センタースピーカー、サラウンドスピーカーからは音が出ません。**

- ヘッドホンをお使いになる場合はスピーカーシステムをOFFにしてください。

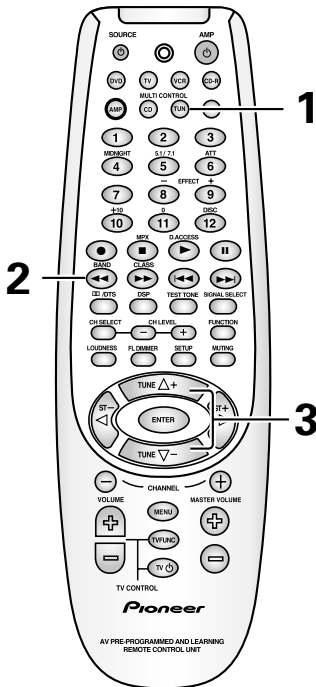
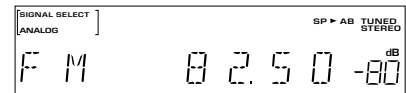
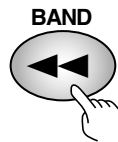
ラジオ放送を聞く

放送局の受信のしかた

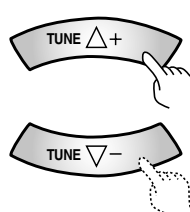
アンテナが接続されていないと、FM/AM放送を聞くことはできません。

1

チューナーモードを選ぶ。

2

AMとFMを切り換える。

押すたびに、AMとFMが切り換わります。

3

放送局を受信する。

受信のしかたには、3種類あります。
自動的に放送局を受信するオートチューニング、手動で1ステップずつ周波数を合わせていくマニュアルチューニング、同じく手動で周波数を合わせるハイスピードマニュアルチューニングとがあります。

オートチューニング

ボタンを押して、周波数が動きはじめたら指を離す。

周波数が自動的に変化して、放送局を受信すると止まります。
途中で止めるときはTUNE+ボタンまたはTUNE–ボタンを押します。

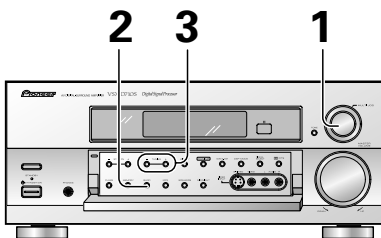
マニュアルチューニング

ボタンを1回ずつ押す。

周波数が1ステップずつ変化します。
1ステップはFM放送が0.05MHzで、AM放送が9kHzです。

ハイスピードマニュアルチューニング

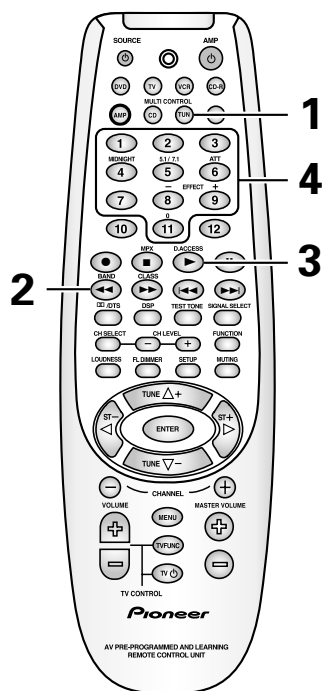
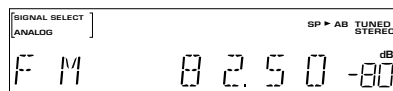
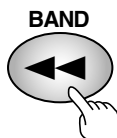
ボタンを押し続けます。

周波数が連続して変化します。指を離すと止まります。

ダイレクトに放送局を受信する。

聞きたい放送局の周波数をすでに知っているときは、リモコンを使ってダイレクトに周波数を入力し、呼び出すことができます。

1

チューナーモードを選ぶ。

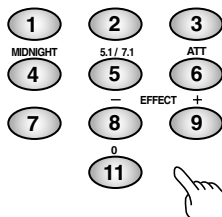
2

AMとFMを切り換える。

押すたびに、AMとFMが切り換わります。

3

ダイレクトアクセスモードにする。

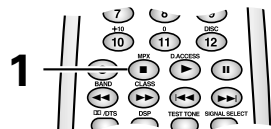
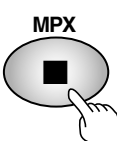
もういちど押すと、ダイレクトアクセスモードは中止されます。

4

放送局の周波数を入力をする。

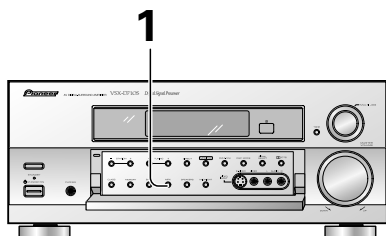
たとえば周波数82.5を入力する場合、「0-8-2-5-0」の順に数字ボタンを押します。

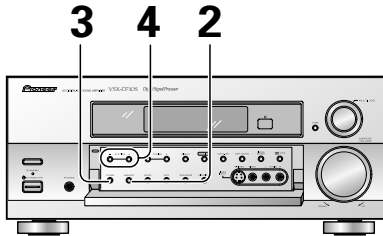
0は 11 ボタンを使います。

MPXモードを使う

FM局を聞いているとき、受信電波が弱いため、TUNEDもしくはSTEREOインジケーターが点灯しないときがあります。そのようなときはMPXモードでモノラル受信にすることでノイズを低減させることができます。

1

モノラル受信にする。

MONOインジケーターが点灯します。

押すたびに、モノラル受信とステレオ受信が切り換わります。

放送局を記憶する

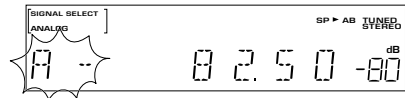
本機では、よく聞く放送局をA.B.Cのクラスに各10局、合計30局まで記憶することができます。
放送局を記憶させる操作は本体前面部でのみ行えます。

1 **記憶したい放送局を受信する。**

放送局の受信のしかたは45ページの「放送局の受信のしかた」と46ページの「ダイレクトに放送局を受信する」をご覧ください。

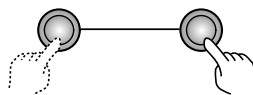
2

放送局記憶モードにする。

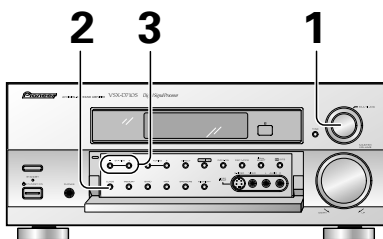
クラスが点滅します。

3

クラスを選ぶ。

押すたびにクラスのA.B.Cが切り換わります。

4

ステーション番号を選ぶ。

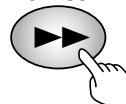
お好みのステーション番号を選択すると、メモリークラスとステーション番号が約5秒間点滅し、本機はその受信局を記憶します。

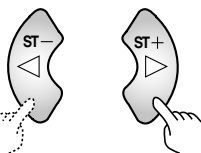
手順1～4を繰り返して30局まで記憶することができます。

記憶した放送局を呼び出す

1

チューナーモードを選ぶ。

本体の場合はマルチジョグで選びます。

2

呼び出したい局が記憶されているメモリークラスを選ぶ。

3

呼び出したい局が記憶されているステーション番号を選ぶ。

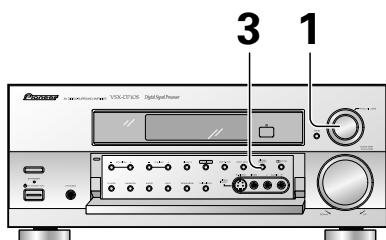
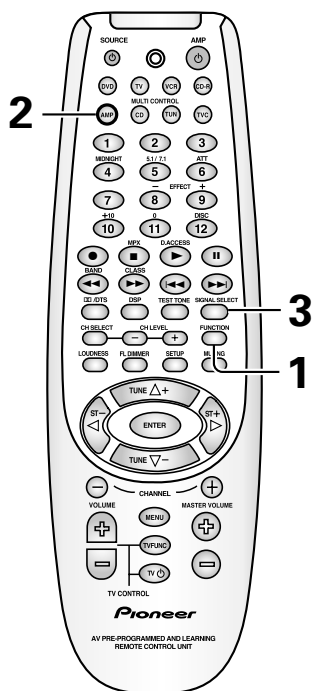
リモコンの数字ボタンでも選ぶことができます。本体の場合はSTATION+/–ボタンで選びます。

- 旅行などで長期間本機の電源コードを電源コンセントから抜いておいたり、主電源をOFFにしておきますとステーションメモリーは消去されます。

他機器の操作

オーディオ機器からの録音

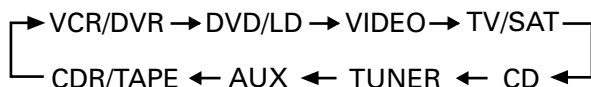
オーディオ機器からの音声を、本機の端子に接続された録音機器に録音することができます。

アナログ録音する場合は本機のリアパネルのCD-R/TAPE/MD端子に録音機器を接続してください（18ページ）。デジタル録音する場合は本機のリアパネルのDIGITAL OUT端子に光デジタル入力端子を持つデジタル録音機器を接続し、PCM/ꟿ/DTS DIGITAL IN端子に録音ソースのデジタル機器を接続してください（18〜19ページ）。

1 FUNCTION

録音するソースを選ぶ。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

→VCR/DVR→DVD/LD→VIDEO→TV/SAT
CDR/TAPE←AUX←TUNER←CD←

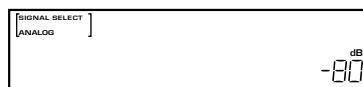
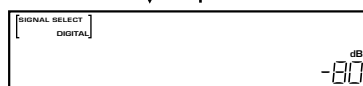
2 AMP

アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

3 SIGNAL SELECT

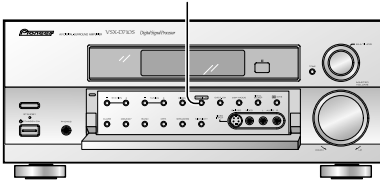
アナログ録音するときはANALOGを、デジタル録音するときはDIGITALを選ぶ。

押すたびに、ANALOGとDIGITALが切り換わります。

アナログ録音するとき

デジタル録音するとき

4 **録音機器の録音を開始する。**

5 **録音するソースを再生する。**

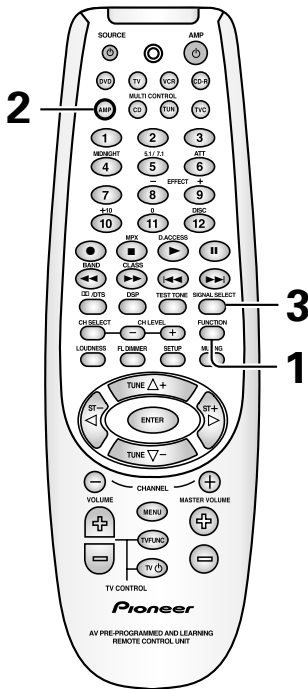
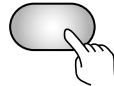
メモ

- アナログ録音したいときはアナログ接続されている機器どうしの場合のみ録音することができます。デジタル録音の場合も、デジタル接続されている機器どうしのみ録音することができます。
- 本機の音量、チャンネルレベル、トーンコントロール（TREBLE、BASS）、サラウンドの設定は、録音信号には効果がありません。
- 信号や録音機器によっては、デジタル出力はできてもコピーガードによりデジタル録音できないものがあります。この場合はアナログ接続で録音してください。
- 録音するソースがCDR/TAPEの場合、CD-R/TAPE/MDのREC端子には音が出ません。

録音モニター

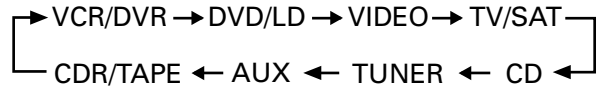
録音モニター付きのカセットデッキをCD-R/TAPE/MD端子に接続すると、録音しながら録音されている音声を聴くことができます。

ソース機器の再生音と録音されている音を切り換えるには、 MONITORボタンを押します。

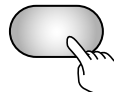
ビデオ機器からの録画

ビデオ機器からの画像、音声を、本機のリアパネルのVCR /DVR端子に接続されたビデオデッキまたはDVDレコーダーで録画することができます。VCR /DVR端子からの出力はアナログ信号になります。

1 FUNCTION

録画するソースを選ぶ。

押すたびに、以下の様に切り換わります。

2

アンプ操作モードにする。

リモコンがアンプ操作モードになります。

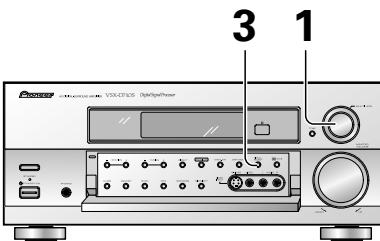
3 SIGNAL SELECT

入力信号の形式をアナログ信号に合わせる。

押すたびに、ANALOGとDIGITALが切り換わります。

4 **録画機器の録画を開始する。**

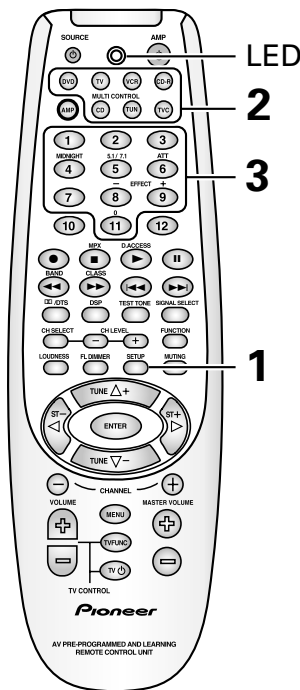
5 **録画するソースを再生する。**

メモ

- 本機の音量、チャンネルレベル、トーンコントロール（TREBLE、BASS）、サラウンドの設定は、録音信号には効果がありません。
- DVDなどのビデオソフトの中にはコピーガードが設定されていて録画できないものがあります。
- デジタル信号およびAC-3RF信号を録音することはできません。
- 録音するソースがCDR/TAPEの場合、CD-R/TAPE/MDのREC端子には音が出ません。

他機器を操作するためのリモコン設定

付属のリモコンを使って、本機以外のパイオニア製品や他社の機器（ビデオデッキ、テレビ、LD、CDプレーヤーなど)を操作することができます。お手持ちの機器のプリセットコードがリモコンに登録されている場合は、該当するコードを呼び出して簡単に本機のリモコンで操作できるようになります。お手持ちの機器のプリセットコードがリストに記載されていない場合でも、その機器に付属のリモコンから直接登録（学習）することが可能です。

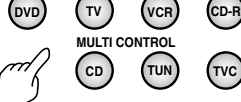
他社のリモコン信号を本機のリモコンに呼び出す（ダイレクトプリセットコード設定）

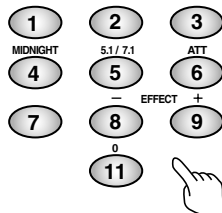
リモコンを使って、お手持ちのパイオニア製品や他社の機器（DVDプレーヤー、MDレコーダー、VCR、TV、LDプレーヤー、CDプレーヤーなど）を操作することができます。他社の機器をお持ちの場合は次の設定を行ってください。

SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

プリセットコード設定モードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

プリセットコード設定モードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

2

設定するマルチコントロールを選ぶ。

3

メーカーコードリスト(61～67ページ)で確認したメーカーコードを入力する。

正しいコードナンバーが入力されるとLEDランプが2秒間点灯します。間違ったコードナンバーが入力されるとLEDランプが3回点滅します。

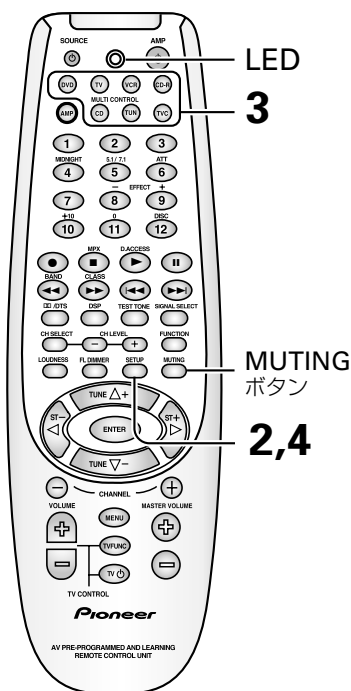
コードナンバーが正しく入力されても間違って入力されてもプリセットコード設定モードは終了します。

4 **他の機器もプリセットコードを設定したい場合は手順1～3を繰り返します。**

メモ

- プリセットコードの設定を解除したいときは、手順3で0000を入力してください。手順2で指定したマルチコントロールの設定が解除されます。
- 30秒間なにも操作がない場合は、リモコンのセットアップモードを終了します。
- チューナーに他機器のプリセットコードを設定した時は、本機のチューナーの操作ができなくなります。本機のチューナーを操作したい時は手順3で7008のコードを入力してください。

サーチ機能によるプリセットコード設定

10個のプリセットコードを自動的にサーチしてリモコンに呼び出します。サーチされた10個のコードに他機器が反応した場合、その10個のコードの中から正しいコードを選びます。コードナンバーがわからないときに便利な設定のしかたです。

1 操作したい機器の電源を入れる。CDプレーヤーやVCRなど再生機能がある機器のときは再生してください。

2

SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

プリセットコード設定モードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

プリセットコード設定モードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

3

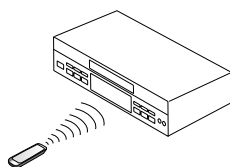
設定するマルチコントロールを選ぶ。

4

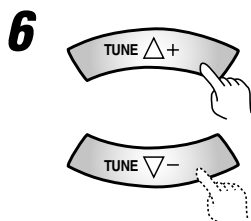
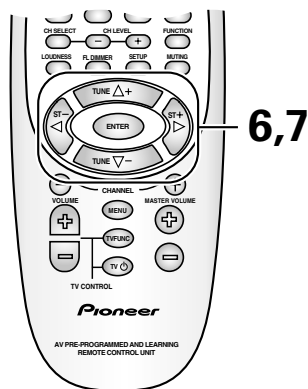
SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

10個のメーカーコードを呼び出す。(プリセットコードサーチモードにする)

10個のコードを呼び出している間、リモコンのLEDランプが点滅します。このときリモコンは手順1の機器に向けておいてください。手順1の機器が演奏停止したり、電源がOFFになった場合はメーカーコードが呼び出されたことになります。その場合は手順5へお進みください。LEDランプの点滅が終了しても手順1の機器になにも反応がなかった場合は、繰り返しSETUPボタンを2秒間押し続けます。

サーチモードを中止するにはMUTINGボタンを2秒間押し続けます。

5 操作したい機器の電源を再度入れる。再生が停止したときは再度再生する。

☞次のページへ続きます。

6

リモコンを手順1の機器
に向けて手順1の機器が
反応するまで押します。

10個のコードの中から手順1の機器に合ったコードを1つ選択する。

ボタンを押していくうちに手順1の機器が演奏停止したり、電源がOFFになった場合はメーカーコードが呼び出されたことになります。

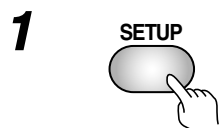
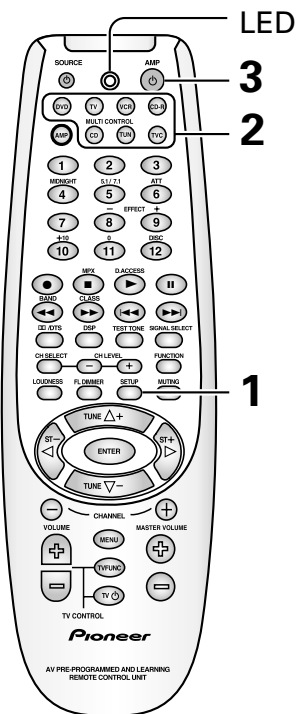
7

ENTERボタンを
3秒間押し続けます。

メーカーコードを設定する。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。
リモコンは通常操作に戻ります。

Learningセットアップモード（他機器のリモコン操作を本機のリモコンに登録する）

本機のリモコンで操作したい他機器のプリセットコードがメーカーコードリスト（61～67ページ参照）に見当たらない場合は、以下の手順で他機器のリモコンの操作を本機のリモコンに登録することができます。プリセットコードを登録しただけでは使用できない操作についても、以下の手順で本機のリモコンに追加登録（学習）することができます。

1

SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

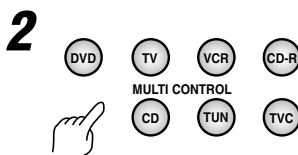
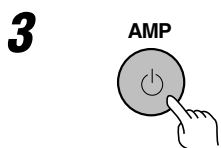
リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

リモコンのセットアップモードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

2

設定するマルチコントロールを選ぶ。

3

AMP ⏻ ボタンを
2秒間押し続けます。

Learningセットアップモードに入る。

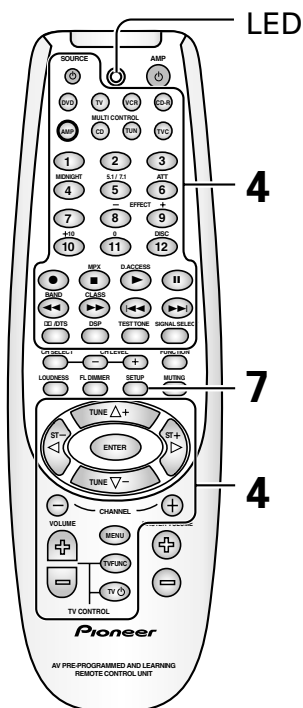
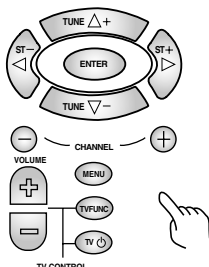
リモコンのLEDランプが点灯します。

Learningセットアップモードを中止するにはSETUPボタンを1秒間押し続けます。

30秒間なにも操作がない場合はLearningセットアップモードを終了します。

メモ

● リモコンによっては、操作を登録できないものもあります。また、手順5でリモコン同士の距離を変えてみることで、登録できる場合もあります。1〜10cm程度でも試してみて下さい。

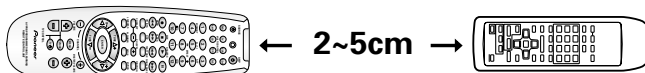
4

登録したい操作ボタンを選択する。

リモコンのLEDランプが素早く点滅します。

メモ

TV ⏻ 、TV FUNC、VOLUME +/−ボタンに登録できるマルチコントロールボタンは、TVCボタン（テレビ操作）とTVボタンのみです。

5 **本機のリモコンに他機器リモコンの登録したい操作ボタンを登録する。（以下の①〜②を行う）**

① 本機と他機器のリモコンを互いに下のように向ける。

② LEDランプが素早く点滅している間に、登録したい他メーカーのリモコンのボタンを押す。リモコンのLEDランプの点滅がいったん消えて、再度点灯したときは正しく登録されたことになります。正しく登録されなかった場合は、リモコンのLEDランプが3回点滅します。

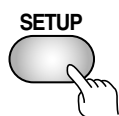
6 **登録を続ける場合は、以下の手順を行います。**

同じリモコンから別の操作を追加登録するには

手順4、5を繰り返します。

別のリモコンから操作を登録するには

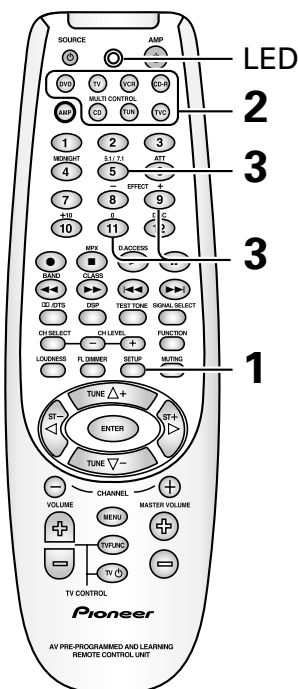
手順2〜5を繰り返します。

7

SETUPボタンを
1秒間押し続けます。

Learningセットアップモードを終了する。

リモコンは通常動作に戻ります。

ダイレクトファンクションモードを設定する

ダイレクトファンクションはMULTI CONTROLボタンを押したときに、本機の入力セレクターを切り換えるかどうかを設定する機能です。オフにすると入力セレクターは切り換わらず、リモコンの操作ボタンの機能だけが切り換わります。本機に接続されている機器と、直接テレビに接続されているため本機の入力切換動作が必要ない機器と区別できるようにするためのモードです。工場出荷時はすべてオンになっています。

1

SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

リモコンのセットアップモードに入る。

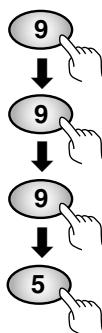
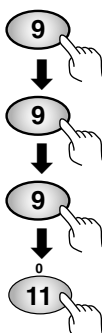
リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

リモコンのセットアップモードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

2

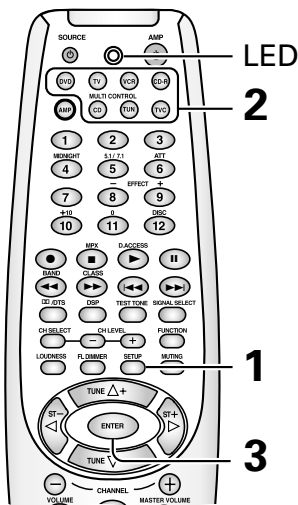
ダイレクトファンクションのON/OFF設定をしたいマルチコントロールボタンを選択する。

3 **ダイレクトファンクションのON、OFFを設定する。**

ダイレクトファンクションOFF

ダイレクトファンクションON

ダイレクトファンクションをOFFに設定するときは、9 ➡ 9 ➡ 9 ➡ 5 ボタンを順に押してください。

ダイレクトファンクションをONに設定するときは、9 ➡ 9 ➡ 9 ➡ ボタンを順に押してください。

リモコンのLEDランプが2回点滅すれば正しく設定されたことになります。

プリセットコードをチェックする

1

SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

リモコンのセットアップモードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

2

プリセットコードをチェックしたいマルチコントロールボタンを選択する。

3

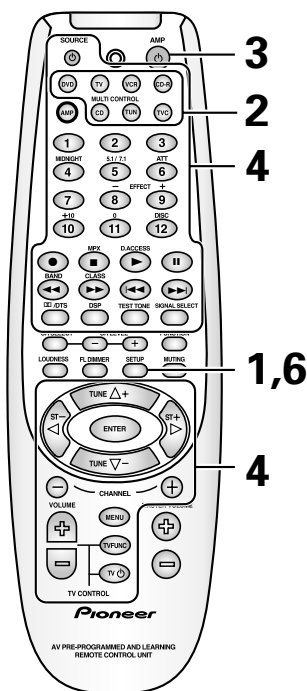
ENTERボタンを
2秒間押し続けます。

プリセットコードをチェックする。

４桁のプリセットコードをリモコンのLEDランプが数字の回数分点滅して知らせてくれます。例えばプリセットコードが1302の場合、まずLEDランプが1回点滅します。その後に3回点滅し、その後に10回点滅し、最後に2回点滅します。

リモコンの設定解除

リモコンのボタンに設定された機能を解除する

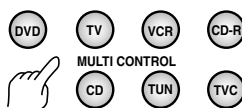
本機のリモコンのボタンに設定された機能を解除する方法について説明します。

1

SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

リモコンのセットアップモードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

2

設定を解除したいボタンのマルチコントロールボタンを選択する。

3

AMP ⏻ ボタンを
3秒以内に2回押す。

リモコンの設定解除モードに入る。

リモコンのLEDランプが点滅します。

4

設定を解除したいボタンを3秒間押し続けます。

リモコンのLEDランプがいったん消灯し、その後再度点滅します。

5

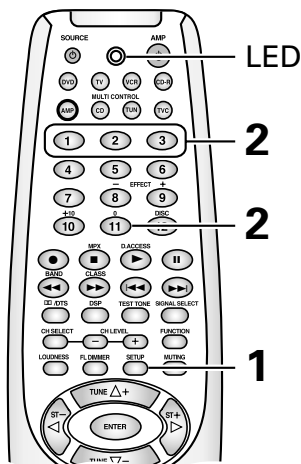
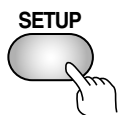
他にも設定を解除したいボタンがある場合は手順4を繰り返します。

6

SETUPボタンを
1秒間押し続けます。

リモコンの設定解除モードを終了する。

リモコンに設定されたすべての機能を解除する

本機のリモコンに設定されたすべての機能を解除する方法について説明します。

1

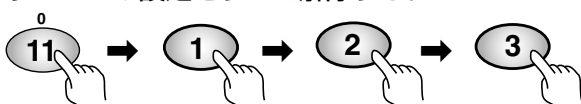
SETUPボタンを
3秒間押し続けます。

リモコンのセットアップモードに入る。

リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

リモコンのセットアップモードを中止するにはSETUPボタンをもう一度押します。

2

リモコンの設定をすべて解除する。

設定されたすべての機能が解除されたときは、リモコンのLEDランプが2秒間点灯します。

他機器の操作一覧表

- 以下の他機器操作を行うには、あらかじめ各機器のプリセットコードを呼び出しておく必要があります。詳しくは「他機器を操作するためのリモコン設定」（50～53ページ）をご覧ください。
- 実際に操作を始める前に、操作したい機器のマルチコントロールボタンを押してください。
- 機種によっては操作できないボタンもあります。
- 各機器の詳しい機能については、各機器の取扱説明書をお読みください。

ボタン	機能	機器の種類
SOURCE ⏻	機器の電源をON/OFFします。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
⏮	再生中に1回押すと現在再生中のトラックの初めに戻ります。繰り返し押すとさらに前のトラックの初めに戻ります。	CD/MD/CD-R/DVD/LDプレーヤー
	チャンネルを1つ下げます。	VCR/DVDレコーダー/TV/サテライトTV/ケーブルTV
	オートリバースデッキの場合、テープをリバース方向(◀)に再生します。	カセットデッキ
⏭	再生中に1回押すと次のトラックの初めに進みます。繰り返し押すとさらに次のトラックの初めに進みます。	CD/MD/CD-R/DVD/LDプレーヤー
	チャンネルを1つ上げます。	VCR/DVDレコーダー/TV/サテライトTV/ケーブルTV
	オートリバースデッキの場合、テープをフォワード方向(▶)に再生します。	カセットデッキ
⏸	再生、録音を一時停止します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
▶▶	押し続けると早送り再生になります。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
◀◀	押し続けると早戻し再生になります。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
▶	再生します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ
■	再生を停止します。（一部のプレーヤーでは停止中に押すと、ディスクテーブルが出てくるものもあります）	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/LD/DVDレコーダー/カセットデッキ

ボタン	機能	機器の種類
数字ボタン	ダイレクトに曲を選曲します。	CD/MD/CD-R/VCR/DVD/ LDプレーヤー
	ダイレクトにチャプター(トラック)を選択します。	DVD/DVDレコーダー
	ダイレクトにチャンネルを選択します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
+10	トラック番号の10の位を選ぶときに使用します。例えば、このボタンを押した後に数字ボタンの3を押すと、トラック番号13が選択されます。	CD/MD/CD-R/VCR/ LDプレーヤー
DISC	このボタンを押した後に数字ボタンを押して、ディスク番号を選択します。	マルチディスクタイプCDプレーヤー
	ディスクをイジェクトします。	MD プレーヤー
	ビデオとTVチューナーを切り換えます。	VCR/ DVDレコーダー
	ディスクのA面とB面を切り換えます。	LD プレーヤー
●	録画します。	VCR/ DVDレコーダー
MENU	DVD、DVRまたはTVなどに登録されている各種メニューを表示します。	DVD/DVDレコーダー/TV/ サテライトTV/ケーブルTV
TOP MENU	タイトルメニュー画面を表示します。	DVD/DVDレコーダー
▲	再生、録音を一時停止します。	カセットデッキ
▼	再生を停止します。	カセットデッキ
ENTER	再生します。	カセットデッキ
◄	テープをリバース方向へ早送りします。	カセットデッキ
►	テープをフォワード方向へ早送りします。	カセットデッキ
◄ ► ▲▼& ENTER	メニュー画面を操作するときに使います。◄ ► ▲▼で選択し、ENTERで決定します。	DVD/DVDレコーダー/TV/ サテライトTV/ケーブルTV
TV ⏻	テレビの電源をON/OFFします。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
TV FUNC	テレビの入力を切り換えます。	TV
VOLUME	テレビの音量を調整します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV
CHANNEL +/–	テレビのチャンネルを選択します。	TV/サテライトTV/ケーブルTV VCR/ DVDレコーダー

その他

故障？ちょっと調べてください

故障かな ？ と思ったら以下を調べてみてください。意外なミスが故障と思われています。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他の機器および同時に使用している電気器具もあわせてお調べください。
以下の項目を調べても直らない場合は、修理を依頼してください(60ページをご覧ください)。

症　状	原　因	対　応
電源が入らない。	主電源ボタンがOFF（■）になっている。	主電源ボタンをON（▁）にする。
本機使用中に電源が切れる。	スピーカーコードの芯線がスピーカー端子からはみ出して、リアパネルに接触しているか、+−が接触し、保護回路が働いている。	スピーカーコードの芯線をもう一度しっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続する。
操作ボタンを押しても動作しない。	空気が乾燥しているとき、静電気などの影響を受けている。	ボタンを繰り返し押す。 電源プラグを一度コンセントから外して、再び差し込む。
入力切換を合わせても、音が出ない。	接続が正しくない。	15〜24ページを参照して、接続を直す。
	ミューティング状態になっている。	リモコンのMUTINGボタンを押す。
	音量が下がっている。	MASTER VOLUMEを調整する。
	MONITORモードがONになっている。	MONITORボタンを押して、MONITORモードをOFFにする。
	スピーカーモードがOFFになっている。	SPEAKERSボタンを押して、接続してあるスピーカーをONにする（44ページ）。
	SIGNAL SELECTボタンの入力信号の選択が正しくない。	SIGNAL SELECTボタンで正しい入力信号を選択する（34ページをご覧ください）。
入力切換を合わせても、映像が出ない。	接続が正しくない。	15〜24ページを参照して、接続を直す。
	入力切換が正しくない。	正しい入力切り換えを設定する（35〜36ページをご覧ください）。
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない。	スピーカーモードが、BまたはA+Bになっている。	SPEAKERSボタンを押して、スピーカーAシステムにする（44ページ）。
	スピーカーの設定が正しくない。	スピーカーを正しく設定する（「スピーカーの設定」（26ページ）をご覧ください）。
	サラウンド、センタースピーカーのレベルが下がっている。	スピーカーのレベルを上げる（「各チャンネルの音量レベルを合わせる」(33ページ)をご覧ください）。
	サラウンド、センタースピーカーの接続が外れている。	スピーカーを正しく接続する（「スピーカーの接続」（21〜22ページ）をご覧ください）。
サブウーファーの音が出ない（または小さい）。	スピーカーの設定によってはサブウーファーから音が出ないことがある。	サブウーファーの設定をPLSまたはONにするか、フロントスピーカーの設定をSMALLにする（26〜27ページ）。
	サブウーファーのレベルが下がっている。	サブウーファーのレベルを上げる(「各チャンネルの音量レベルを合わせる」(33ページ)をご覧ください）。
	サブウーファーの接続が外れている。	サブウーファーを接続する（21ページをご覧ください）。
デジタル機器の音が出ない。	SIGNAL SELECTボタンの入力信号の選択が正しくない。	接続されているデジタル機器に応じて、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALまたはANALOGを選択する（34ページをご覧ください）。
	デジタル入力端子への入力信号の指定が正しくない。または、指定されていない。	接続されている機器に応じて、デジタル入力端子に正しい入力信号を指定する（32、34ページをご覧ください）。

その他

症　状	原　因	対　応
DD/DTSなどのソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	SIGNAL SELECTボタンでANALOGが選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する（18〜19、34ページをご覧ください）。
	使用しているDVDプレーヤーがDTS対応ではない。またはDVDプレーヤーの設定が正しくない。	DVDプレーヤーの取扱説明書を読む。
	デジタル出力レベル調整機能が付いているCDプレーヤーなどの場合、デジタル出力レベルの設定が低すぎる。（DTS信号が正しく読み取れない。）	機器のデジタル出力レベルを上げる。
	スピーカーモードがOFFになっている。	SPEAKERSボタンを押して、スピーカーモードをONにする（44ページ）。
DTS対応のCDプレーヤーでサーチ中にノイズが出る。	サーチ中にCDに含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	故障ではありません。サーチ中はアンプの音量を下げ、スピーカーから出る音を抑える。
DD/DTSなどのLDを再生中にノイズがでる。	SIGNAL SELECTでANALOGが選択されている。	機器を正しくデジタル接続し、SIGNAL SELECTボタンでDIGITALを選択する。（18〜19、34ページをご覧ください）。
DD/DTSなどのソフトを再生しているのに、DTSインジケーターが点灯しない。	再生しているプレーヤーが停止か一時停止の状態になっている。	再生しているプレーヤーの再生を開始する。
	再生しているプレーヤーの音声出力設定が間違っている。	再生しているプレーヤーの音声出力設定を正しく行う。
	再生しているソフトがDTS以外のトラックを再生中である。	再生しているソフトのDTSのトラックを再生する。
リモコンで本機や他機器の操作ができない。	リモコンの電池が消耗している。	電池を交換する（13ページをご覧ください）。
	距離が離れすぎている。角度が悪い。	7m以内、左右30°以内で操作する（14ページをご覧ください）。
	途中に信号を遮る障害物がある。	障害物を取り除くか、操作する場所を移動する。
	蛍光燈などの強い光がリモコン信号受光部に当たっている。	リモコン信号受光部に光が直接当たらないようにする。
SIGNAL SELECTボタンを押しても入力がDIGITALにならない。	接続またはデジタル入力の設定が正しくない。	「接続」と「デジタル入力の設定」を正しく設定する（18〜19、32ページをご覧ください）。
	MONITORモードがONになっている。	MONITORボタンを押してMONITORモードをOFFにする。
ラジオを聞いているときに雑音が多い	<FMの場合>	
	放送局の電波が弱い。	付属のアンテナをFM専用の外部アンテナに交換する（24ページ）。
		MPXボタンを押して、モノラル受信にする（46ページ）。
	他の機器の雑音が入る。（特に自動車が通ると雑音が入る。）	アンテナの取り付ける位置、方向を変えてみる。外部アンテナを使用しているときはアンテナの設置場所を道路から離したり、接続ケーブルを75Wの同軸ケーブルに変えてみる。

その他

症　状	原　因	対　応
ラジオを聞いているときに雑音が多い	<AMの場合>	
	放送局の電波が弱い。	受信状態が一番良い方向にアンテナを向ける。
	付属のAMループアンテナの向きが悪い。	アンテナの方向を変えて、よく聞こえる位置にする。
	他の機器（蛍光灯やモーターを使っている電気製品など）の雑音が入る。	雑音を発生させる機器の使用を止めるまたはその機器とアンテナを遠ざける。
	電波が弱く、アンテナの入力が不足している。	屋外の専用アンテナを設置する（24ページ）。
FM放送がステレオにならない	MPXボタンがONに設定されていてMONOになっている。	MPXボタンを押して、MONOからSTEREOに切り換える（46ページ）。
ディスプレイ表示が暗くて見えにくい。	FL DIMMERボタンによるディスプレイの調整が正しくない。	リモコンのFL DIMMERボタンを押して、ディスプレイの設定を好みの明るさに調整する（44ページ）。

保証とアフターサービス

保証書（別添）

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8 年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店または、お近くのパイオニアサービスステーションをご利用ください。
所在地、電話番号は別添の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

修理を依頼されるとき

58～60ページにしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店、またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 商品名：AVデジタルサラウンド・アンプ
- 型番：VSX-D710S
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容（できるだけ詳しく）
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標（建物や公園など）

■　保証期間中は：
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■　保証期間が過ぎているときは：
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

メーカーコードリスト

メーカーコードはそれぞれ決められたファンクションにのみプリセットすることができます。例えば、TVのメーカーコードはTVまたはTVCのファンクションにのみ設定することができます。以下のリストに設定できるファンクションも記載されていますので、ご参照ください。

テレビ

TV TVC

メーカー名	メーカーコード
PHILIPS	1008, 1017, 1020, 1025, 1104, 1115
SONY	1001, 1007, 1016
PANASONIC	1023, 1054, 1055, 1075, 1076, 1082, 1087, 1121, 1124
TOSHIBA	1015, 1016, 1027, 1031, 1050, 1051, 1085
FUNAI	1059, 1063, 1064, 1089, 1095, 1096
HITACHI	1014, 1016, 1018, 1020, 1021, 1026, 1044, 1046, 1047, 1055, 1069, 1070, 1079, 1081, 1097
SHARP	1016, 1019, 1041, 1056, 1124
NEC	1011, 1013, 1016, 1026, 1058
SAMSUNG	1006, 1011, 1013, 1017, 1026, 1027, 1039, 1062, 1079, 1089, 1092, 1102
MITSUBISHI	1011, 1016, 1041, 1045, 1049, 1062, 1114
GOLDSTAR	1002, 1011, 1013, 1017, 1019, 1026, 1046, 1062, 1079, 1092
VICTOR	1016, 1024, 1053, 1087
JVC	1016, 1024, 1030, 1053, 1065, 1067, 1103, 1122
DAEWOO	1006, 1011, 1017, 1019, 1028, 1040, 1050, 1104, 1110, 1118, 1119
ADMIRAL	1041, 1055, 1075, 1112
ADYSON	1014, 1079
AIKO	1040
AKAI	1013, 1074
AKURA	1080, 1089
ACURA	1006
ALARON	1063, 1078
ALBA	1006, 1016, 1017, 1080, 1103
ALLORGAN	1095
ANAM	1004, 1006, 1029, 1054, 1064, 1087, 1108
ANAM NATIONAL	1054, 1087, 1108
AMBASSADOR	1061
AMERICA ACTION	1064
AMPLIVISION	1079
AMPRO	1126
AMSTRAD	1006, 1017, 1103, 1105
ANITECH	1006, 1029, 1036
AOC	1011, 1013
ARCAM	1078, 1079
ASBERG	1036
ASUKA	1080
ATLANTIC	1073
AUDIOSONIC	1017, 1046
AUDIOVOX	1040, 1064, 1110, 1118
AUTOVOX	1036, 1073
BANG & OLUFSEN	1116
BASIC LINE	1006, 1080
BAYSONIC	1064
BAUR	1007, 1017, 1114, 1115
BEKO	1102
BELCOR	1011
BELL & HOWELL	1009, 1050
BEON	1017
BLAUPUNKT	1066, 1068, 1071, 1075, 1115
BINATONE	1079
BLUE SKY	1080
BLUE STAR	1090
BONDSTEC	1086
BOOTS	1079
BPL	1090
BSR	1095
BRADFORD	1064
BRANDT	1046, 1069, 1070, 1072
BRITANNIA	1078
BROCKWOOD	1011
BROKSONIC	1083, 1112
BTC	1080
BUSH	1006, 1016, 1017, 1080, 1090, 1095, 1103, 1104
CANDLE	1013, 1026
CARNIVALE	1013
CARREFOUR	1016
CARVER	1025, 1058
CASCADE	1006
CATHAY	1017
CENTURY	1075
CENTURION	1017
CELEBRITY	1001
CCE	1017
CGE	1034, 1036, 1038, 1086, 1097
CIMLINE	1006
CINERAL	1040, 1110
CITIZEN	1013, 1019, 1026, 1027, 1040
CLARIVOX	1017
CLATRONIC	1036, 1086, 1102
CME	1007, 1015, 1114
CONCERTO	1026
CONDOR	1098, 1102
CONTEC	1006, 1016, 1064, 1078
CONTINENTAL EDISON	1069, 1070, 1072
CRAIG	1054
CROSLEY	1025, 1034, 1036, 1038, 1075
CROWN	1006, 1017, 1019, 1036, 1064, 1102, 1106
CRYSTAL	1109
CS ELECTRONICS	1078
CTC	1086
CURTIS MATHES	1009, 1013, 1019, 1022, 1023, 1025, 1026, 1027, 1041, 1047, 1050, 1057, 1110, 1113, 1129, 1131
CYBERTRON	1080
CXC	1064
DAINICHI	1077, 1080
DANSAI	1017
DAYTRON	1006, 1011
DECCA	1017, 1032
DE GRAAF	1074
DENON	1047
DIXI	1006, 1017
DUAL TEC	1079
DUMONT	1010, 1011, 1031
DWIN	1125, 1127
ECE	1017
ELBE	1088
ELECTROBAND	1001
ELIN	1017
ELITE	1080, 1098
ELTA	1006
EMERSON	1011, 1018, 1019, 1050, 1061, 1062, 1063, 1064, 1075, 1083, 1090, 1112, 1118, 1119
ENVISION	1013
ERRES	1008, 1017
ETRON	1006, 1120
EXPERT	1073
FERGUSON	1005, 1017, 1033, 1046, 1065, 1084, 1091
FIDELITY	1078
FINLANDIA	1074
FINLUX	1017, 1031, 1032, 1044
FISHER	1050, 1074, 1079, 1096, 1102
FLINT	1111
FORMENTI	1017, 1075, 1098
FORTRESS	1041
FRONTECH	1055, 1086, 1089, 1109
FUJITSU	1032, 1063, 1073
FUTURETECH	1064

その他

Brand	Code
GE	1012, 1022, 1023 1041, 1062, 1090 1110, 1129, 1131
GEC	1017, 1020, 1032 1072, 1079
GELOSO	1006, 1075
GENEXXA	1055, 1080
GIBRALTER	1010, 1011, 1013
GOODMANS	1016, 1017, 1032 1079, 1103, 1104
GORENJE	1102
GPM	1080
GRAETZ	1055
GRANADA	1017, 1032, 1048 1074, 1079, 1100
GRADIENTE	1024, 1026, 1058
GRANDIN	1090
GRUNDIG	1031, 1066, 1068 1072, 1115
GRUNPY	1063, 1064
HALLMARK	1062
HANSEATIC	1017, 1098
HARLEY DAVIDSON	1063
HARVARD	1029, 1064
HARMAN/KARDON	1025
HCM	1006, 1090, 1105
HINARI	1006, 1016, 1017 1080
HISAWA	1090, 1111
HUANYU	1078, 1104
HYPSON	1017, 1089, 1090
ICE	1079, 1089, 1103
ICES	1080
IMPERIAL	1034, 1036, 1038 1086, 1102, 1106
INDIANA	1017
INFINITY	1025
INGELEN	1055
INNO HIT	1032
INNOVA	1017
INTEQ	1010
INTERBUY	1029
INTERFUNK	1017, 1055, 1086 1114
INTERVISION	1017, 1029, 1043 1079, 1089
ISUKAI	1080
ITS	1103
ITT	1055
JBL	1025
JCB	1001
KAISUI	1006, 1078, 1079 1080, 1090,
KAMP	1078
KAPSCH	1055, 1073
KAWASHO	1078
KEC	1064
KENDO	1017
KNEISSEL	1088
KENWOOD	1011, 1013
KINGSLEY	1078
KONIG	1114
KORPEL	1017
KOYODA	1006
KTV	1013, 1019, 1064
LEYCO	1017, 1032, 1089 1095
LG	1026
LIESENK&TTER	1017
LLOYTRON	1014
LOEWE	1035, 1114
LOGIK	1009
LUMA	1073
LUXMAN	1026
LXI	1022, 1025, 1050 1051, 1062
M ELECTRONIC	1006, 1017, 1029 1044, 1046, 1055 1079, 1091, 1104
MAGNAVOX	1013, 1016, 1025 1063
MAGNADYNE	1043, 1086
MAGNAFON	1036, 1043, 1075
MAJESTIC	1009
MANESTH	1079, 1089, 1098
MARANTZ	1013, 1017, 1025
MARK	1017
MATSUI	1006, 1015, 1016 1017, 1032, 1074, 1079, 1095, 1103
MATSUSHITA	1087
MCMICHAEL	1020
MEDIATOR	1008, 1017
MEGATRON	1047, 1062
MEMOREX	1006, 1009, 1026 1049, 1050, 1062 1087, 1112
METZ	1075
MGA	1011, 1013, 1049 1062
MIDLAND	1010, 1019, 1022 1023
MINERVA	1031, 1115
MINOKA	1105
MINUTZ	1012
MIVAR	1078, 1092, 1093 1094
MOTION	1036
MOTOROLA	1041
MTC	1011, 1013, 1026 1027, 1078, 1114
MULTITECH	1006, 1036, 1043 1064, 1078
NAD	1051, 1057, 1062
NECKERMANN	1017, 1066, 1075 1115
NEI	1017, 1109
NETSAT	1017
NICAMAGIC	1078
NIKKAI	1014, 1015, 1017 1032, 1078, 1080 1089
NIKKO	1013, 1040, 1062
NOBLIKO	1036, 1043
NORDMENDE	1046, 1069, 1070 1075, 1091
NTC	1040
OCEANIC	1055, 1077
ONWA	1064
OPTIMUS	1050, 1057, 1087
OPTONICA	1041, 1056
ORION	1017, 1063, 1083 1095, 1098, 1099 1112
OSAKI	1014, 1032, 1079 1080, 1089, 1105
OSO	1080
OSUME	1014, 1032, 1052
OTTO	1007, 1114
OTTO VERSAND	1007, 1016, 1017 1066, 1075, 1079 1098, 1115
PALLADIUM	1102, 1106
PANAMA	1079, 1089
PATHE MARCONI	1069, 1070, 1072
PATHE CINEMA	1075, 1078, 1084 1098
PAUSA	1006
PENNEY	1003, 1011, 1012 1013, 1019, 1022 1023, 1026, 1027 1051, 1062, 1131
PERDIO	1098
PHAPSODY	1078
PHASE	1014
PHILCO	1011, 1013, 1025 1034, 1036, 1038 1047, 1075, 1086 1112
PHONOLA	1008, 1017
PILOT	1011, 1013, 1019
PORTLAND	1011, 1019, 1040
PRISM	1023
PROFEX	1006, 1037
PROLINE	1099
PROSOCAN	1022
PROTECH	1006, 1017, 1043 1079, 1086, 1089 1106, 1109
PROTON	1062, 1113
PULSAR	1010, 1011
PYE	1008
QUASAR	1023, 1056, 1087
QUELLE	1007, 1017, 1031 1034, 1038, 1071 1075, 1097, 1114 1115
QUESTA	1016
R-LINE	1017
RADIOLA	1008, 1017
RANK ARENA	1016
RBM	1031
RCA	1011, 1018, 1022 1023, 1039, 1041 1128, 1129, 1130 1131, 1132
REALISTIC	1011, 1013, 1019 1026, 1050, 1056 1062, 1064
REX	1055, 1073, 1088 1089
REVOX	1017
ROADSTAR	1006, 1080, 1089 1106
RUNCO	1010, 1013, 1117
SABA	1035, 1046, 1055 1069, 1070, 1072 1075, 1091
SACCS	1084
SAISHO	1006, 1089, 1109
SALORA	1055
SAMBERS	1036, 1043, 1075
SAMPO	1013, 1019
SAMSUX	1019
SANDRA	1078
SANSEI	1110
SANSUI	1112
SANYO	1016, 1032, 1048 1050, 1052, 1074 1075, 1100
SBR	1008, 1017, 1020
SCHNEIDER	1017, 1080, 1086 1096, 1103
SCIMITSU	1011
SCOTCH	1062
SCOTT	1011, 1062, 1063 1064, 1083

SEARS	1022, 1025, 1026, 1050, 1051, 1059, 1062, 1063
SEG	1016, 1036, 1079, 1089
SEI	1043, 1075, 1095
SEI-SINUDYNE	1007
SELECO	1055, 1073, 1088
SEMIVOX	1064
SEMP	1051
SENTRA	1015
SHOGUN	1011
SHORAI	1095
SSS	1011, 1064
SIAREM	1043, 1075
SIEMENS	1017, 1052, 1066, 1068, 1071, 1075, 1115
SINDYNE	1043, 1075, 1095
SIGNATURE	1009
SILVER	1016
SKY	1017
SKY-WORTH	1017
SOLAVOX	1014, 1055
SONITRON	1074
SONOKO	1006, 1017
SONOLOR	1055, 1074, 1077
SONTEC	1017
SOUNDESIGN	1062, 1063, 1064
SOUNDWAVE	1017, 1106
SQUAREVIEW	1059
STANDARD	1006, 1079, 1080
STARLITE	1064
STERN	1055, 1073, 1088
SUNKAI	1095, 1099
SUPERTECH	1078
SUPREME	1001
SUSUMU	1080
SYLVANIA	1013, 1025
SYMPHONIC	1059
SYSLINE	1017
TANDY	1032, 1041, 1055, 1079, 1080
TASHIKO	1016, 1020, 1079
TEC	1079, 1086
TECHNEMA	1098
TECHNICS	1023, 1087, 1121
TECHNOL ACE	1063
TECHWOOD	1023, 1026
TEKNIKA	1009, 1011, 1019, 1025, 1026, 1027, 1040, 1049, 1063, 1064
TELEAVIA	1072
TELEFUNKEN	1005, 1026, 1034, 1038, 1042, 1046, 1075, 1097
TELEMEISTER	1098
TELETECH	1006
TELETON	1016, 1073, 1079
TENSAI	1080, 1095, 1098
TEXET	1078, 1080
THOMSON	1046, 1069, 1070, 1072, 1091
THORN	1015, 1017, 1032, 1034, 1038, 1065, 1067, 1114
TMK	1026, 1061, 1062
TOMASHI	1090
TOTEVISION	1019
TRIUMPH	1085
TUTUNG	1017, 1032, 1079
UHER	1073, 1096, 1098
ULTRA	1067
ULTRAVOX	1043
UNIVERSUM	1017, 1044, 1089, 1102
VECTOR RESEARCH	1013
VESTEL	1017
VIDEOSAT	1086
VIDEOTECHNIC	1079
VIDIKRON	1025
VIDTECH	1011, 1016, 1062
VISION	1098
VOXSON	1055
WALTHAM	1079
WATSON	1017, 1098
WATT RADIO	1043
WARDS	1009, 1011, 1012, 1013, 1025, 1026, 1056, 1062, 1063
WEGA	1016
WHITE WESTINGHOUSE	1017, 1078, 1098, 1112, 1118, 1119
YAMAHA	1011, 1013
YOKO	1017, 1079, 1101, 1109
ZANUSSI	1073
ZENITH	1009, 1010, 1040, 1112
PIONEER	1018, 1046, 1055, 1057, 1060, 1091, 1107, 1123, 1124

MDプレーヤー

メーカー名	メーカーコード
SONY	5401
KENWOOD	5402,5407
SHARP	5403
ONKYO	5404
ORION	5406
DENON	5405
PIONEER	5408

LDプレーヤー

メーカー名	メーカーコード
AKAI	5222
BBK	5224
CYRUS	5207
DENON	5202
DISCO VISION	5201
FUNAI	5217
HITACHI	5201
HONG DENG	5213
IDALL	5219
KEBAO	5215
MARANTZ	5203, 5205
MITSUBISHI	5202
NAD	5202
PANASONIC	5210
PHILIPS	5203, 5207, 5209
RADIOLA	5207
ROWA	5212
SALORA	5203
SEGA	5201
SHARP	5221
SHINCO	5211
SMC	5220
SONY	5204, 5206, 5216, 5218
SUPER	5215
TELEFUNKEN	5202
TOSHIBA	5223
PIONEER	5201,5202, 5208, 5214

CDプレーヤー

メーカー名	メーカーコード
AIWA	5016, 5021
AKAI	5014, 5020, 5032
ANAM	5041
ARCAM	5021
AUDIOLAB	5021
AUDIOMECA	5021
AUDIO TON	5021
BESTAR	5022
BURMESTER	5045
CALIFORNIA AUDIO LABS	5004
CARVER	5021, 5025, 5046
CONDOR	5018, 5022
CURTIS MATHES	5004
CYRUS	5021
DENON	5002, 5006, 5040, 5060
DKK	5001
DUAL	5031
DYNAMIC BASS	5025
EMERSON	5038
EROICA	5053, 5054
FANTASIA	5051
FISHER	5024, 5025
GARRARD	5044, 5045
GENEXXA	5005, 5038
GOLDSTAR	5043, 5051
GRUNDIG	5021
HARMAN/KARDON	5021, 5023
HITACHI	5005
INKEL	5015, 5026, 5046
JVC	5011
KENWOOD	5003, 5008, 5029, 5056, 5057, 5062
KRELL	5021
LINN	5021
LUXMAN	5036
LXI	5038
MAGNAVOX	5021, 5038
MARANTZ	5004, 5009, 5017, 5021, 5026
MATSUI	5021
MCS	5004
MEMOREX	5022
MERIDIAN	5021
MICROMEGA	5021
MISSION	5021
MITSUBISHI	5014, 5020
MTC	5045
NAD	5001
NAIM	5021
NIKKO	5024, 5041, 5051
NSM	5021
ONKYO	5012, 5013, 5042, 5059
OPTIMUS	5001, 5005, 5008, 5019, 5025, 5038, 5045, 5046, 5048
ORION	5061

その他

PANASONIC	5004, 5037
PARASOUND	5045
PHILIPS	5021, 5055
PMG	5022
POPPY	5022
PROTON	5021
QED	5021
QUAD	5021
QUASAR	5004,
RCA	5010, 5025, 5038
REALISTIC	5025, 5026, 5045
REVOX	5021
ROTEL	5021, 5045
SAE	5021
SANSUI	5021, 5033, 5038
SANYO	5025, 5039
SCHNEIDER	5018
SCOTT	5038
SEARS	5038
SHARP	5008, 5026, 5058
SHERWOOD	5015, 5026, 5031
SONY	5001, 5027, 5050
SOUDESIGN	5019
TASCAM	5045
TEAC	5024, 5026, 5044 5045
TECHNICS	5004, 5034, 5037
THORENS	5021
TOSHIBA	5049
UNIVERSUM	5021
YAMAHA	5007, 5028
YORX	5047
VICTOR	5011
WARDS	5010, 5021
PIONEER	5005, 5030, 5035 5038, 5048, 5052 5063

テープデッキ

メーカー名	メーカーコード
ADC	6013
AIWA	6002, 6022, 6017 6018
AKAI	6015, 6016
ANAM	6035
ARCAM	6005
CARVER	6002, 6028
DENON	6005, 6039
DUAL	6037
DYNAMIC BASS	6028
EROICA	6041
FISHER	6028
GARRARD	6036
GOLDSTAR	6036
GRUNDIG	6002
HARMON/KARDON	6002, 6014
INKEL	6003
JVC	6027, 6030, 6031
KENWOOD	6003, 6004, 6019 6024, 6025
KYOCERA	6013
LOTTE	6034
LUXMAN	6029
MAGNAVOX	6002
MARANTZ	6002
MEMOREX	6008, 6009
MITSUBISHI	6016
NAKAMICHI	6020
NIKKO	6035
OLYMPUS	6029
ONKYO	6010, 6011, 6032
OPTIMUS	6001, 6021
PANASONIC	6023
PHILIPS	6002
RCA	6028
RENAISSANCE	6040
REVOX	6002
SAMSUNG	6038
SANSUI	6002
SANYO	6028
SHARP	6019
SONIC	6036
SONY	6012, 6026, 6033
TEAC	6038
TECHNICS	6023
THORENS	6002
VICTOR	6027, 6030
WARDS	6001
YAMAHA	6006, 6007, 6019
PIONEER	6001, 6008, 6009 6021,

DVDプレーヤー

メーカー名	メーカーコード
TOSHIBA	5302
SONY	5306
PANASONIC	5301, 5322
KENWOOD	5307
JVC	5311, 5318
SAMSUNG	5313
AKAI	5316
HARMAN/KARDON	5314
MAGNAVOX	5302
MITSUBISHI	5303
ONKYO	5302, 5317, 5319
PROSCAN	5304
RCA	5304
SHARP	5320
THETA DIGITAL	5312
TECHNICS	5301
THOMSON	5310
YAMAHA	5301, 5309
PHILIPS	5302, 5308
ZENITH	5302, 5315
PIONEER	5305, 5312, 5321 5322

アンプ

メーカー名	メーカーコード
AUDIOLAB	8005
DENON	8002
GRUNDIG	8005
MARANTZ	8005
MICROMEGA	8005
PHILIPS	8005
PIONEER	8004
REVOX	8005
TANDBERG	8003
THORENS	8005
YAMAHA	8001, 8006

MISC AUDIO

メーカー名	メーカーコード
JERROLD	8201, 8203
STARCOM	8201
SCIENTIFIC ATLANTA	8202

レシーバー

メーカー名	メーカーコード
ADC	7042
AIWA	7012, 7023, 7031 7055, 7064
AKAI	7011, 7027
ANAM	7010, 7046
ARCAM	7018, 7048
AUDIOLAB	7059
CAPETRONIC	7042
CARVER	7055, 7059
CURTIS	7008
DAEWOO	7032
DENON	7001, 7056, 7058
DUAL	7040
EROICA	7005
FANTASIA	7037
FERGUSON	7042
FINE ARTS	7059
FISHER	7028
GARRARD	7032, 7034, 7035
GOLDSTAR	7010
GOODMANS	7027
GP AUDIO	7033
GRUNDIG	7018, 7059
HARMAN/KARDON	7009, 7051
INKEL	7038, 7040
JBL	7009
JVC	7007, 7036, 7042
KENWOOD	7003, 7017, 7025 7026, 7044, 7053 7063, 7066
LOTTE	7037, 7039
LUXMAN	7021
MAGNAVOX	7030, 7042, 7055 7059
MARANTZ	7004, 7018, 7055 7059
MCINTOSH	7020
MCS	7004
MCSILVER	7037
MICROMEGE	7018, 7059
NIKKO	7032, 7037, 7046
OPTIMUS	7017, 7034, 7042 7049, 7052
ONKYO	7013, 7029
PALLADIUM	7050
PANASONIC	7004, 7024, 7041
PHILIPS	7018, 7030, 7045 7048, 7051, 7055 7059
PHONOTREND	7038
QUASAR	7004
RCA	7006, 7042
RENAISSANCE	7043
REVOX	7018
ROADSTAR	7027
SABA	7042
SAISHO	7027
SAMSUNG	7010
SANSUI	7027, 7055
SANYO	7028

SCHNEIDER	7042
SHARP	7017
SHERWOOD	7038
SOUNDESIGN	7049
SONY	7015, 7054, 7057, 7060
TAE KWANG	7034
TEAC	7010, 7035
TECHNICS	7004, 7062, 7065
TELEFUNKEN	7019, 7024, 7041, 7061, 7062, 7065
THORENS	7018, 7059
UHER	7027, 7042, 7050
VICTOR	7007
WARDS	7002, 7006, 7008
YAMAHA	7016, 7017
PIONEER	7002, 7008, 7014, 7022, 7042, 7047, 7050, 7052

ビデオデッキ VCR

メーカー名	メーカーコード
PHILIPS	2015, 2035, 2074, 2075
PANASONIC	2015, 2042, 2053, 2054, 2055, 2087
THOMSON	2021, 2064, 2074
SONY	2001, 2009, 2012, 2013, 2014, 2015
JVC	2008, 2021, 2033, 2049, 2050, 2074, 2080
GRUNDIG	2003, 2005, 2007, 2010, 2034, 2035, 2048, 2050, 2054, 2069, 2071, 2075
AKAI	2021, 2029, 2038, 2060, 2063
HITACHI	2001, 2004, 2021, 2022, 2043, 2056, 2057
TOSHIBA	2021, 2023, 2024, 2035, 2074
MITSUBISHI	2023, 2027, 2033, 2035, 2045
SHARP	2027, 2073
ORION	2002, 2004, 2016, 2036, 2046, 2052, 2070, 2072, 2078
SANYO	2025, 2026, 2037, 2057
FERGUSON	2021, 2039, 2064, 2065
BLAUPUNKT	2003, 2005, 2010, 2014, 2041, 2042, 2048, 2054, 2055, 2075
NOKIA	2025, 2037, 2038, 2057
ADMIRAL	2027, 2052
ADVENTURA	2001
AIKO	2059
AIWA	2001, 2017, 2062, 2070, 2072
AKIBA	2034
ALBA	2011, 2034, 2052, 2059, 2063, 2072
AMBASSADOR	2011
AMERICA ACTION	2059
AMERICAN HIGH	2015
AMSTRAD	2001, 2059, 2067, 2068
ANAM	2017, 2042, 2054, 2057, 2059, 2082, 2084
ANAM NATIONAL	2042, 2054, 2087
ANITECH	2034
ASA	2017, 2035
ASHA	2057
ASUKA	2017
AUDIOVOX	2017
BAIRD	2001, 2021, 2037, 2039
BASIC LINE	2011, 2034, 2059
BEAUMARK	2057
BELL & HOWELL	2037
BRANDT	2047, 2064, 2065
BRANDT ELECTRONIC	2021
BROKSONIC	2002, 2040, 2046, 2052, 2078
BUSH	2034, 2052, 2059, 2072
CALIX	2017
CANON	2015
CAPEHART	2011
CARVER	2035
CATRON	2011
CCE	2034, 2059
CGE	2001
CIMLINE	2034
CINERAL	2059
CITIZEN	2017, 2059
CLATRONIC	2011
COLT	2034
COMBITECH	2072
CONDOR	2011
CRAIG	2017, 2026, 2034, 2057, 2058
CROWN	2011, 2034, 2059
CURTIS MATHES	2015, 2021, 2032, 2042
CYBERNEX	2057
CYRUS	2035
DAEWOO	2011, 2024, 2025, 2059, 2083
DANSAI	2034
DAYTRON	2011
DECCA	2001, 2035
DE GRAAF	2022, 2043
DENON	2022
DUAL	2021
DUMONT	2001, 2035, 2037
DYNATECH	2001
ELBE	2018
ELCATECH	2034
ELECTROHOME	2017
ELECTROPHONIC	2017
EMEREX	2012
EMERSON	2001, 2002, 2017, 2023, 2040, 2046, 2051, 2052, 2059, 2078, 2083
ESC	2057, 2059
FIDELITY	2001
FINLANDIA	2035, 2037
FINLUX	2001, 2022, 2035, 2037
FIRSTLINE	2017, 2023, 2024, 2034, 2052
FISHER	2025, 2026, 2030, 2037
FRONTECH	2011
FUJI	2015
FUNAI	2001
GARRARD	2001
GE	2015, 2027, 2032, 2057
GEC	2035
GENERAL	2011, 2028
GOLDHAND	2034
GOLDSTAR	2017, 2018, 2053, 2079
GOODMANS	2001, 2017, 2034, 2059, 2075
GO VIDEO	2077, 2081
GRAETZ	2005, 2021, 2037, 2057
GRANADA	2025, 2035, 2037
GRADIENTE	2001, 2008
GRANDIN	2001, 2017, 2034
HANSEATIC	2017
HARMAN/KARDON	2018, 2035
HARLEY DAVIDSON	2001
HARWOOD	2034
HCM	2034
HEADQUARTER	2025
HINARI	2004, 2034, 2057, 2072
HI-Q	2026
HUGHES NETWORK SYSTEMS	2022
HYPSON	2034
IMPERIAL	2001
INGERSOL	2004
INTERFUNK	2035
ITT	2005, 2021, 2025, 2037, 2038, 2057, 2074
ITV	2017, 2059
JENSEN	2021
KAISUI	2034
KEC	2017, 2059
KENDO	2038, 2052
KENWOOD	2018, 2021, 2033
KLH	2034
KODAK	2015, 2017
KORPEL	2034
LAYCO	2034
LENCO	2059
LG	2079
LLOYD'S	2001, 2051
LOEWE	2004, 2005, 2017, 2035
LOGIK	2004, 2034, 2057
LUXOR	2023, 2025, 2027, 2037, 2038
LXI	2017
M ELECTRONIC	2001
MAGNASONIC	2059
MAGNAVOX	2001, 2015, 2019, 2035
MAGNIN	2057
MANESTH	2024, 2034
MARANTZ	2003, 2005, 2015, 2035
MARTA	2017
MATSUI	2004, 2016, 2036, 2052, 2070, 2072
MATSUSHITA	2015, 2042, 2055
MEI	2015
MELECTRONIC	2018

その他

MEMOREX	2001, 2015, 2017, 2019, 2025, 2026, 2027, 2037, 2052, 2057, 2062, 2085, 2087, 2088
MEMPHIS	2034
METZ	2003, 2005, 2017, 2042, 2048, 2055, 2069
MGA	2023, 2057
MGN TECHNOLOGY	2057
MINCRVA	2048
MINERVA	2005, 2010, 2048
MINOLTA	2022
MOTOROLA	2015, 2027
MTC	2001, 2057
MULTITECH	2001, 2034
MURPHY	2001
NAD	2031
NATIONAL	2054
NEC	2018, 2020, 2021, 2033, 2037
NECKERMANN	2035
NESCO	2034
NIKKO	2017
NIKON	2014
NOBLEX	2057
NOKIA	2021, 2025, 2037, 2038, 2057
NORDMENDE	2021, 2061, 2064, 2065, 2074
OCEANIC	2001, 2021
OKANO	2063, 2070
OLYMPUS	2015, 2054
OPTIMUS	2017, 2027, 2031, 2037, 2042, 2077, 2086, 2087, 2088
OSAKI	2001, 2017, 2034
OTTO VERSAND	2035
PALLADIUM	2005, 2017, 2021, 2034
PATHE MARCONI	2021
PATHE CINEMA	2016
PENTAX	2022
PENNY	2015, 2017, 2018, 2020, 2022, 2057
PERDIO	2001
PHILCO	2015, 2018, 2052, 2078
PHONOLA	2035
PILOT	2017
PORTLAND	2011
PROFEX	2066
PROFITRONIC	2057
PROLINE	2001
PROSCAN	2032
PROTEC	2034
PULSAR	2019
PYE	2035
QUARTER	2025
QUARTZ	2025
QUASAR	2015, 2042, 2087
QUELLE	2035
RADIO SHACK	2001, 2085
RADIOLA	2035
RADIX	2017
RANDEX	2017
RCA	2015, 2022, 2027, 2032, 2038, 2057
REALISTIC	2001, 2015, 2017, 2025, 2026, 2027, 2037
REX	2021, 2074
RFT	2075
RICOH	2014
ROADSTAR	2017, 2034, 2057, 2059
RUNCO	2019
SABA	2021, 2049, 2050, 2061, 2064, 2065, 2074
SAISHO	2004, 2016, 2036, 2052
SALORA	2023, 2025, 2038
SANKY	2019, 2027
SANSUI	2001, 2021, 2033, 2052, 2058, 2078
SAMSUNG	2024, 2057, 2076, 2077
SAVILLE	2072
SBR	2035
SCHAUB LORENZ	2001, 2005, 2021, 2037
SCHNEIDER	2001, 2034, 2035
SCOTT	2023, 2024, 2040, 2046
SEARS	2001, 2015, 2017, 2022, 2025, 2026, 2037
SEG	2057, 2066
SEI	2004, 2035
SELECO	2021
SEMP	2024
SENTRA	2011
SHINTOM	2034, 2037
SHOGUN	2057
SHORAI	2004
SIEMENS	2003, 2005, 2010, 2017, 2030, 2035, 2037, 2048
SILVA	2017
SINGER	2024, 2034
SINUDYNE	2004, 2035
SOLAVOX	2011
SONOLOR	2025
SONTEC	2017
STS	2022
SUNKAI	2070
SUNSTAR	2001
SUNTRONIC	2001
SYLVANIA	2001, 2015, 2023, 2035
SYMHONIC	2001
TASHIKO	2001
TATUNG	2001, 2021, 2035
TEAC	2001, 2021
TEC	2011
TECHNICS	2015, 2042, 2054
TEKNIKA	2001, 2015, 2007, 2017, 2028
TELEAVIA	2021
TELEFUNKEN	2021, 2047, 2058, 2064, 2074
TENOSAL	2034
TENSAI	2001, 2066
THOMAS	2001
THORN	2016, 2021, 2037
TMK	2051, 2057
TOTEVISION	2017, 2057
TOWADA	2066
UHER	2057
UNITECH	2057
UNIVERSUM	2001, 2006, 2010, 2017, 2035, 2038, 2048, 2057, 2067
VECTOR	2024
VECTOR RESEARCH	2018, 2020
VICTOR	2008, 2021, 2033
VIDEO CONCEPTS	2020, 2024
VIDEOSONIC	2057
WARDS	2001, 2015, 2022, 2026, 2027, 2032, 2034, 2035, 2057
WHITE WESTINGHOUSE	2052, 2059
XR-1000	2001
XR-1001	2015
XR-1002	2034
YAMAHA	2018
YAMISHI	2034
YOKAN	2034
YOKO	2011, 2057
ZENITH	2001, 2014, 2019, 2052, 2078
PIONEER	2031, 2033, 2035, 2044, 2056

サテライトチューナー TV TVC

メーカー名	メーカーコード
ABSAT	4006
AST	4027
ALBA	4029, 4034, 4037, 4052
ALDES	4019
AMSTRAD	4003, 4016, 4025, 4038, 4039, 4042
ANKARO	4013, 4019, 4030, 4044
ANTTRON	4009, 4034
ARMSTRONG	4015
ASTRA	4005
ASTRO	4008, 4039, 4045
AVALON	4031
AXIS	4030, 4046
BT	4053
BEKO	4010
BEST	4030
BLAUPUNKT	4008
BOCA	4015, 4043
BRAIN WAVE	4022
BRITISH SKY BROADCASTING	4058
BUSH	4002
CNT	4045
CAMBRIDGE	4024
CANAL SATELLITE	4059
CANAL+	4059
CHANNEL MASTER	4029
COMLINK	4019
CONNEXIONS	4031
CROWN	4015
CYRUS	4011
D-BOX	4054
DDC	4029
DNT	4011, 4031
ECHOSTAR	4031, 4036, 4061
EMANON	4034
FTE HUMAX	4060
FERGUSON	4002, 4009, 4010, 4023
FIDELITY	4016

FINLUX	4005, 4024, 4032 4037
FRACARRO	4061
FREECOM	4034
FUBE	4030, 4031, 4034
G-SAT	4009
GALAXIS	4019, 4057, 4060
GENERAL INSTRUMENT	4012
GOLD BOX	4059
GOODING	4048
GOODMANS	4010
GRUNDIG	4008, 4010, 4048
HINARI	4009
HIRSCHMANN	4008, 4032, 4039 4040, 4049
HITACHI	4037
HOUSTON	4053
HUTH	4013, 4015, 4019 4026
ITT	4005
INVIDEO	4061
INTERVISION	4050
JVC	4048
JOHANSSON	4022
KATHREIN	4004, 4006, 4008 4011, 4035, 4041
KREISELMEYER	4008
KYOSTAR	4034
LA SAT	4043, 4045
LENCO	4034
LENNOX	4050
LUPUS	4030
LUXOR	4005, 4049
MANHATTAN	4037, 4045, 4050
MARANTZ	4011
MASPRO	4004, 4023
MATSUI	4024, 4048
MEDIASAT	4059
MEDIAMARKT	4015
MINERVA	4048
MORGAN'S	4015, 4043
NAVEX	4022
NEUHAUS	4039
NEUSAT	4057
NEWHAUS	4013
NIKKO	4028
NOKIA	4005, 4032, 4037 4049, 4054, 4063
NORDMENDE	4029
ORBITECH	4039
OXFORD	4024
PACE	4002, 4009, 4014 4023, 4037, 4055 4058
PALLADIUM	4048
PALSAT	4039
PANDA	4037
PHILIPS	4007, 4011, 4020 4037, 4048, 4059
PHONOTREND	4019, 4050
PIONEER	4021, 4059
PLANET	4061
PROMAX	4037
PROSAT	4019
QUADRAL	4029, 4044
RADIOLA	4011
RADIX	4031, 4064
RFT	4011, 4013, 4019
SAT	4027, 4038
SABA	4023, 4045
SABRE	4037
SAGEM	4056
SALORA	4005
SATCOM	4026, 4051
SATEC	4009
SATMASTER	4026
SATPARTNER	4022, 4034, 4040 4045
SCHWAIGER	4009, 4041
SEEMANN	4031, 4046
SEG	4030, 4034
SIEMENS	4008
SKYMASTER	4019, 4044, 4051
SONY	4017, 4018
STRONG	4062
SUNSTAR	4043
TPS	4056
TANTEC	4023, 4037
TECHNISAT	4001, 4039
TECHNILAND	4026
TELEFUNKEN	4034
TELEKA	4015, 4052
TELESAT	4051
THOMSON	4037, 4059
TONNA	4026, 4053
TRIAD	4027
TRIASAT	4040
UNITOR	4022
UNIVERSUM	4008, 4049
VENTANA	4011
VORTEC	4034
VTECH	4027
WINERSAT	4022
WISI	4008, 4027, 4031 4037
XSAT	4006, 4065
XCOM MULTIMEDIA	4065
ZEHNDER	4033, 4045, 4047

ケーブルテレビ TV TVC

メーカー名	メーカーコード
ABC	3002, 3003, 3004 3006, 3008
ANDOVER	3037
BELL & HOWELL	3006
BIRGMINGHAM CABLE COMMUNICATION	3020
BRITISH TELECOM	3002, 3012
CABLETIME	3016, 3019, 3025 3029
CONTEC	3009
CLYDE	3011
CRYPTOVISION	3038
DAEHAN	3043
DAERYUNG	3003
DECSAT	3027
EVERQUESST	3007
FILMNET	3028
FRANCE TELECOM	3030
GEC	3011
GEMINI	3007
GENERAL INSTRUMENT	3004, 3020 3031, 3046
GOLDSTAR	3014, 3047
GRUNDIG	3035
HITACHI	3004
JASCO	3007
JERROLD	3002, 3004, 3005 3006, 3007, 3020 3031, 3046
LG ALPS	3044
MEMOREX	3001
MNET	3009, 3028
NOW	3041
OAK	3009
PACIFIC	3039
PANASONIC	3001, 3013
PARAGON	3001
PULSAR	3001
PVP STEREO VISUAL MATRIX	3002
PIONEER	3010, 3014, 3018 3036
QUASAR	3001
RADIO SHACK	3007
REMBRANDT	3004
RUNCO	3001
SAMSUNG	3014, 3040
SATBOX	3024
SIGNAL	3007
SIGNATURE	3004
STS	3015
SALORA	3026
SCIENTIFIC	3003, 3032, 3049
SCIENTIFIC ATLANTA	3003, 3008 3021
SEAWOO	3045
STARCOM	3002, 3007
STARGATE	3007
STARQUEST	3007
TAIHAN	3043
TELESERVICE	3022
TELE+1	3028
TUDI	3023
TUSA	3007
TOCOM	3005
TONGKOOK	3042, 3048
TOSHIBA	3001
UNITED CABLE	3002
VIDEOWAY	3017
VISICABLE+	3033
WESTMINSTER	3012
WOLSEY GENE	3037
ZENITH	3001, 3034

仕様

オーディオ部

実用最大出力（EIAJ、1kHz、10%、6 Ω）
フロント .... 100 W/CH
センター .... 100 W
サラウンド .... 100 W/CH
定格出力（ステレオ動作時）
20 Hz～20 kHz、0.09%、6 Ω .... 70 W＋70 W
入力端子(感度/インピーダンス)
CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO
.... 200 mV/47 kΩ
SN比(IHF、ショートサーキット、Aネットワーク)
CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO .... 98 dB
周波数特性
CD, AUX, VCR/DVR, CD-R/TAPE/MD, DVD/LD, TV/SAT, VIDEO
.... 5 Hz～100,000 Hz $^{+0}_{-3}$ dB
出力端子(レベル/インピーダンス)
VCR/DVR REC, CD-R/TAPE/MD REC
.... 200 mV/2.2 kΩ
トーンコントロール
BASS .... ± 6dB（100 Hz)
TREBLE .... ± 6dB（10 kHz)
LOUDNESS ..... + 9dB/+9dB（100 Hz/10 kHz)

ビデオ部

入力端子(感度/インピーダンス)
VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT、VIDEO
.... 1 Vp-p/75 Ω
出力端子(レベル/インピーダンス)
VCR/DVR .... 1 Vp-p/75 Ω
周波数特性
VCR/DVR、DVD/LD、TV/SAT、VIDEO
→MONITOR .... 5 Hz～10 MHz、$^{+0}_{-3}$ dB
クロストーク(3.58 MHz) .... 55 dB
SN比 .... 65 dB

FMチューナー部

受信周波数 .... 76.0MHz～90.0MHz
実用感度 .... モノ；15.2dBf (1.6µV/75 Ω)
S/N 50dB感度 ...... モノ；20.2dBf (2.8µV/75 Ω)
ステレオ；41.2dBf (31.6µV/75 Ω)
S/N比 (85dBf入力時) .... モノ；76 dB
ステレオ；72 dB
高調波歪率 .... ステレオ；0.5% (1kHz)
実効選択度 .... 65 dB(±400kHz)
ステレオセパレーション .... 40 dB(1kHz)
周波数特性 .... 30Hz～15kHz(±1dB)
アンテナ .... 75 Ω不平衡型

AMチューナー部

受信周波数 .... 522kHz～1,629kHz
実用感度（付属ループアンテナ） 350µV/m
選択度 .... 25 dB
S/N比 .... 50 dB
アンテナ .... ループアンテナ(付属)

電源部・その他

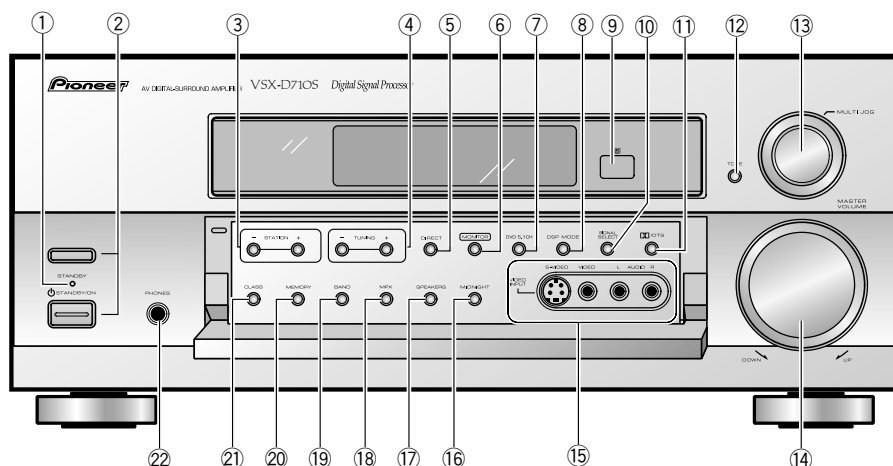
電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力（電気用品取締法） .... 200 W
スタンバイ時消費電力 .... 1 W
電源スイッチ連動 .... 1 (100 W)
外形寸法
.... 420 (幅) × 401 (奥行) × 158 (高さ) mm
質量 .... 8.8 kg

付属品

リモコン 1
単3形乾電池（IEC R6P） 2
AMループアンテナ 1
FMアンテナ 1
取扱説明書 1
安全上のご注意 1
保証書 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内 1

●仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

各部の名称と働き

フロントパネル

① **STANDBYインジケーター**
本機がスタンバイモードにあるとき点灯します。スタンバイ時の消費電力は1Wです。

② **主電源 ■ OFF ▂ ONボタン**
本機を使用するときは、最初にこのスイッチをONにしてください。
⏻STANDBY/ONボタン
本機の電源を入れたり、スタンバイモードにするときに押します。

③ **STATION(+/−)ボタン (P47)**
記憶した放送局を呼び出すときに押します。

④ **TUNE(+/−)ボタン (P45)**
放送局を選択します。

⑤ **DIRECTボタン (P42)**
トーンコントロールやチャンネルレベルなどを通さずにステレオ再生するときに押します。

⑥ **MONITORボタン (P49)**

⑦ **DVD 5.1CHボタン (P43)**
リアパネルのDVD 5.1CH INPUT端子に接続された機器を5.1CHで再生するときに押します。

⑧ **DSP MODEボタン (P40)**
DSPモードを選択するときに押します。

⑨ **リモコン受光部**
本機をリモコンで操作する場合は、ここにリモコンを向けます。

⑩ **SIGNAL SELECTボタン (P34)**
デジタルとアナログの入力を切り換えます。

⑪ **DD/DTSボタン (P35、37〜39)**
このモードを選択すると、自動的に入力信号に合せてドルビーデジタル、ドルビープロロジック、またはDTSモードがONになります。

⑫ **TONEボタン (P41)**
トーンコントロールを調整するときに押します。押すたびにBASSとTREBLEが切り換わります。調整はTONEボタンを押した後にMULTI JOGで行います。

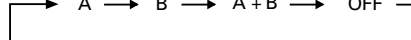
⑬ **MULTI JOG (P41)**
本機の入力を切り換えるときに回します。また、トーンコントロールの調整を行うときにも使います。

⑭ **MASTER VOLUME**
本機の音量を調節するとき回します。

⑮ **VIDEO INPUT端子 (P16)**
S-VIDEO: ビデオカメラやポータブルDVDなどのSビデオ出力を接続します。
VIDEO/AUDIO(L/R): ビデオカメラやポータブルDVDなどの通常の映像、音声出力を接続します。

⑯ **MIDNIGHTボタン (P41)**
ミッドナイトリスニングモードのON/OFFを選択するときに押します。

⑰ **SPEAKERSボタン (P44)**
スピーカーのAとBのシステムを切り換えるとき押します。ボタンを押すたび、以下にように切り換わります。各ファンクションごとに設定することができます。

→ A → B → A+B → OFF ─┘

- B のときは、B システムに接続されているフロントスピーカーからのみ音声が再生されます。
- A + B のときはフロントスピーカーとサブウーファーからのみ音声が再生されます。

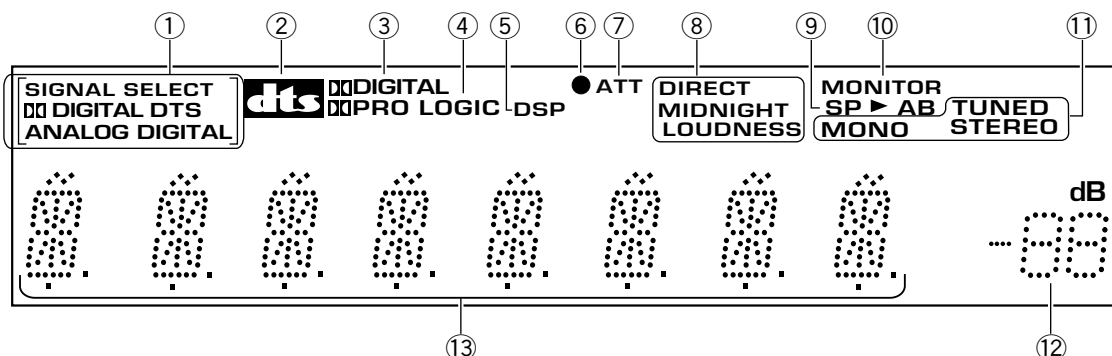
⑱ **MPXボタン (P46)**

⑲ **BANDボタン (P45〜46)**
AMとFMを切り換えるときに押します。

⑳ **MEMORYボタン (P47)**
放送局を記憶するときに押します。

㉑ **CLASSボタン (P47)**
記憶した放送局を呼び出すときに押します。

㉒ **PHONES(ヘッドホン)端子**
ヘッドホンを差し込む端子です。ヘッドホンを使用して、スピーカーからの音を消したいときは、SPEAKERSボタンを押してスピーカーシステムをOFFにしてください。

ディスプレイ

① SIGNAL SELECTインジケーター

ANALOG:アナログ信号が選択されているとき点灯します。

DIGITAL:デジタル音声信号が選択されているとき点灯します。

DD DIGITAL:ドルビーデジタル信号が入力されると点灯します。

DTS: DTS信号が入力されると点灯します。

② DTSインジケーター

DD/DTSモードがONのときにDTS信号が入力されると点灯します。

③ DDDIGITALインジケーター (P35、37〜39)

DD/DTSモードがONのときにドルビーデジタル信号を再生すると点灯します。ただし、2 チャンネル収録のドルビーデジタル信号を再生するとDDPRO LOGICが点灯します。

④ DDPRO LOGICインジケーター

DD/DTSモードがONのときに2チャンネルのソースをドルビープロロジックで再生すると点灯します。(スピーカーB、スピーカーAB、スピーカーオフ時は点灯しません。)

⑤ DSPインジケーター (P40)

DSPモードを選んだときに点灯します。

⑥ オーバーロードインジケーター

アナログ信号が入力されているとき、入力信号のレベルが高すぎると点灯します。

⑦ ATTインジケーター

INPUT ATTがONのときに点灯します(アナログ信号を選択している場合のみ)。

⑧ DIRECTインジケーター (P42)

DIRECTモードが ON のときに点灯します。

MIDNIGHTインジケーター (P41)

ミッドナイトリスニングモードが ON のときに点灯します。

LOUDNESSインジケーター (P42)

ラウドネスがONのとき点灯します。

⑨ スピーカーインジケーター

現在選択されているスピーカーシステム(フロントパネルの、⑮SPEAKERSボタン参照)の表示が点灯します。

SP►A:スピーカーAが選択されているとき点灯します。

SP►B:スピーカーBが選択されているとき点灯します。

SP►AB:スピーカーAB両方が選択されているとき点灯します。

⑩ MONITORインジケーター

⑪ TUNERインジケーター (P45〜47)

MONO:MPXボタンを押してFM受信をモノラルに設定したときに点灯します。

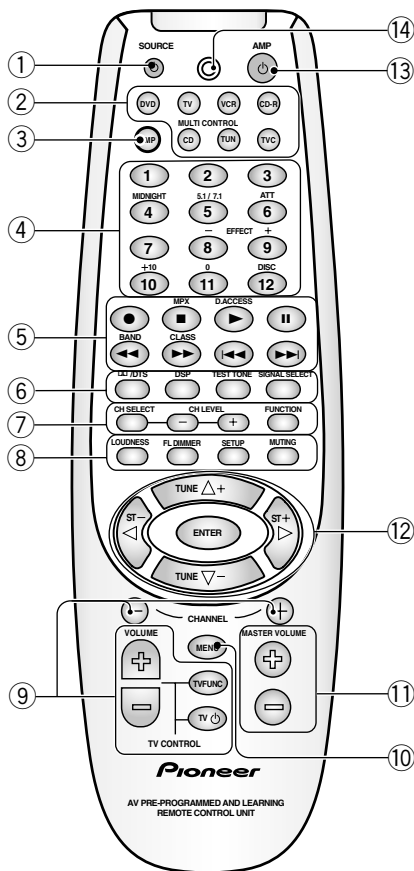
TUNED:ラジオ放送を受信しているときに点灯します。

STEREO:ステレオで受信しているときに点灯します。

⑫ VOLUME(音量レベル)表示部

現在の主音量レベルを表示します。音量レベルは、電源がオフにされても保持されています。−_ _ dBでMINレベルを表わし、0dBでMAXレベルを表わします。

⑬ キャラクター表示部

リモートコントロール

① SOURCE⏻ボタン
他機器の電源ON/OFFを切り換えます。

② マルチコントロールボタン
本機の入力を切り換えるときに押します。また、このリモコンで他機器を操作するときに押します。

③ AMPボタン
リモコンをアンプ操作モードにします。

④ 数字/アンプ操作ボタン
MIDNIGHT (P41)
小音量でも音楽や映画のサラウンドサウンドを効果的に補正します。
5.1/7.1 (P43)
DVD/LDとDVD 5.1chを切り換えます。
ATT(INPUT ATT)
アナログ信号入力時、過大入力により音に歪みが生じたとき(オーバーロードインジケーターが頻繁に点灯したとき)にONにすると入力信号のレベルが下がり、音が聴きやすくなります。
EFFECT +/－ボタン (P39、40)
サラウンドモードの効果を調整するときに押します。

⑤ 他機器操作ボタン
「②マルチコントロールボタン」で選択した他機器の操作をするときに押します。

⑥ DD /DTSボタン (P35、37〜39)
DD/DTSモードを選択します。
DSPボタン (P40)
音場を切り換えます。
TEST TONEボタン（DD/DTSモード時）(P33)
ONにすると、スピーカーの設定モードで設定したスピーカーから順番に音量バランス調整用信号(「ザー」という音)が出力されます。
SIGNAL SELECTボタン (P34)
アナログ入力とデジタル入力を切り換えます。

⑦ CH SELECTボタン (P33)
レベル調整するスピーカーを選びます。
CH LEVEL +/－ボタン (P33)
各スピーカーのレベルを調整します。
FUNCTIONボタン
再生するソースを選択するとき押します。ボタンを押すたびに順次再生できるソースが切り換わります。

⑧ LOUDNESSボタン (P42)
ラウドネスをONにすると、低音域、高音域のレベルを上げることで、小さい音量でも音が聴きやすくなります。
FL DIMMERボタン (P44)
4段階でディスプレイの明るさを調整します。
SETUPボタン (P50〜56)
リモコンをセットアップモードにするときに押します。
MUTINGボタン
音を一時的に消す(ミュートする)ときに押します。もう一度押すとミュートは解除されます。

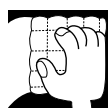
⑨ TV CONTROLボタン
テレビを操作するときに押します。
TV⏻
テレビの電源をONまたはスタンバイ(OFF)にするとき押します。
TV FUNC
テレビの入力を切り換えます。
CHANNEL(+/－)
テレビのチャンネルを切り換えます。
VOLUME(+/－)
テレビの音量を調節するとき押します。

⑩ MENUボタン
各種メニュー画面を表示するときに押します。

⑪ MASTER VOLUME +/－ボタン
本機の音量を調節するとき押します。

⑫ ▲/▼/◄/►/ENTERボタン
各種設定、メニュー画面で項目を選択、決定したり、レベルを上げ下げするとき押します。

⑬ AMP ⏻ ボタン
本機の電源ONとSTANDBY/ONを切り換えます。

⑭ LEDランプ
リモコンから信号が送られているときに点灯します。

お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、貴方の心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

お客様ご相談窓口(全国共通フリーフォン)

カスタマーサポートセンター

● 家庭用ｵｰﾃﾞｨｵ／ﾋﾞｼﾞｭｱﾙ製品のお問合わせ窓口　0070-800-8181-22

● カタログのご請求窓口　0070-800-8181-33

＜ご注意＞ ● ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。予めご了承ください。
● 修理に関しては別添の『ご相談窓口・修理窓口のご案内』をご参照ください。

※ホームページでのカタログ請求とメールサービス登録のご案内

http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg.html

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか
・電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。
・電源コードにさけめやひび割れがある。
・電気が入ったり切れたりする。
・本体から異常な音、熱、臭いがする。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または当社サービスステーションに点検（有料）をご依頼ください。

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<TNGZW/00E00001>　<XRA3004-B>